

令和6年度
鴨川市まちづくりアンケート
調査結果報告書

令和7年3月

鴨 川 市

目 次

I	アンケート調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	実施内容	1
3	調査方法	1
4	回収結果	1
5	報告書の見方	1
II	調査結果	3
(1)	回答者の属性	3
(2)	市の取り組み	7
(3)	幸福度	16
(4)	町内の人々の幸福度	18
(5)	身近な周りの人の楽しい気持ち	20
(6)	誇りや愛着の有無	22
(7)	鴨川市の住みやすさ	25
(8)	定住意向	28
(9)	住んでいる地域での暮らしの満足度	31
(10)	地域の住み心地について	33
(11)	行政サービスのデジタル化で実現してほしいこと	50
(12)	市内で生活していて不便に感じていることや困っていること	52
(13)	結婚の有無	55
(14)	結婚していない理由	56
(15)	将来の結婚意向	58
(16)	理想とする子どもの人数	60
(17)	現実には持てると思う子どもの人数	60
(18)	子育てしやすい環境をつくるためにあればいいと思う支援	61
(19)	子育てしやすいまちになるために重要だと思うこと	63
(20)	市の人口が減少することについて	65
(21)	市の魅力や誇りと感じ、まちづくりに生かしていくべき持ち味と思うもの	67
(22)	将来どのようなまちになったら良いか	69
(23)	市が特に力を入れる必要があると思う取り組み	72
(24)	市の「強み」と「課題」(自由記述)	76
(25)	市が今後目指すべきまちづくりの方向性や人口減少への対応の提案(自由記述)	84
(26)	災害発生に備えて準備しているもの	90
(27)	災害発生時、被害を軽減するためにとる対応として重要だと思うこと	91
(28)	災害発生時に、行政以外に頼れる組織	92
(29)	災害が発生し、近所で助け合いが必要となったとき自分にできること	93
(30)	災害が発生した場合の緊急避難場所や一番近い避難所の場所の認知度	95

(31) 台風などによる災害時に不安に感じたこと	99
(32) 自由意見	100
Ⅲ 使用した調査票	108

I アンケート調査の概要

1 調査の目的

現行の総合計画が令和7年度をもってその終期を迎えることから、これまでの取組による成果等を総括しながら、現下の社会情勢を踏まえた課題に的確に対応し、本市の地域特性および地域資源を最大限に活用した積極的な施策展開を図っていくにあたり、市民の意識・ニーズ等を把握・集約し、令和8年度を初年度とする新たな総合計画に反映させるための基礎資料とすることを目的としています。

2 実施内容

- (1) 調査地域 鴨川市全域
- (2) 調査対象 鴨川市在住の16歳以上の市民
- (3) 標本数 3,000 サンプル(人)
- (4) 調査対象者の抽出 住民基本台帳より無作為抽出法
- (5) 調査期間 令和6年12月11日(水)～令和7年1月6日(月)
(調査期間後に郵送で届いた調査票についても、できる限り反映させた)
- (6) 調査機関 (株)サーベイリサーチセンター

3 調査方法

郵送配布、郵送またはインターネットによる回答

4 回収結果

- (1) 標本数 3,000 人
- (2) 有効回収数 1,013 票 有効回収率 33.8%
 - 回答方法別
 - (郵送 702 票 構成比 69.3%)
 - (オンライン 311 票 構成比 30.7%)

5 報告書の見方

- (1) 回答の比率(%)はすべて百分比で表し、小数点第2位を四捨五入しました。そのため、百分比の合計が100%に満たない、または上回ることがあります。
- (2) 問1の〈居住地域の評価〉における【そう思う(計)】のように、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」等の2つ以上の選択肢を合わせた項目の比率を表記する場合、その比率は、それぞれの選択肢の実数値を合計して、比率を再計算したものを使用しているため、グラフ又は数値表に表記された単純集計値(一選択肢の値)の合計とは異なる場合があります。

- (3) 複数回答の設問は、各選択肢を1つだけでなく、2つ以上選択するため、各選択肢の合計値が100%を超える場合があります。
- (4) グラフ・数表上の選択肢表記は、場合によっては語句を簡略化しています。
- (5) 集計は、単純集計、フェイスシートとのクロス集計、設問間クロス集計の3種類を行いました。
- (6) 性・年代別などのクロス分析の場合、分析軸の「その他」、「無回答」を掲載していないため、調査回答者全員の人数より少なくなることがあります。
- (7) クロス集計において、回答対象者の属性毎のサンプル数が30を下回る場合は、誤差が大きくなるため、原則的に参考値としての掲載としています。
- (8) 主に複数回答のクロス集計の結果は表で示しています。その表では、各層（＝〇〇歳代など）で最も高い割合を■で網掛けをしています。（設問の「無回答」や「その他」、分析の軸でnが30を下回る層を除きます）
- (9) 分析の軸が対になっている項目（例：性別など）やある層とある層の比較では、割合の差を記述していることがあります。その表現は％ではなく、ポイントで表すこととし、小数点以下第2位を四捨五入しています。
- (10) 全体（母集団）の中から一部を抽出して行う標本調査では、「標本誤差」と「非標本誤差」といった誤差が生じます。「標本誤差」は確率論的に計算することが可能ですが、条件により大きさが変化する性質があります（回答者数（標本数）が少ないほど大きく、また、回答割合が50%に近いほど大きい）。本調査では、わかりやすきの観点から、割合の差は統一的に±3.0ポイント差以上であることを目安に言及することとしました（最大値と最小値を比べる場合は、±10.0ポイント差以上を目安としています）。
- (11) 統計数値を記述するにあたり、ある群とある群をまとめて表現する際などで、割での表記を用いている場合があります。その際の目安は、おおむね以下のとおりとしています。また、群同士の割合の状況に応じて、○割台、○割以上、○割前後などと表現することもあります。

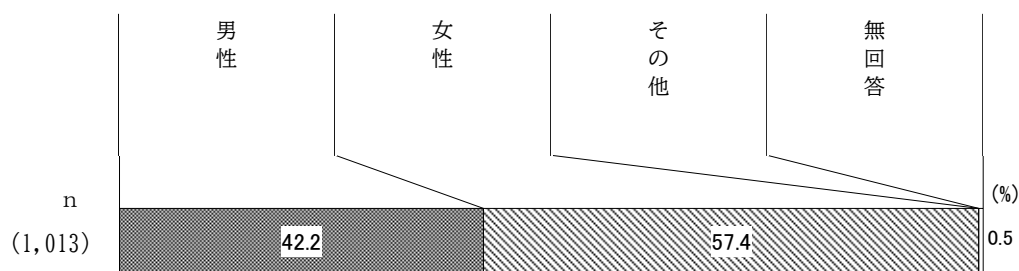
Ⅱ 調査結果

(1) 回答者の属性

問1 あなたご自身のことについて、お答えください。該当する番号に○印をつけてください。

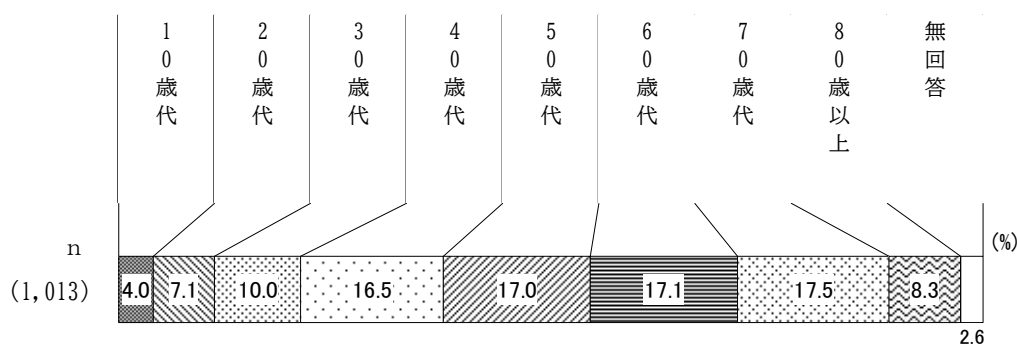
■性別

性別は、「男性」が42.2%、「女性」が57.4%となっています。



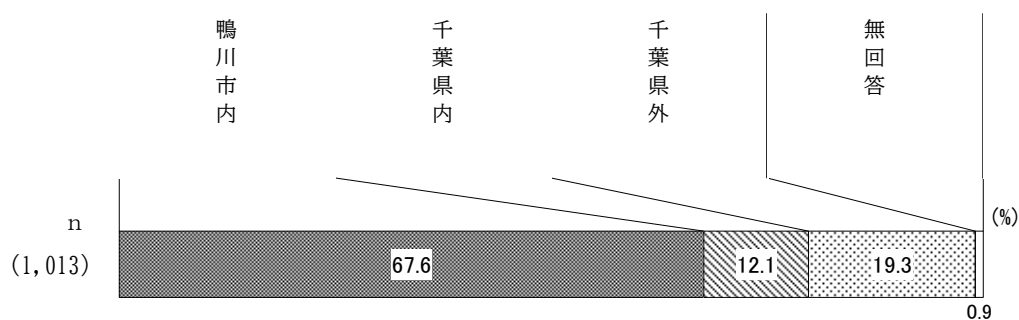
■年齢

年齢は、「70 歳代」が 17.5%で最も高く、次いで「60 歳代」が 17.1%、「50 歳代」が 17.0%となっています。



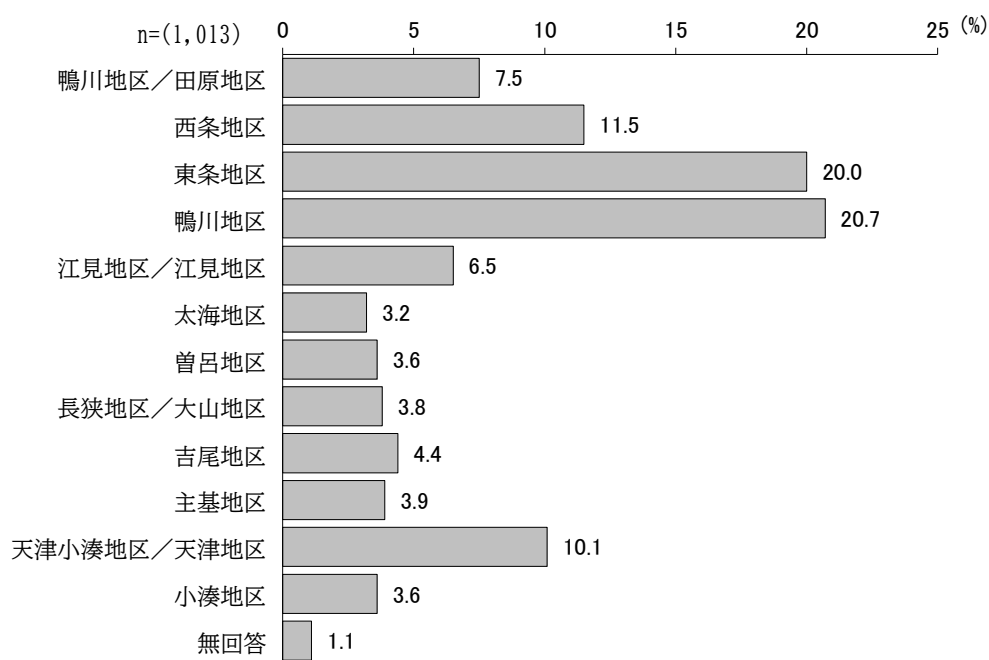
■出身地

出身地は、「鴨川市内」が 67.6%で最も高く、「千葉県外」が 19.3%、「千葉県内」が 12.1%となっています。



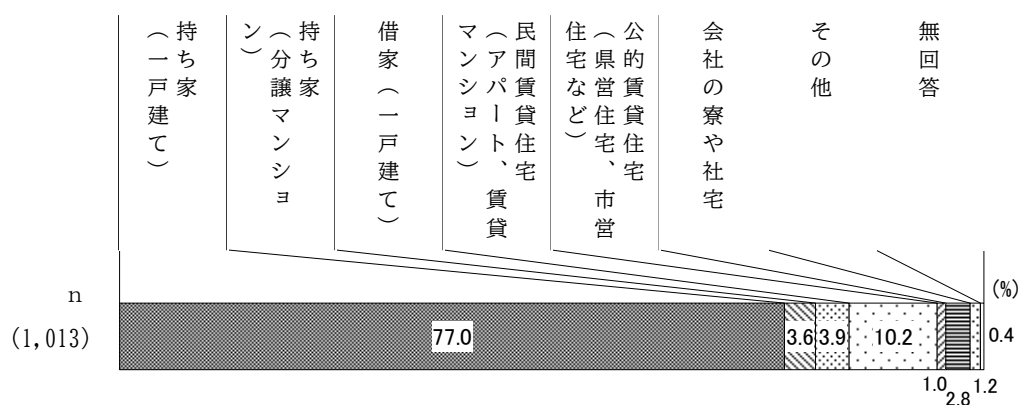
■居住地区

居住地区は、「鴨川地区」が20.7%で最も高く、次いで「東条地区」(20.0%)、「西条地区」(11.5%)、「天津地区」(10.1%)の順となっています。



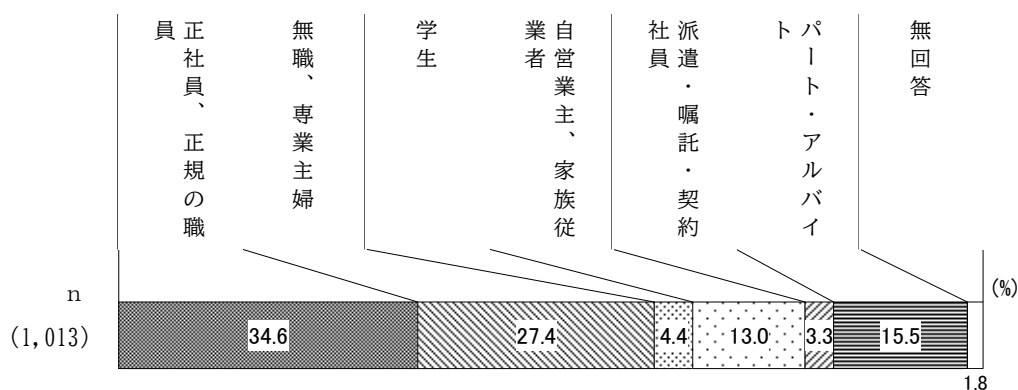
■居住形態

居住形態は、「持ち家（一戸建て）」(77.0%)が約8割を占めており、「民間賃貸住宅（アパート、賃貸マンション）」が10.2%となっています。



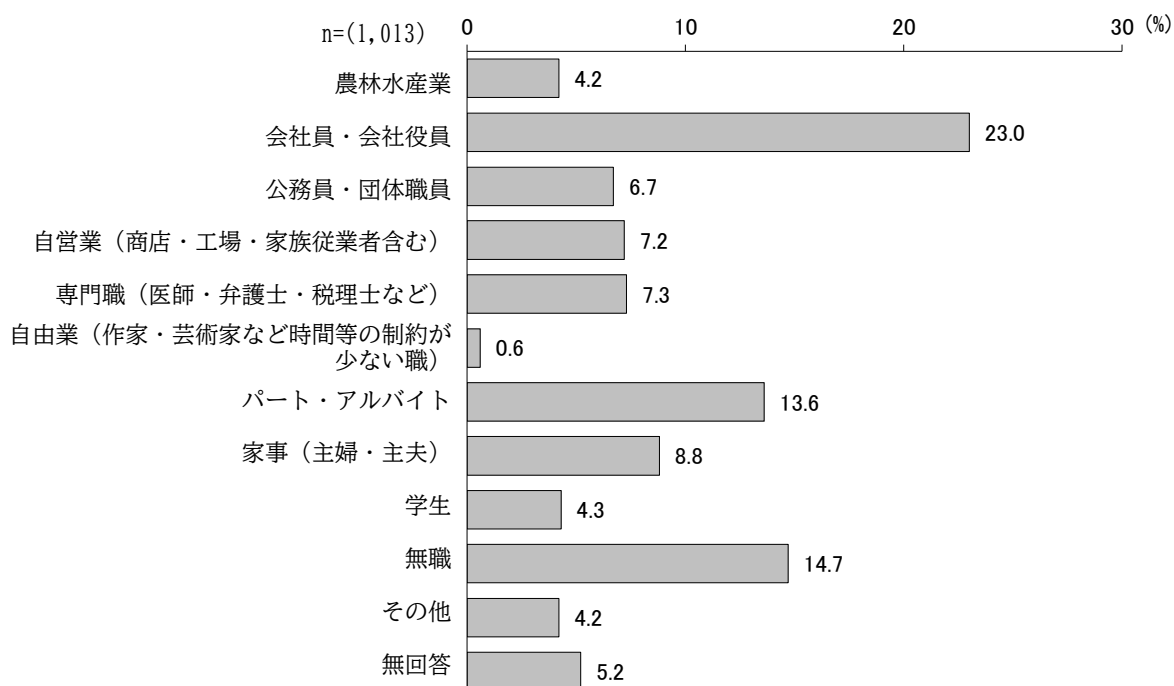
■就業状態

就業状態は、「正社員、正規の職員」が34.6%で最も高く、次いで「無職、専業主婦」(27.4%)、「パート・アルバイト」(15.5%)、「自営業主、家族従業者」(13.0%)の順となっています。



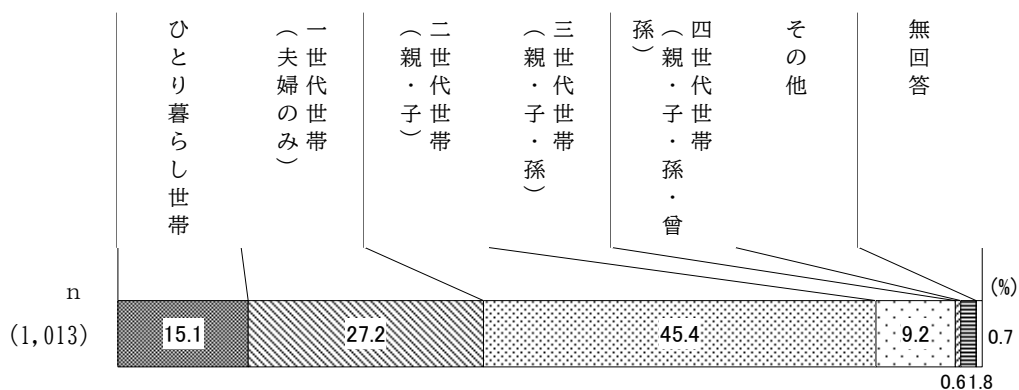
■職種

職種は、「会社員・会社役員」が23.0%で最も高く、次いで「無職」(14.7%)、「パート・アルバイト」(13.6%)の順となっています。



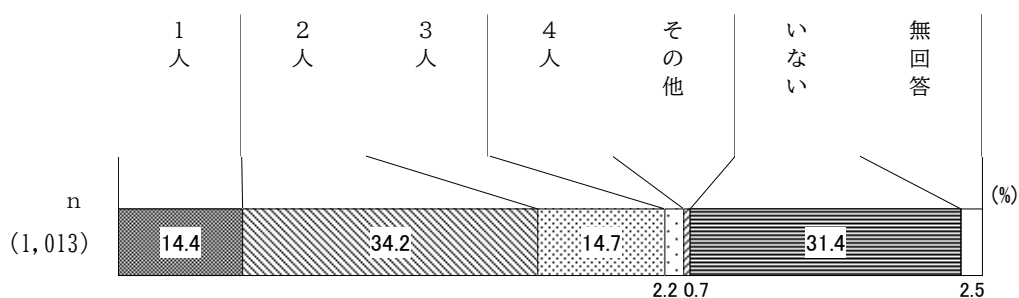
■家族構成

家族構成は、「二世世代世帯（親・子）」が45.4%で最も高く、次いで「一世世代世帯（夫婦のみ）」（27.2%）、「ひとり暮らし世帯」（15.1%）の順となっています。



■子どもの人数

子ども人数は「2人」が34.2%で最も高く、次いで「いない」（31.4%）、「3人」（14.7%）、「1人」（14.4%）の順となっています。



(2) 市の取り組み

問2 鴨川市の取り組みについておたずねします。

あなたは、鴨川市の各種施策の現状について、どの程度満足していますか。最もお考えに近いものを1つずつ選んで、番号に○印を付けてください。【1つずつ○】

① 市の取り組みの満足度（《満足》の割合）

市が施策として進めている 37 の取り組みに対する満足度を、「満足」と「やや満足」を合わせた《満足》の割合でみると、上位5位と下位5位は下表のとおりとなっています。

<上位5位>

- | | | |
|---|------------------------------------|-------|
| 1 | (6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実 | 39.7% |
| 2 | (8)花壇の設置など環境美化の推進 | 38.4% |
| 3 | (3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取 | 32.4% |
| 4 | (23)医療・福祉産業の振興 | 32.3% |
| 5 | (14)地域における健康づくり活動の促進 | 28.6% |

<下位5位>

- | | | |
|----|---|-------|
| 37 | (32)都市計画マスタープランに基づく計画的な土地利用の推進 | 6.3% |
| 36 | (21)農業の振興（生産基盤整備、担い手育成、有害鳥獣対策など） | 9.6% |
| 35 | (34)住宅・住環境の整備支援（耐震診断、リフォーム支援、生活排水、雨水排水など） | 9.8% |
| 34 | (19)商工業の振興（企業の支援など） | 10.8% |
| 33 | (2)市有財産の適正な管理 | 11.5% |

② 市の取り組みに対する満足度の評価点（加重平均値）

※加重平均値（満足度の評価点）

前項①の《満足》のみによる評価では、《満足》の比率も高く、なおかつ《不満》の比率も高いという場合、項目ごとの比較がやや不明瞭になってしまいます。そこで、比較をより明瞭にするために加重平均値により数量化を試みました。これは下記の計算式にあるように、評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する方法です。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 1 \text{点} \\ + \text{「どちらともいえない」の回答者数} \times 0 \text{点} \\ + \text{「やや不満」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -2 \text{点} \end{array}}{\text{「無回答」を除く回答者数}}$$

この算出法では、評価点は2.00～-2.00点の間に分布し、中間点の0点を境として、2.00点に近くなるほど満足度は高く、-2.00点に近くなるほど満足度は低くなります。

市の取り組みについての満足度を評価点※でみると、上位5位は前述の《満足》の割合と同じ順位となっていますが、下位5位では、《満足》の順位とは大きく異なり、「(31)公共交通の充実（鉄道・高速バス・市内路線バスの利用しやすさ）」、「(28)国・県道など幹線道路網の整備促進」などの生活基盤分野の取り組みとなっています。これは、加重平均値として《不満》を加味したことによるものです。

<上位5位>

- 1 (6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実・・・0.23点
- 1 (8)花壇の設置など環境美化の推進・・・0.23点
- 3 (3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取・・・0.16点
- 4 (23)医療・福祉産業の振興・・・0.14点
- 5 (14)地域における健康づくり活動の促進・・・0.13点

<下位5位>

- 36 (31)公共交通の充実（鉄道・高速バス・市内路線バスの利用しやすさ）・・・-0.61点
- 36 (28)国・県道など幹線道路網の整備促進・・・-0.61点
- 34 (33)住民の憩いの場の整備充実（公園・緑地・水辺など）・・・-0.56点
- 34 (29)市道の新設・改良（舗装・側溝整備・拡幅など）・・・-0.56点
- 33 (30)市道の維持管理（舗装・側溝・安全施設・橋・トンネルなど）・・・-0.48点

令和元年度調査と比べると、評価点の増減点数が大きい取り組みは、下記のとおりです。

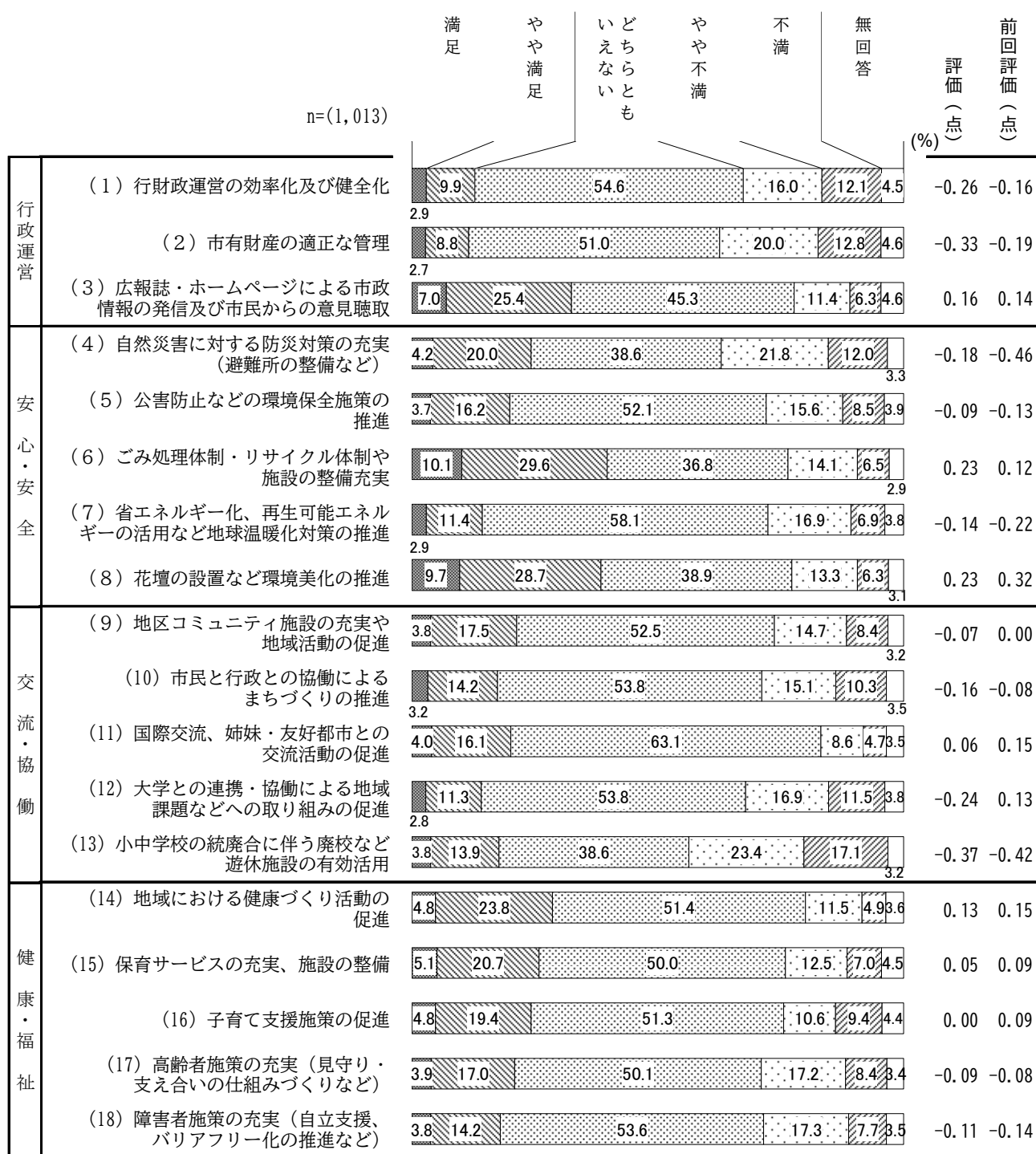
<増加点数が大きい取り組み上位3位>

- 1 (4)自然災害に対する防災対策の充実（避難所の整備など）・・・+0.28点
- 2 (6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実・・・+0.11点
- 3 (20)消費者トラブルや悪質商法などへの対応の充実・・・+0.11点

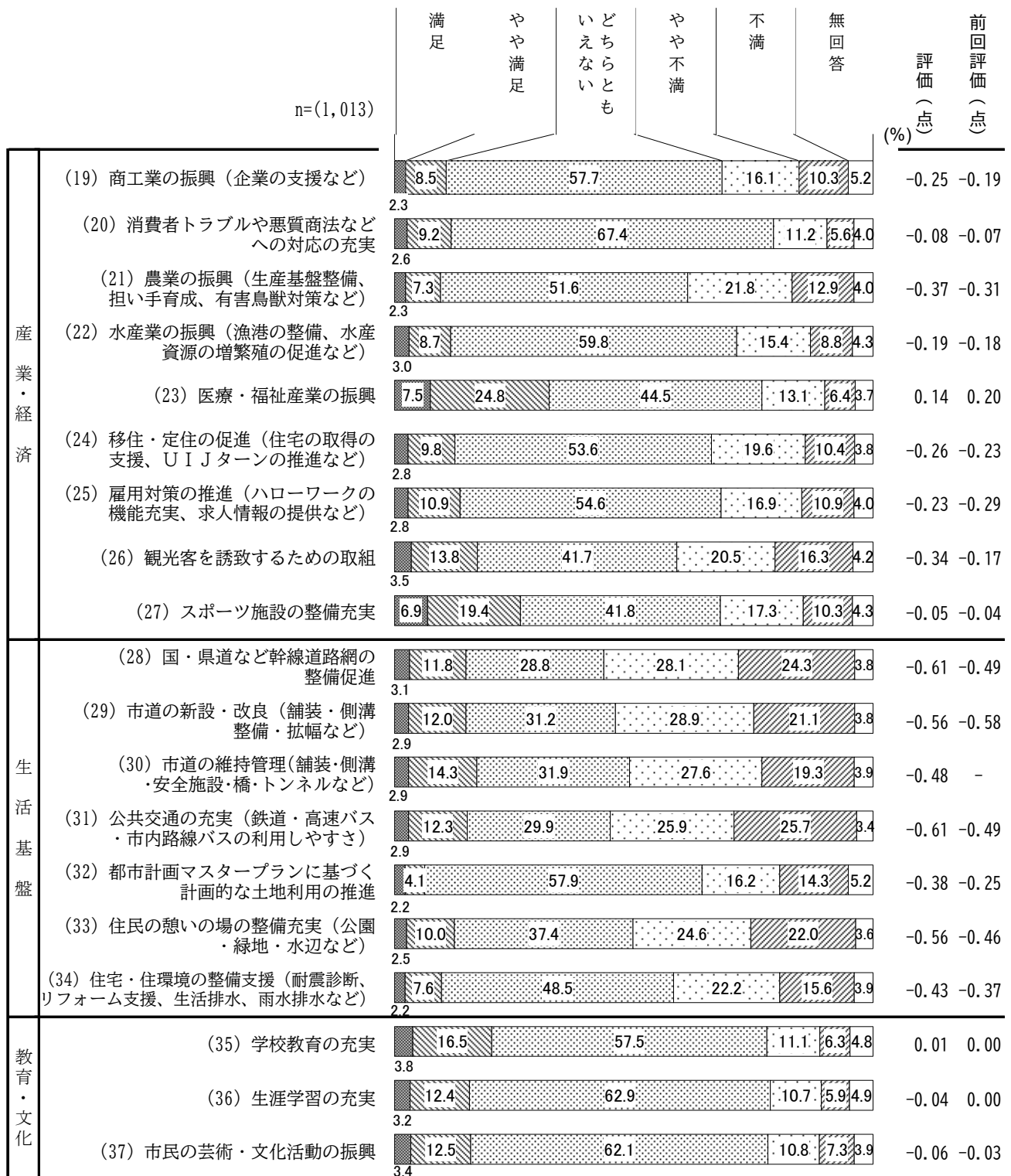
<減少点数が大きい取り組み上位3位>

- 1 (12)大学との連携・協働による地域課題などへの取り組みの促進・・・-0.37点
- 2 (19)商工業の振興（企業の支援など）・・・-0.18点
- 3 (26)観光客を誘致するための取組・・・-0.17点

<取り組みの評価・図表1>



<取り組みの評価・図表2>



※「市民と行政との協働によるまちづくりの推進」は、令和元年度では「市民と行政との協働による地域課題などへの取り組みの促進」

※「観光客を誘致するための取組」は、令和元年度では「観光客受け入れ体制の充実（近隣市町、観光関連団体との連携など）」

※「市道の新設・改良（舗装・側溝整備・拡幅など）」は、令和元年度では「市道の整備（舗装・側溝整備・拡幅など）」

■性別の市の取り組みの満足度（評価点）（上位3位）

性別に満足度が高い上位3位をみると、「(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実」は男性で1位、女性で2位となっており、「(8)花壇の設置など環境美化の推進」は女性で1位、男性で3位となっています。

	1位		2位		3位	
男性	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.23	(23)医療・福祉産業の振興	0.18	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.12
女性	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.31	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.24	(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取 (14)地域における健康づくり活動の促進	0.21

■性別の市の取り組みの満足度（評価点）（下位3位）

性別に満足度が低い取り組みをみると、男性では「(28)国・県道など幹線道路網の整備促進」が下位1位、女性では「(31)公共交通の充実（鉄道・高速バス・市内路線バスの利用しやすさ）」が下位1位となっています。男女ともに下位3位までは『生活基盤』分野の取り組みとなっています。

	下位1位		下位2位		下位3位	
男性	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.68	(29)市道の新設・改良	-0.66	(31)公共交通の充実	-0.56
女性	(31)公共交通の充実	-0.65	(33)住民の憩いの場の整備充実 (28)国・県道など幹線道路網の整備促進			-0.57

■年代別の市の取り組みの満足度（評価点）（上位3位）

年代別に満足度が高い上位3位をみると、「(8) 花壇の設置など環境美化の推進」は20歳代から50歳代までの4年代で1位となっています。さらに、「(6) ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実」は10歳代と60歳代、「(3) 広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取」は70歳代以上で1位となっています。

また、「(23) 医療・福祉産業の振興」は20歳代以下と60歳代以上の5年代で3位以内となっています。

	1 位		2 位		3 位	
10 歳代	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.64	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.62	(23)医療・福祉産業の振興	0.56
20 歳代	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.51	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.37	(23)医療・福祉産業の振興	0.34
30 歳代	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.52	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.46	(14)地域における健康づくり活動の促進	0.22
40 歳代	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.19	(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取 (6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実			0.02
50 歳代	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.14	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.08	(15)保育サービスの充実、施設の整備	0.05
60 歳代	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.10	(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取	0.09	(23)医療・福祉産業の振興	0.05
70 歳代	(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取	0.37	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.34	(23)医療・福祉産業の振興	0.33
80 歳以上	(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取	0.43	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実 (23)医療・福祉産業の振興			0.42

■年代別の市の取り組みの満足度（評価点）（下位3位）

年代別に満足度が低い下位3位をみると、「(28) 国・県道など幹線道路網の整備促進」は全年代で下位3位以内となっており、「(31) 公共交通の充実（鉄道・高速バス・市内路線バスの利用しやすさ）」も8年代中6年代で下位3位以内となっています。さらに、60歳代以下の下位3位は全て『生活基盤』分野の取り組みで占められています。

また、「(21) 農業の振興（生産基盤整備、担い手育成、有害鳥獣対策など）」は70歳代以上で下位1位となっています。

	下位1位		下位2位		下位3位	
10 歳代	(31)公共交通の充実	-0.62	(33)住民の憩いの場の整備充実	-0.56	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.28
20 歳代	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.50	(31)公共交通の充実	-0.49	(29)市道の新設・改良	-0.38
30 歳代	(33)住民の憩いの場の整備充実	-0.82	(31)公共交通の充実	-0.81	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.66
40 歳代	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.86	(31)公共交通の充実	-0.83	(29)市道の新設・改良	-0.77
50 歳代	(31)公共交通の充実	-0.78	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.74	(33)住民の憩いの場の整備充実	-0.72
60 歳代	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.72	(29)市道の新設・改良	-0.70	(30)市道の維持管理	-0.61
70 歳代	(21)農業の振興	-0.42	(30)市道の維持管理	-0.37	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.36
80 歳以上	(21)農業の振興	-0.39	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.37	(13)小中学校の統廃合に伴う廃校など遊休施設の有効活用 (31)公共交通の充実	-0.32

■居住地区別の市の取り組みの満足度（評価点）（上位3位）

居住地区別に満足度が高い上位3位をみると、「(8) 花壇の設置など環境美化の推進」は田原地区、西条地区、江見地区、天津地区の4地区で1位、「(6) ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実」は東条地区、鴨川地区、太海地区の3地区で、「(3) 広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取」は曾呂地区、大山地区、主基地区の3地区で、「(23) 医療・福祉産業の振興」は吉尾地区、小湊地区の2地区でそれぞれ1位となっています。

また、「(14) 地域における健康づくり活動の促進」が天津地区、東条地区、太海地区、吉尾地区、主基地区の5地区で3位以内に入っています。

	1 位		2 位		3 位	
田原	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.46	(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取	0.29	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実 (11) 国際交流、姉妹・友好都市との交流活動の促進	0.26
西条	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.33	(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取	0.22	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.20
東条	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.34	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.27	(14)地域における健康づくり活動の促進	0.22
鴨川	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.23	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.22	(23)医療・福祉産業の振興	0.19
江見	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.17	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.15	(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取	0.12
太海	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.35	(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取	0.26	(14)地域における健康づくり活動の促進	0.19
曾呂	(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取	0.26	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.17	(35)学校教育の充実	0.09
大山	(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取	0.24	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.21	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実 (23)医療・福祉産業の振興	0.18
吉尾	(23)医療・福祉産業の振興	0.29	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.16	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実 (14) 地域における健康づくり活動の促進	0.13
主基	(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取	0.34	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.33	(14)地域における健康づくり活動の促進	0.32
天津	(8)花壇の設置など環境美化の推進	0.18	(14)地域における健康づくり活動の促進	0.16	(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	0.12
小湊	(23)医療・福祉産業の振興 (27)スポーツ施設の整備充実			0.38	(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取	0.32

■居住地区別の市の取り組みの満足度（評価点）（下位3位）

居住地区別に満足度が低い下位3位をみると、「(31)公共交通の充実（鉄道・高速バス・市内路線バスの利用しやすさ）」は12地区中11地区で3位以内に入っており、うち4地区で1位となっています。さらに、「(28)国・県道など幹線道路網の整備促進」も12地区中9地区で3位以内に入っており、うち3地区で1位となっています。

また、「(13)小中学校の統廃合に伴う廃校など遊休施設の有効活用」は、太海地区、曽呂地区、主基地区の3地区で1位となっています。

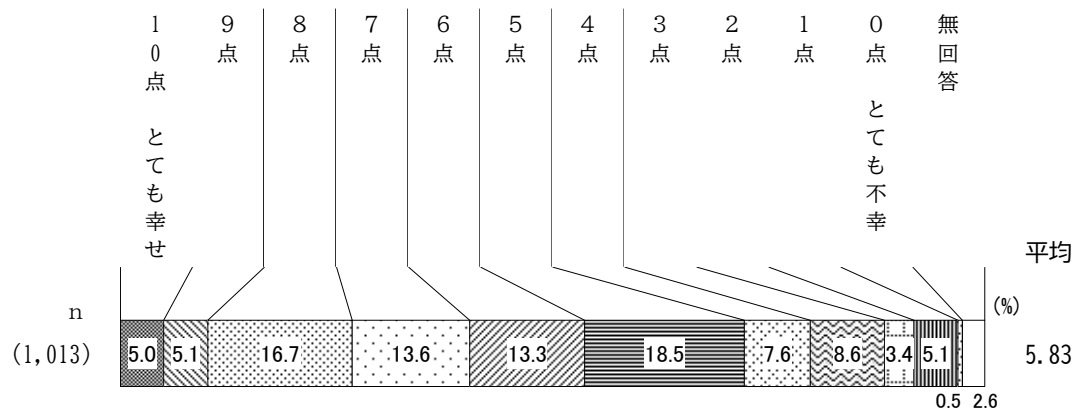
	下位1位		下位2位		下位3位	
田原	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.51	(29)市道の新設・改良	-0.49	(31)公共交通の充実	-0.46
西条	(31)公共交通の充実	-0.65	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.62	(33)住民の憩いの場の整備充実	-0.58
東条	(29)市道の新設・改良	-0.57	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.56	(31)公共交通の充実 (33)住民の憩いの場の整備充実	-0.54
鴨川	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.69	(29)市道の新設・改良	-0.55	(2)市有財産の適正な管理 (31)公共交通の充実 (33)住民の憩いの場の整備充実	-0.54
江見	(33)住民の憩いの場の整備充実	-0.80	(31)公共交通の充実	-0.73	(29)市道の新設・改良	-0.58
太海	(13)小中学校の統廃合に伴う廃校など遊休施設の有効活用	-0.67	(32)都市計画マスタープランに基づく計画的な土地利用の推進	-0.56	(31)公共交通の充実	-0.53
曽呂	(13)小中学校の統廃合に伴う廃校など遊休施設の有効活用	-1.14	(21)農業の振興	-1.06	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.77
大山	(31)公共交通の充実	-0.95	(30)市道の維持管理	-0.79	(29)市道の新設・改良 (33)住民の憩いの場の整備充実	-0.74
吉尾	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.82	(21)農業の振興	-0.67	(31)公共交通の充実	-0.64
主基	(13)小中学校の統廃合に伴う廃校など遊休施設の有効活用	-0.82	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.76	(31)公共交通の充実	-0.72
天津	(31)公共交通の充実	-0.70	(33)住民の憩いの場の整備充実	-0.61	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進	-0.58
小湊	(31)公共交通の充実	-0.51	(4)自然災害に対する防災対策の充実	-0.43	(28)国・県道など幹線道路網の整備促進 (29)市道の新設・改良	-0.40

(3) 幸福度

問3 現在、あなたはどの程度幸せですか。

「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか。【1つに○】

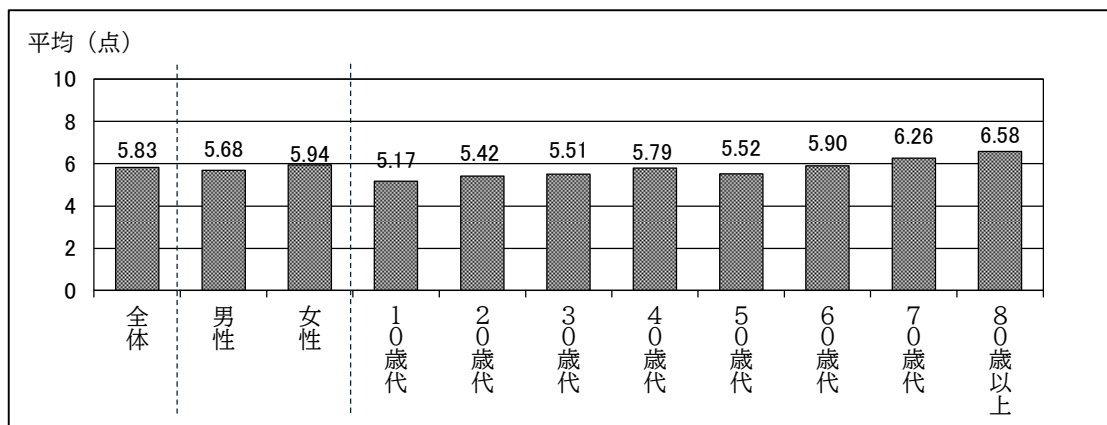
幸福度は、「5 点」が18.5%で最も高く、次いで「8 点」(16.7%)、「7 点」(13.6%)、「6 点」(13.3%) の順となっており、平均は5.83点です。



■性別・年代別

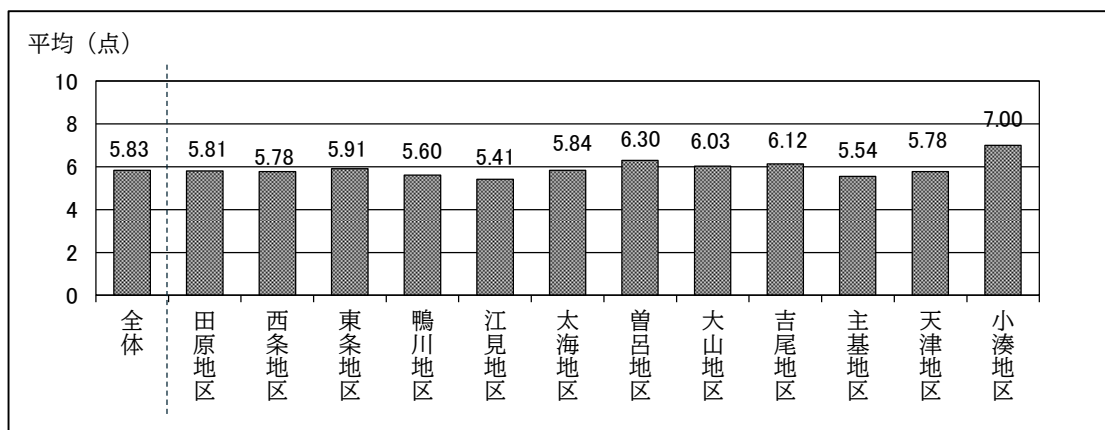
幸福度を性別にみると、女性（5.94 点）の方が男性（5.68 点）よりわずかに高くなっています。

年代別にみると、10 歳代が 5.17 点で最も低く、おおむね年代が上がるにつれ点数も高くなり、80 歳以上で 6.58 点と最も高くなっています。



■居住地区別

幸福度を居住地区別にみると、小湊地区が 7.00 点で最も高く、次いで曾呂地区（6.30 点）、吉尾地区（6.12 点）、大山地区（6.03 点）などとなっており、江見地区が 5.41 点で最も低くなっています。

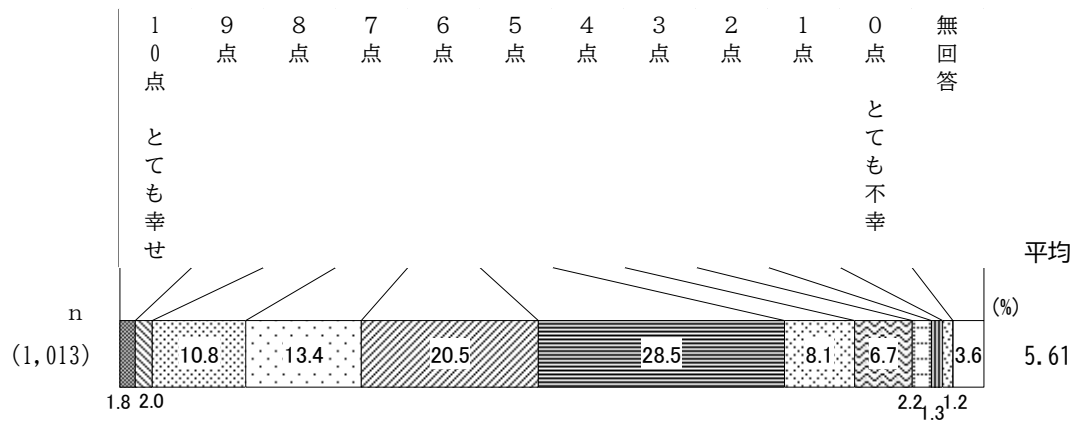


(4) 町内の人々の幸福度

問4 あなたの町内(集落)の人々は、どれくらい幸せだと思いますか。

「とても幸せ」を 10 点、「とても不幸」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか。【1つに○】

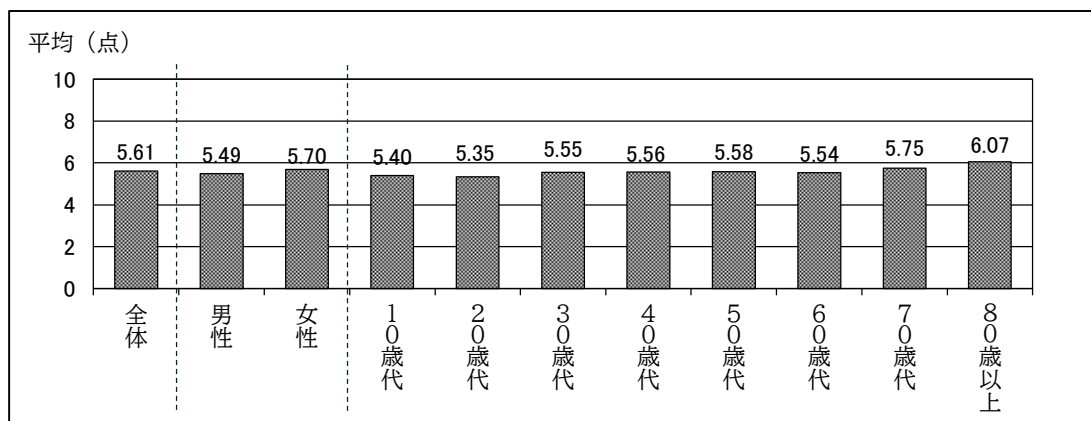
町内(集落)の人々の幸福度は、「5点」が28.5%で最も高く、「6点」(20.5%)、「7点」(13.4%)、「8点」(10.8%)の順となっており、平均は5.61点です。



■性別・年代別

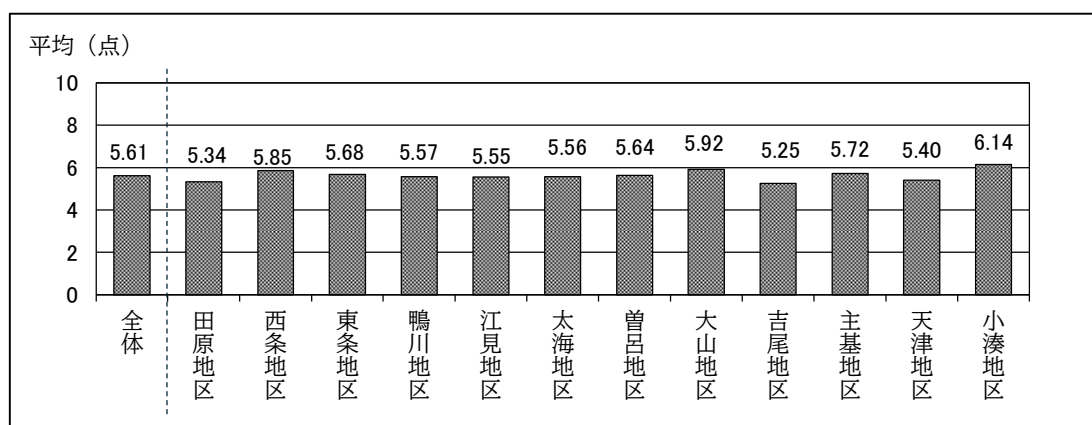
町内（集落）の人々の幸福度を性別にみると、女性（5.70点）の方が男性（5.49点）よりわずかに高くなっています。

年代別にみると、20歳代が5.35点で最も低く、おおむね年代が上がるにつれ点数も高くなり、80歳以上で6.07点と最も高くなっています。



■居住地区別

町内（集落）の人々の幸福度を居住地区別にみると、小湊地区が6.14点で最も高く、次いで大山地区（5.92点）、西条地区（5.85点）、主基地区（5.72点）などとなっており、吉尾地区が5.25点で最も低くなっています。

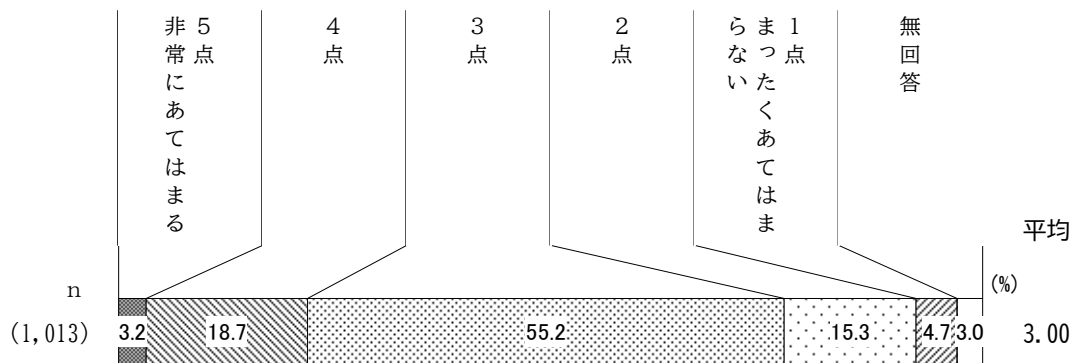


(5) 身近な周りの人の楽しい気持ち

問5 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思いますか。

「非常にあてはまる」を5点、「まったくあてはまらない」を1点とすると、何点くらいになると思いますか。【1つに○】

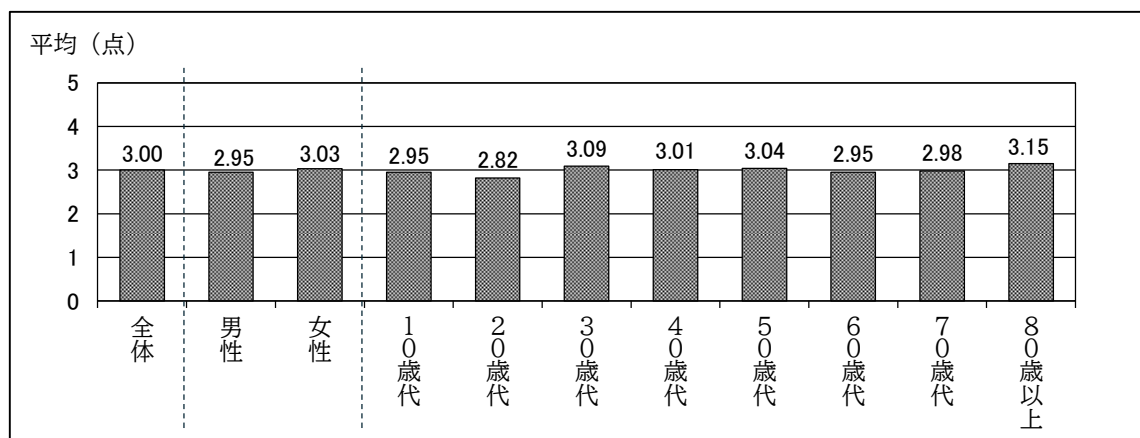
自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいるかどうかについて、「1点（まったくあてはまらない）」から「5点（非常にあてはまる）」で聞いたところ、「3点」（55.2%）が半数以上で最も高く、「4点」が18.7%、「2点」が15.3%となっており、平均は3.00点です。



■性別・年代別

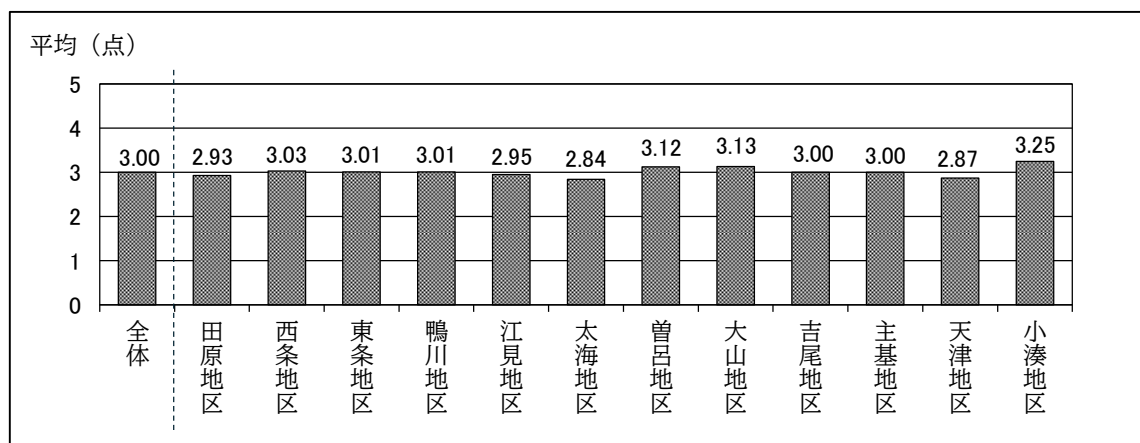
自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいるかどうかについて性別にみると、女性（3.03点）の方が男性（2.95点）よりわずかに高くなっています。

年代別にみると、80歳以上が3.15点で最も高く、次いで30歳代（3.09点）、50歳代（3.04点）などとなっており、20歳代が2.82点で最も低くなっています。



■居住地区別

自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいるかどうかについて居住地区別にみると、小湊地区が3.25点で最も高く、次いで大山地区（3.13点）、曾呂地区（3.12点）、西条地区（3.03点）などとなっており、太海地区が2.84点で最も低くなっています。

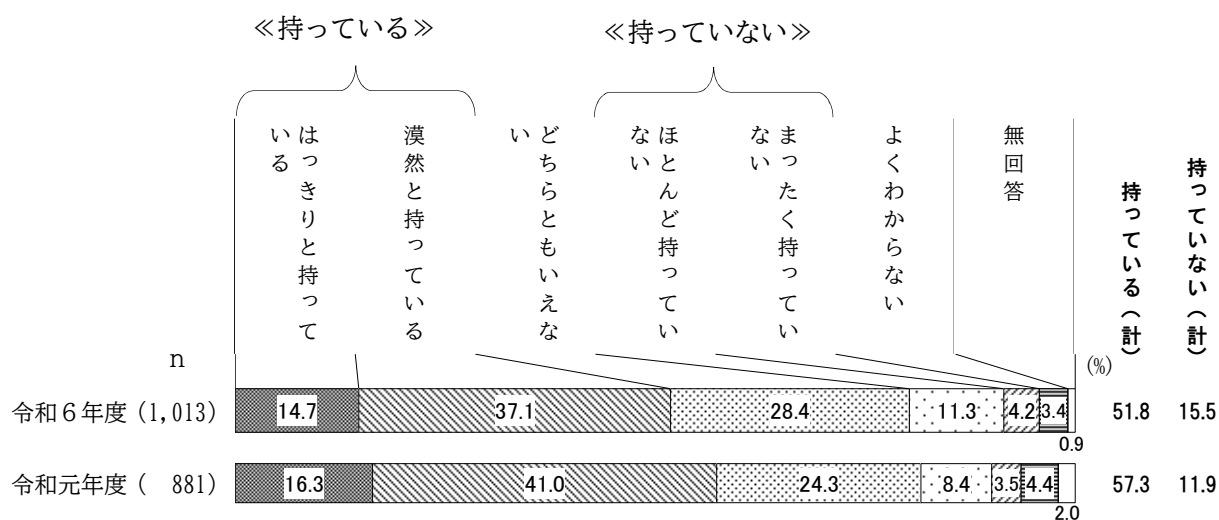


(6) 誇りや愛着の有無

問6 鴨川市に誇りや愛着を持っていますか。【1つに○】

市に対する誇りや愛着は、「漠然と持っている」が37.1%で最も高く、「はっきり持っている」(14.7%)と合わせた《持っている》は51.8%となっています。一方、「ほとんど持っていない」(11.3%)と「まったく持っていない」(4.2%)を合わせた《持っていない》は15.5%となっています。

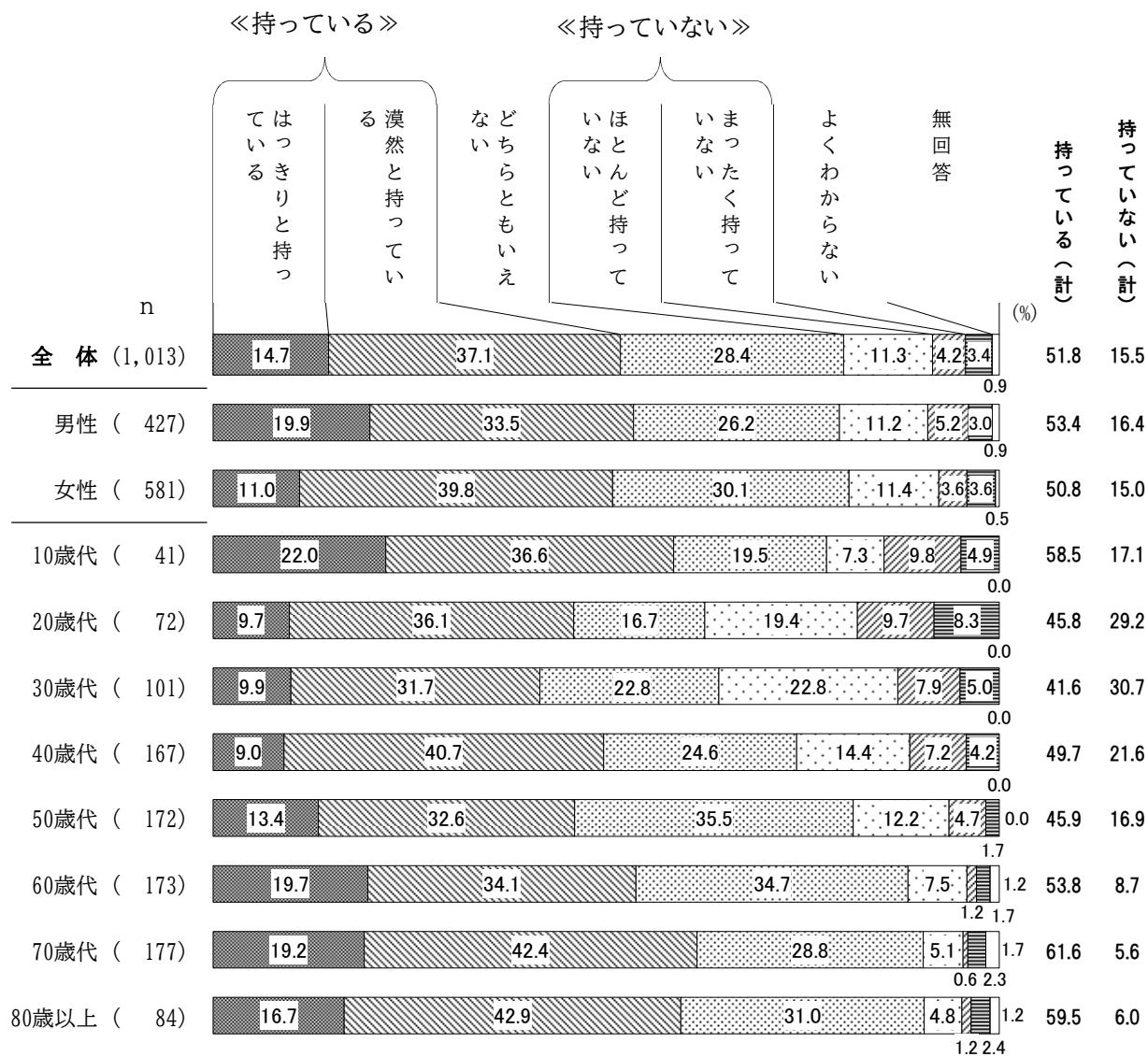
令和元年度調査と比較すると、《持っている》は5.5ポイント減少し、《持っていない》が3.6ポイント増加しています。



■性別・年代別

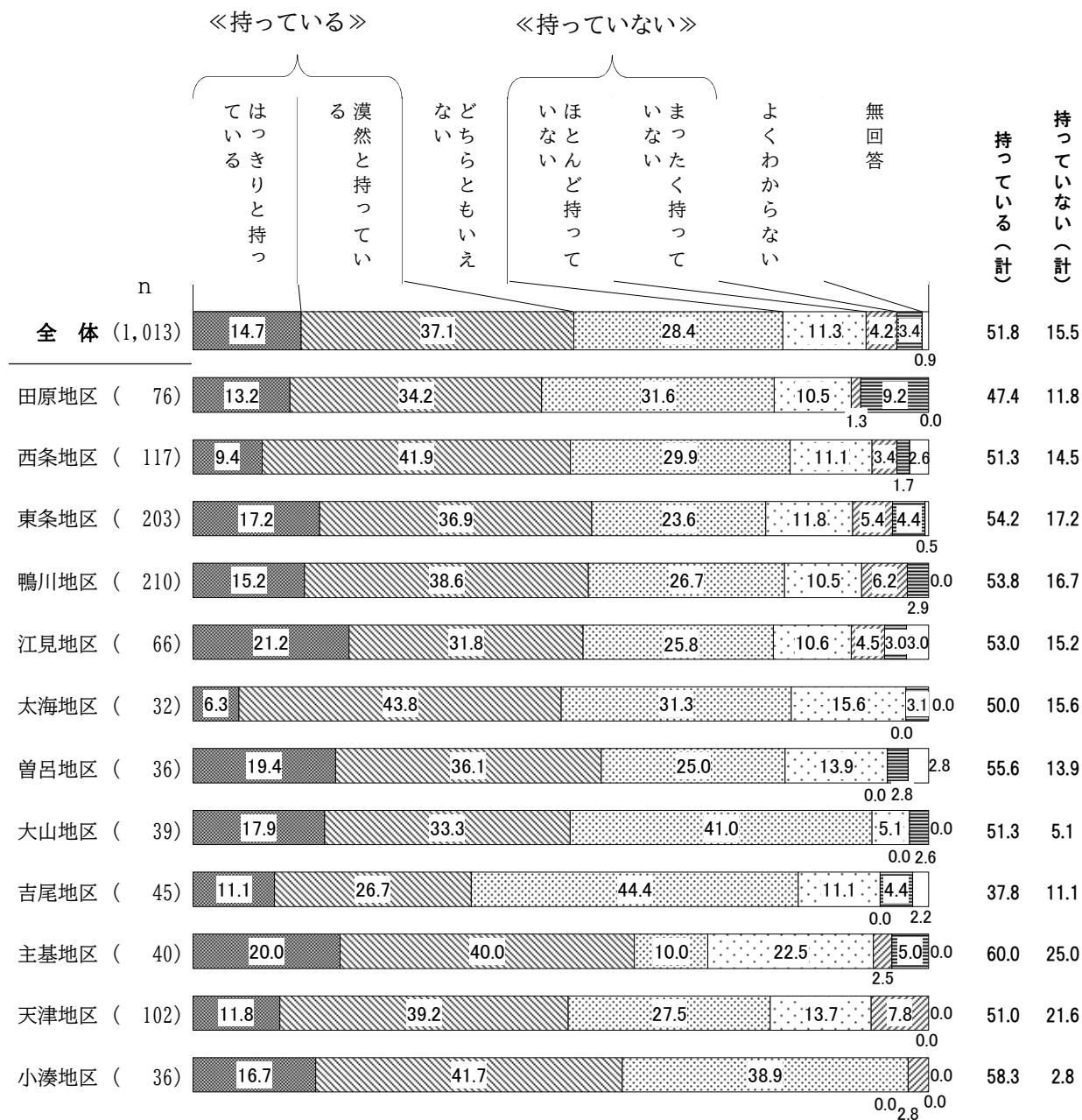
市に対する誇りや愛着を性別にみると、「持っている」は男性（53.4%）の方が女性（50.8%）より2.6ポイント高くなっています。

年代別にみると、「持っている」は70歳代で61.6%と最も高く、次いで80歳以上（59.5%）、10歳代（58.5%）などとなっています。一方、「持っていない」は30歳代で30.7%と最も高く、次いで20歳代（29.2%）となっています。



■居住地区別

市に対する誇りや愛着を居住地区別にみると、「持っている」は主基地区で60.0%と最も高く、次いで小湊地区（58.3%）、曾呂地区（55.6%）などとなっています。一方、「持っていない」は主基地区で25.0%と最も高く、次いで天津地区（21.6%）となっています。

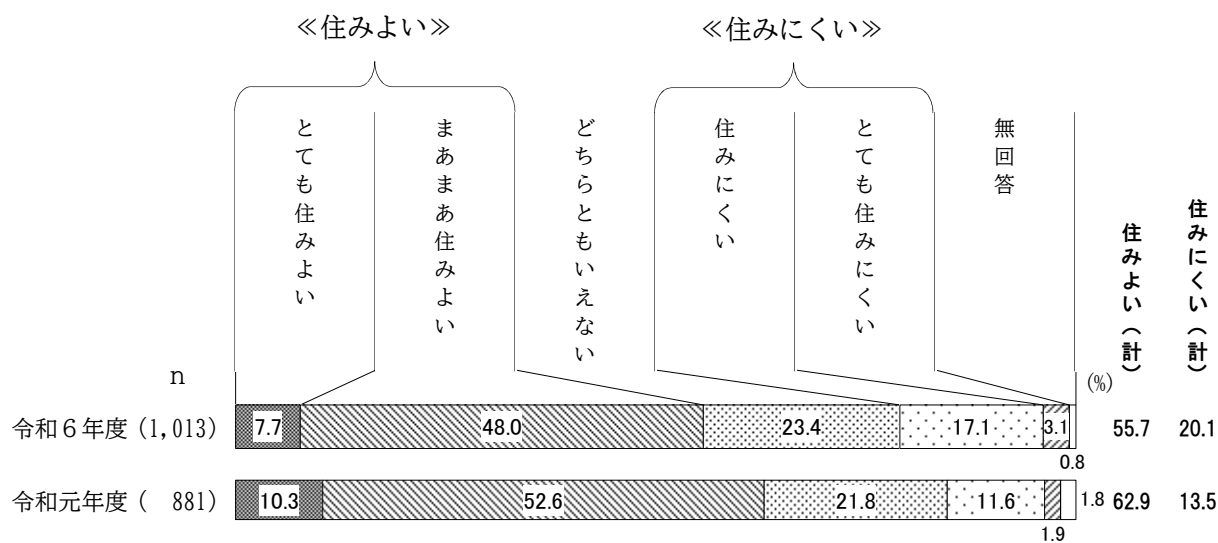


(7) 鴨川市の住みやすさ

問7 鴨川市は住みやすいと思いますか。【1つに○】

鴨川市の住みやすさは、「まあまあ住みよい」が48.0%で最も高く、これに「とても住みよい」(7.7%)を合わせた《住みよい》は55.7%となっています。一方、「住みにくい」(17.1%)と「とても住みにくい」(3.1%)を合わせた《住みにくい》は20.1%です。

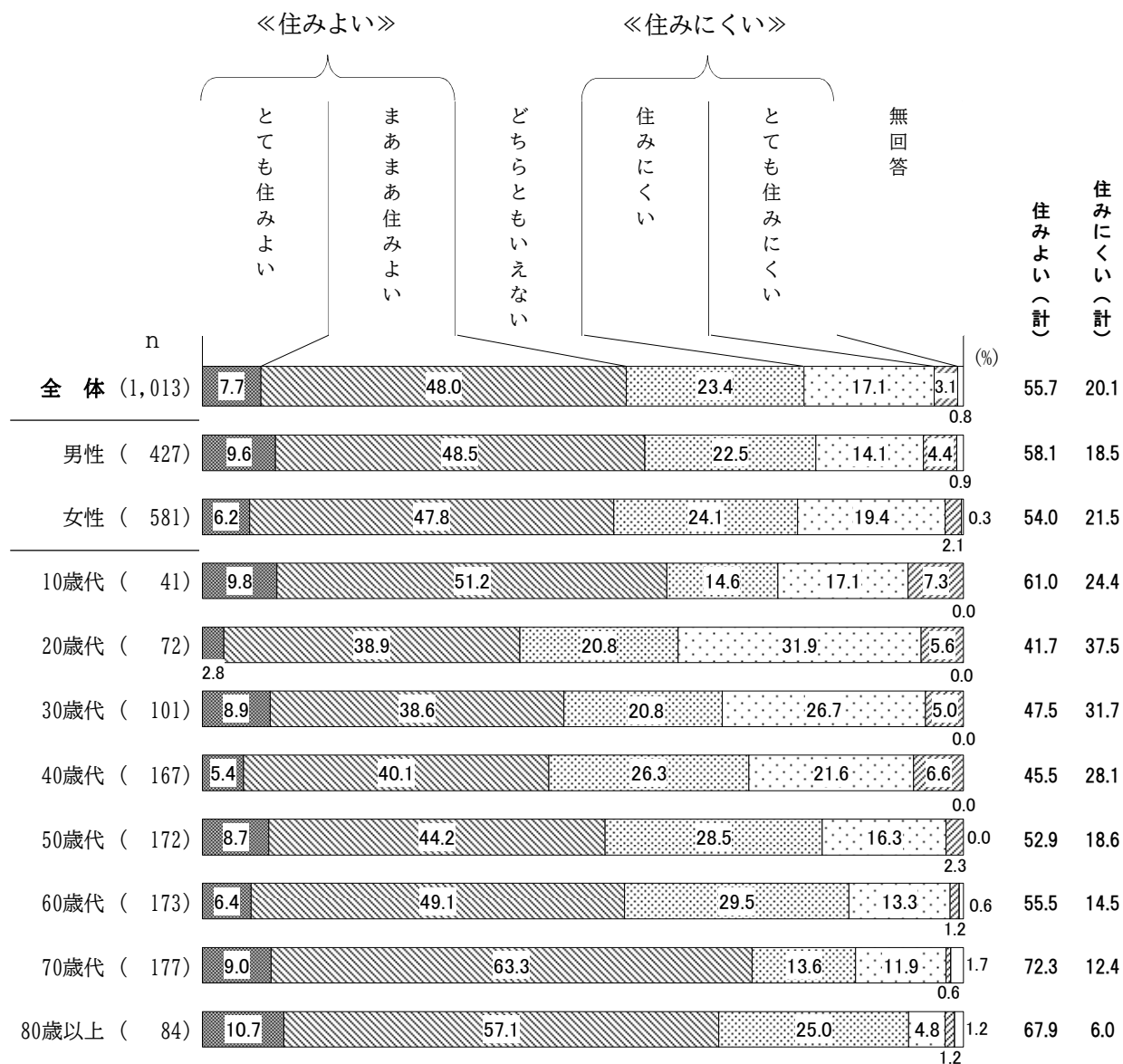
令和元年度調査と比較すると、《住みよい》は7.2ポイント減少し、《住みにくい》が6.6ポイント増加しています。



■性別・年代別

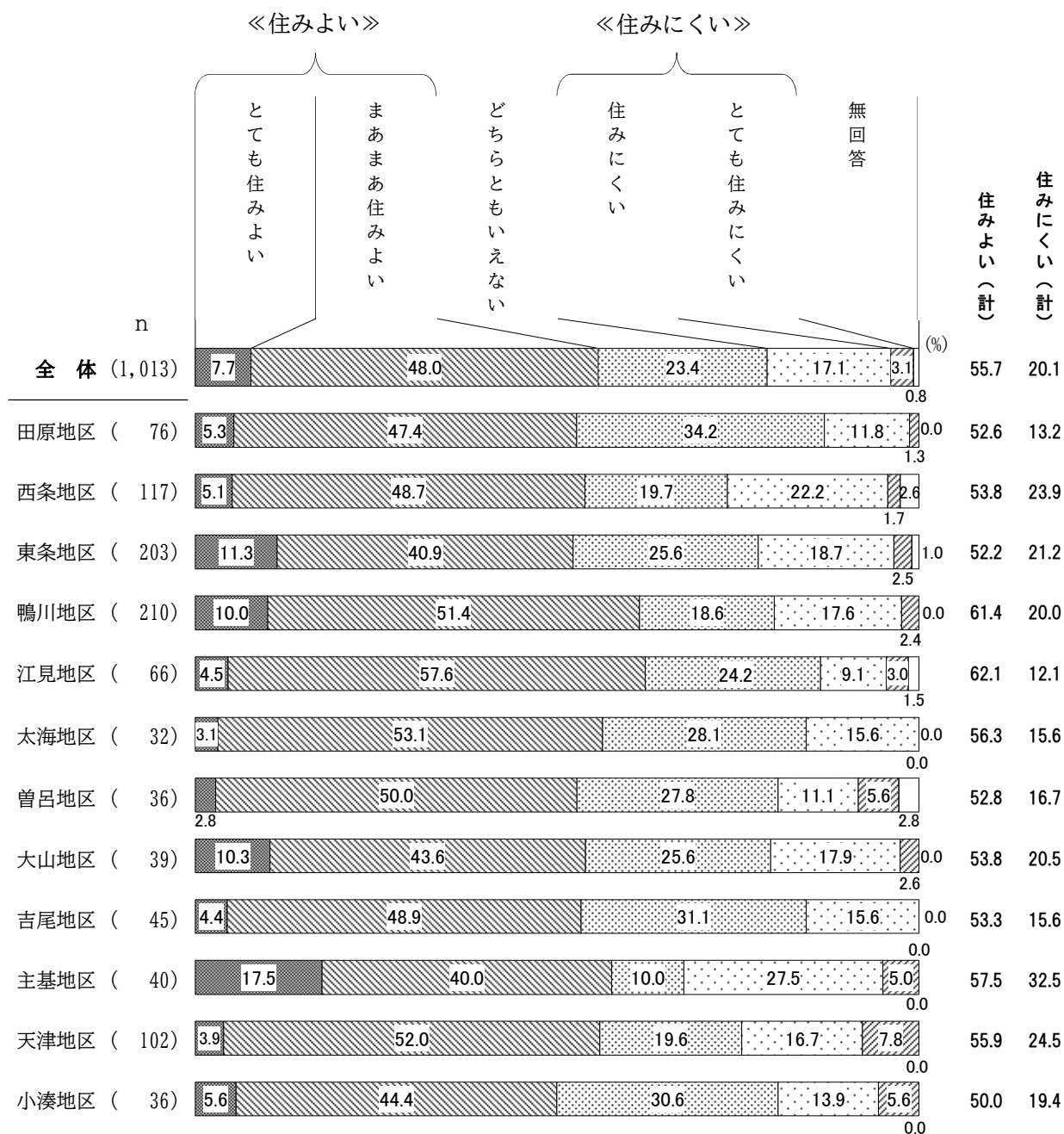
鴨川市の住みやすさを性別にみると、「住みよい」は男性（58.1％）の方が女性（54.0％）より4.1ポイント高くなっています。

年代別にみると、「住みよい」は70歳代で72.3％と最も高く、次いで80歳以上（67.9％）、10歳代（61.0％）などとなっています。一方、「住みにくい」は20歳代で37.5％と最も高く、次いで30歳代（31.7％）となっています。



■居住地区別

鴨川市の住みやすさを居住地区別にみると、「住みよい」は江見地区で62.1%と最も高く、次いで鴨川地区（61.4%）、主基地区（57.5%）などとなっています。一方、「住みにくい」は主基地区で32.5%と最も高く、次いで天津地区（24.5%）となっています。

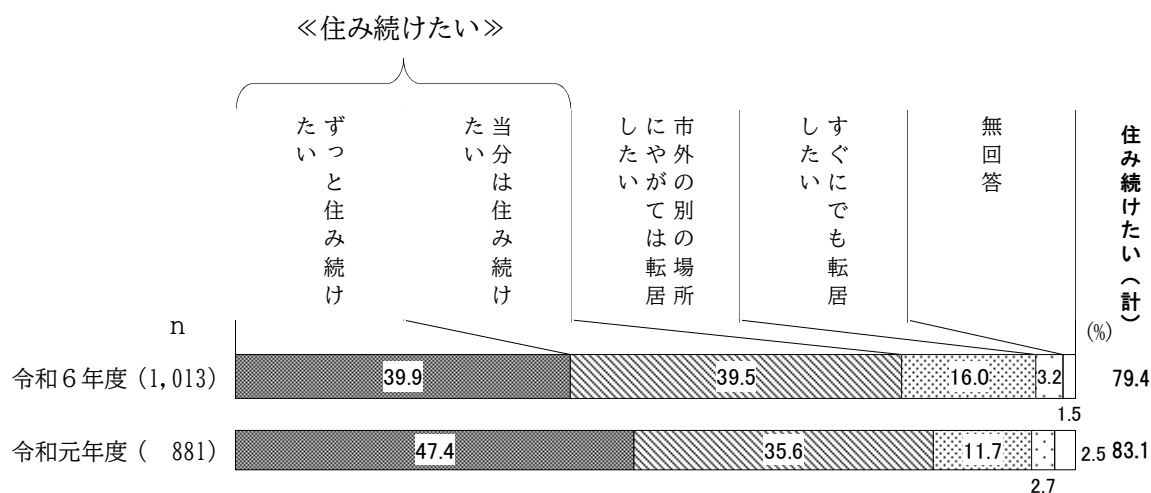


(8) 定住意向

問8 これからも鴨川市に住みたいと思いますか。【1つに○】

定住意向は、「ずっと住みたい」が39.9%で最も高く、これに「当分は住みたい」(39.5%)を合わせた《住みたい》(79.4%)は約8割となっています。

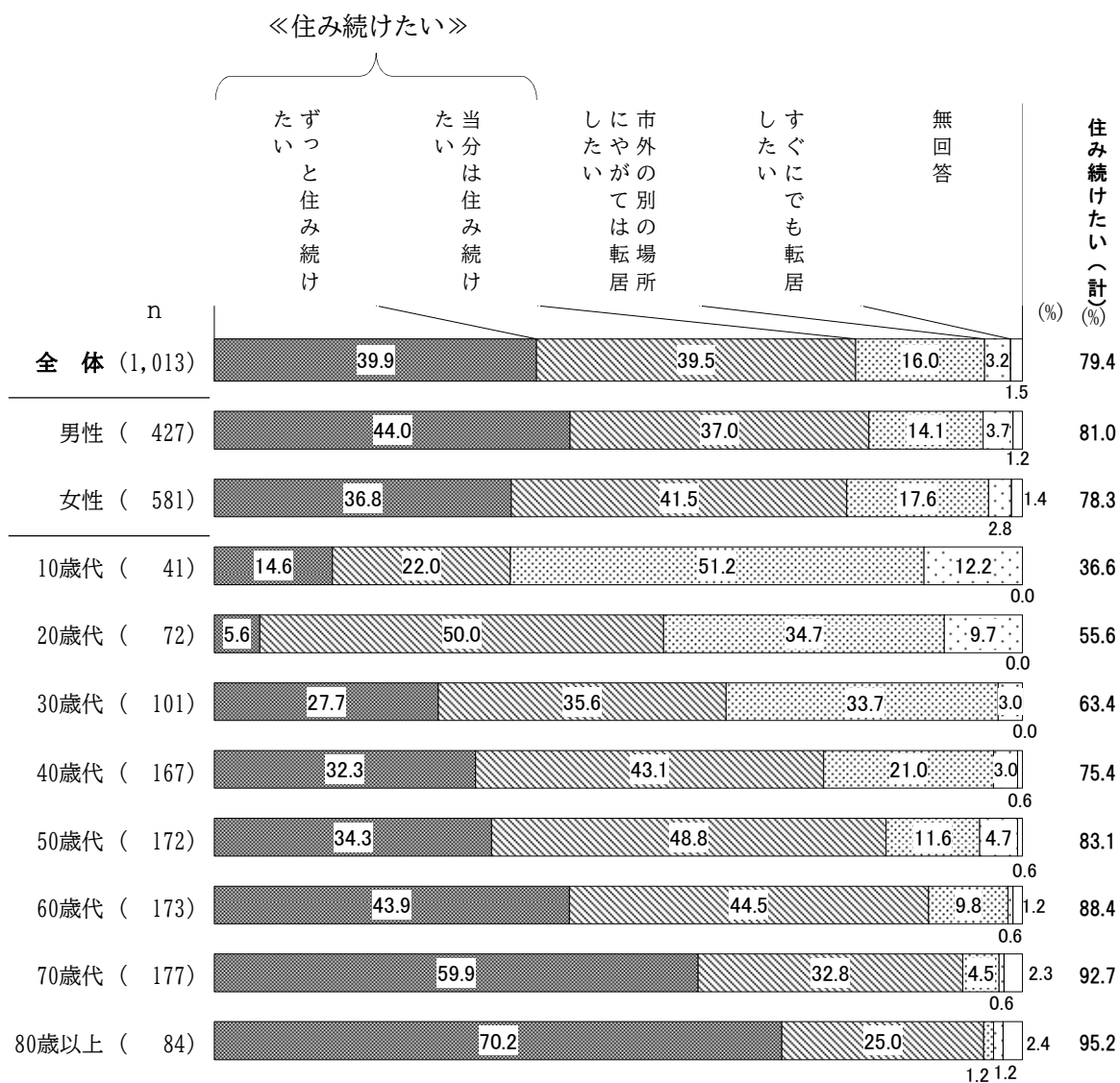
令和元年度調査と比較すると、「ずっと住みたい」が7.5ポイント減少しており、《住みたい》でも3.7ポイント減少しています。逆に「市外の別の場所にやがては転居したい」が4.3ポイント増加しています。



■性別・年代別

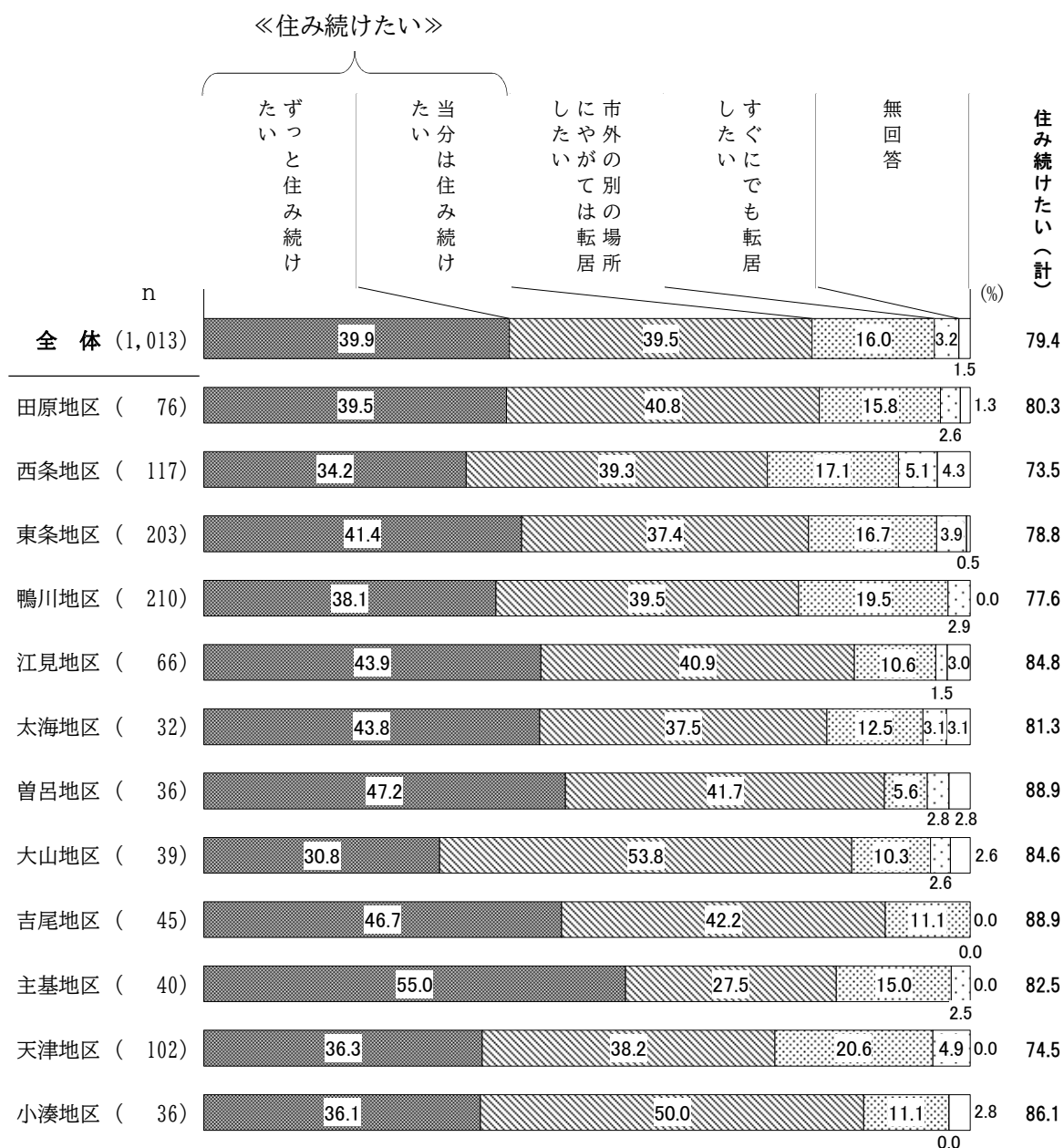
定住意向を性別にみると、「住み続けたい」は男性（81.0％）の方が女性（78.3％）より2.7ポイント高くなっています。

年代別にみると、「住み続けたい」は80歳以上で95.2％と最も高く、年代が下がるほど割合も低くなり、10歳代で36.6％と最も低くなっています。



■居住地区別

定住意向を居住地区別にみると、「住み続けたい」は曾呂地区と吉尾地区がともに88.9%と最も高く、次いで小湊地区（86.1%）、江見地区（84.8%）などとなっています。逆に、西条地区が73.5%と最も低く、次いで天津地区（74.5%）となっています。

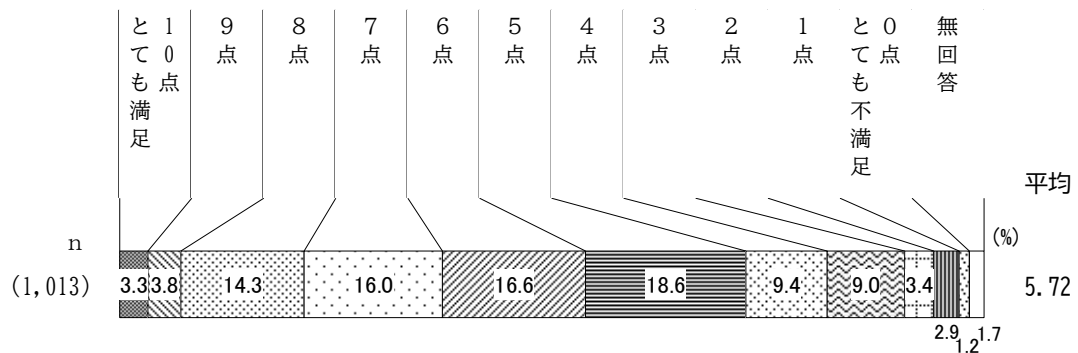


(9) 住んでいる地域での暮らしの満足度

問9 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。

「とても満足」を 10 点、「とても不満足」を 0 点とすると、何点くらいになると思いますか。【1つに○】

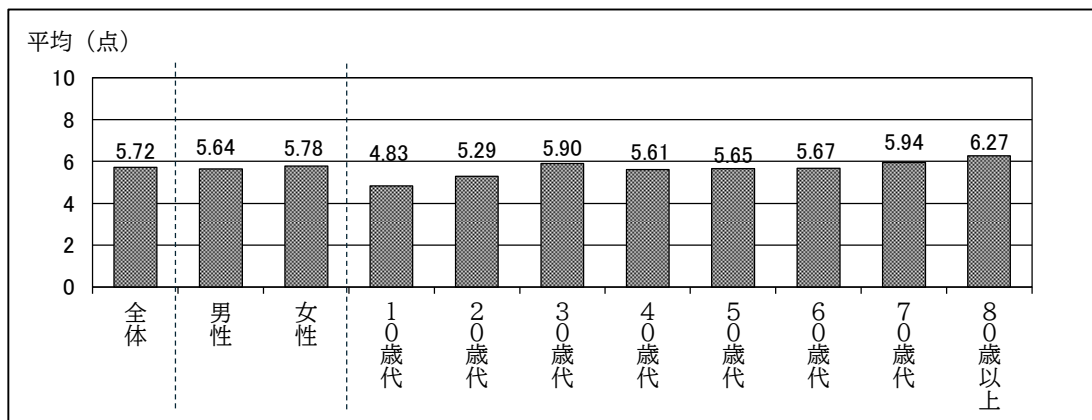
住んでいる地域での暮らしの満足度は、「5 点」が18.6%で最も高く、次いで「6 点」(16.6%)、「7 点」(16.0%)、「8 点」(14.3%) の順となっており、平均は5.72点です。



■性別・年代別

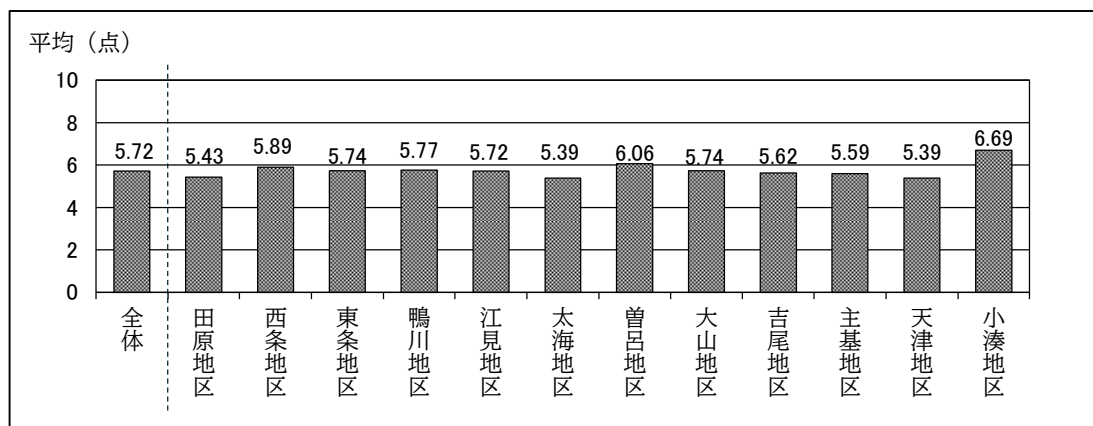
住んでいる地域での暮らしの満足度を性別にみると、女性（5.78点）の方が男性（5.64点）よりわずかに高くなっています。

年代別にみると、80歳以上が6.27点で最も高く、次いで70歳代（5.94点）、30歳代（5.90点）などとなっており、10歳代が4.83点で最も低くなっています。



■居住地区別

住んでいる地域での暮らしの満足度を居住地区別にみると、小湊地区が 6.69 点で最も高く、次いで曾呂地区（6.06 点）、西条地区（5.89 点）、鴨川地区（5.77 点）などとなっており、太海地区と天津地区が 5.39 点で最も低くなっています。



(10) 地域の住み心地について

問10 あなたの地域の住み心地について、お聞きます。

回答欄①: お住まいの地域の周辺についてどの程度、満足していますか。

最もお考えに近い内容を回答欄①から1つ選んで、○印を付けてください。

回答欄②: 今後、まちづくりを進めていく上でどの程度、重要と思われますか。

最もお考えに近い内容を回答欄②から1つ選んで、○印を付けてください。

① 地域の住み心地の満足度（《満足》の割合）

地域の住み心地についての満足度を「満足」と「やや満足」を合わせた《満足》の割合でみると、「(5)自然景観の豊かさ・美しさ」と「(7)騒音などの公害の少なさ」の『快適性』の分野が上位となっており、逆に「(2)路線バスの利用しやすさ」と「(1)鉄道（駅）の利用しやすさ」の『利便性』の分野が下位となっています。上位5位と下位5位は下表のとおりです。

<上位5位>

- | | | |
|---|--------------------------|-------|
| 1 | (5)自然景観の豊かさ・美しさ | 81.4% |
| 2 | (7)騒音などの公害の少なさ | 77.5% |
| 3 | (3)高速バスの利用しやすさ | 56.2% |
| 4 | (9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ | 50.9% |
| 5 | (4)自動車の利用しやすさ（幹線道路の整備状況） | 48.2% |

<下位5位>

- | | | |
|----|--------------------------------|-------|
| 37 | (2)路線バスの利用しやすさ | 25.3% |
| 36 | (1)鉄道（駅）の利用しやすさ | 29.1% |
| 35 | (10)地震・水害などの自然災害に対する安全性 | 31.7% |
| 34 | (8)身近な道路の安全性（道路の幅や歩道の有無） | 35.3% |
| 33 | (12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ | 39.9% |

② 地域の住み心地の評価点（加重平均値）

※加重平均値（満足度の評価点）

前項①の《満足》のみによる評価では、《満足》の比率も高く、なおかつ《不満》の比率も高いという場合、項目ごとの比較がやや不明瞭になってしまいます。そこで、比較をより明瞭にするために加重平均値により数量化を試みました。これは下記の計算式にあるように、評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する方法です。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「満足」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや満足」の回答者数} \times 1 \text{点} \\ + \text{「やや不満」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「不満」の回答者数} \times -2 \text{点} \end{array}}{\text{「無回答」を除く回答者数}}$$

この算出法では、評価点は2.00～－2.00点の間に分布し、中間点の0点を境として、2.00点に近くなるほど満足度は高く、－2.00点に近くなるほど満足度は低くなります。

地域の住み心地についての満足度を評価点※でみると、上位には「(5)自然景観の豊かさ・美しさ」と「(7)騒音などの公害の少なさ」の『快適性』の分野となっており、逆に「(2)路線バスの利用しやすさ」と「(1)鉄道（駅）の利用しやすさ」の『利便性』の分野が下位となっています。なお、プラス評価点の項目は4項目のため、上位4位と下位5位は下記のとおりです。

<上位4位>※プラス評価点のみ

- 1 (5)自然景観の豊かさ・美しさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0.96 点
- 2 (7)騒音などの公害の少なさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0.86 点
- 3 (3)高速バスの利用しやすさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0.14 点
- 4 (9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ・・・・・・・・ 0.06 点

<下位5位>

- 12 (2)路線バスの利用しやすさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ -0.79 点
- 11 (1)鉄道（駅）の利用しやすさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ -0.66 点
- 10 (10)地震・水害などの自然災害に対する安全性・・・・・・・・ -0.51 点
- 9 (8)身近な道路の安全性（道路の幅や歩道の有無）・・・・・・ -0.43 点
- 8 (12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ・・・・ -0.24 点

令和元年度調査と比較すると、評価点の増減点数が大きい取り組みは下記のとおりです。

※『デジタル化』分野の2項目は今回調査での新設項目です。

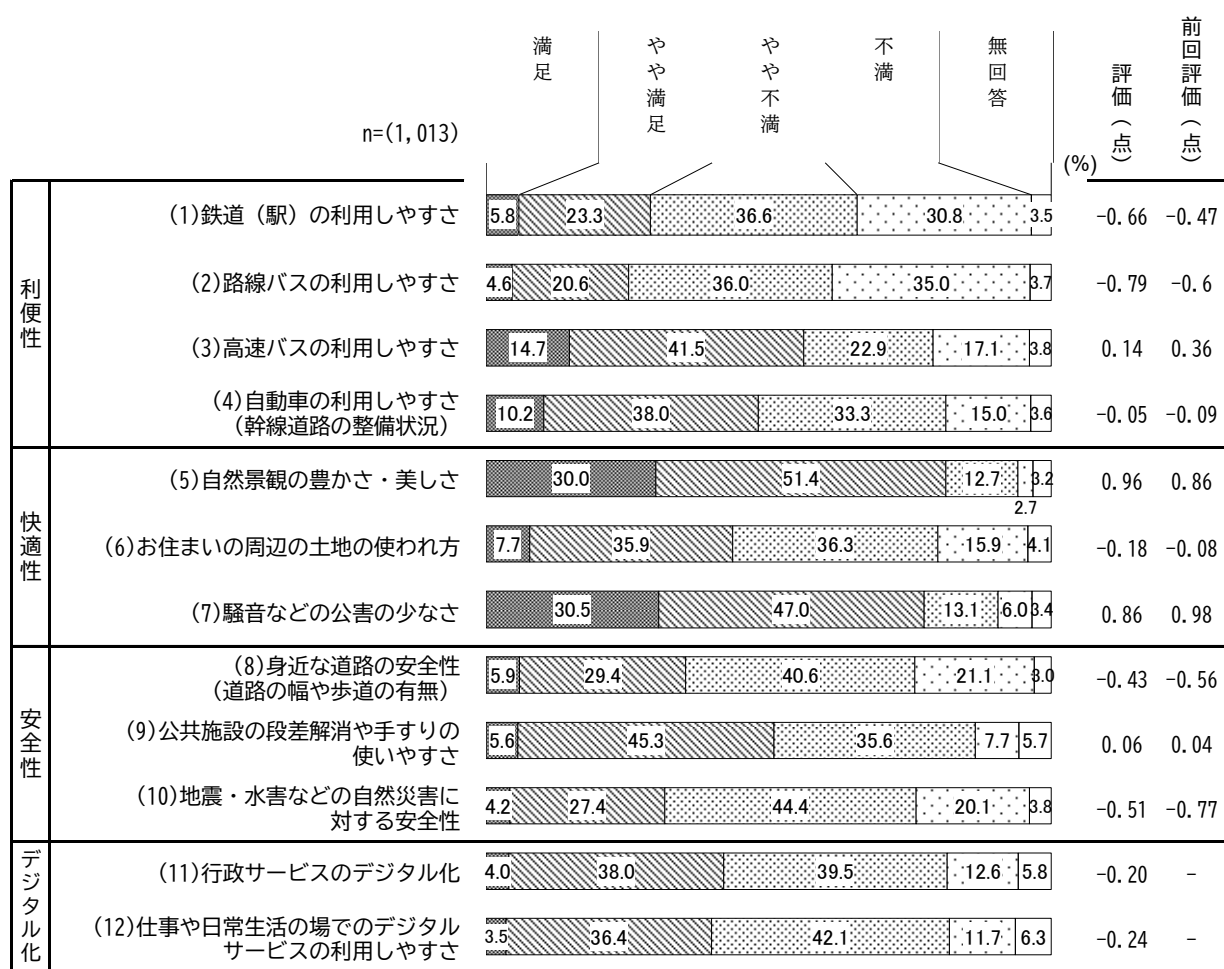
<増加点数が大きい取り組み上位3位>

- 1 (10)地震・水害などの自然災害に対する安全性・・・・・・・・・・ 0.26 点
- 2 (8)身近な道路の安全性（道路の幅や歩道の有無）・・・・・・ 0.13 点
- 3 (5)自然景観の豊かさ・美しさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 0.10 点

<減少点数が大きい取り組み上位3位>

- 1 (3)高速バスの利用しやすさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ -0.22 点
- 2 (1)鉄道（駅）の利用しやすさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ -0.19 点
- 2 (2)路線バスの利用しやすさ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ -0.19 点

<地域の住み心地の満足度（評価点）>



■性別の地域の住み心地の満足度（評価点）（上位3位）

性別に満足度が高い上位3位をみると、男女とも「(5)自然景観の豊かさ・美しさ」、「(7)騒音などの公害の少なさ」、「(3)高速バスの利用しやすさ」の順となっています。

	1 位		2 位		3 位	
男性	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.94	(7)騒音などの公害の少なさ	0.86	(3)高速バスの利用しやすさ	0.17
女性	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.98	(7)騒音などの公害の少なさ	0.86	(3)高速バスの利用しやすさ	0.12

■性別の地域の住み心地の満足度（評価点）（下位3位）

性別に満足度が低い取り組みをみると、男女とも「(2)路線バスの利用しやすさ」、「(1)鉄道（駅）の利用しやすさ」、「(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性」の下位順となっています。

	下位1位		下位2位		下位3位	
男性	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.73	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-0.60	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.44
女性	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.84	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-0.69	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.55

■年代別の地域の住み心地の満足度（評価点）（上位3位）

年代別に住み心地の満足度が高い上位3位をみると、「(5)自然景観の豊かさ・美しさ」が20～50歳代と70歳代以上で1位、「(7)騒音などの公害の少なさ」が10歳代と60歳代で1位となっており、すべての年代でこの2項目が1位と2位を占めています。

また、3位は50歳代以下で「(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ」、60歳代以上で「(3)高速バスの利用しやすさ」となっています。

	1 位		2 位		3 位	
10 歳代	(7)騒音などの公害の少なさ	1.15	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.93	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	0.56
20 歳代	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.92	(7)騒音などの公害の少なさ	0.81	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	0.34
30 歳代	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	1.09	(7)騒音などの公害の少なさ	0.90	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	0.19
40 歳代	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.88	(7)騒音などの公害の少なさ	0.72	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	0.00
50 歳代	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	1.10	(7)騒音などの公害の少なさ	0.89	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	0.09
60 歳代	(7)騒音などの公害の少なさ	0.97	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.80	(3)高速バスの利用しやすさ	0.26
70 歳代	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.94	(7)騒音などの公害の少なさ	0.81	(3)高速バスの利用しやすさ	0.39
80 歳以上	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	1.14	(7)騒音などの公害の少なさ	0.90	(3)高速バスの利用しやすさ	0.40

■年代別の地域の住み心地の満足度（評価点）（下位3位）

年代別に満足度の下位3位をみると、「(2)路線バスの利用しやすさ」は70歳代以外のすべての年代で下位1位となっています。「(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ」は70歳代で下位1位、80歳以上で下位2位となっています。

また、「(1)鉄道（駅）の利用しやすさ」と「(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性」は8年代中6年代で下位2位又は下位3位となっており、「(8)身近な道路の安全性（道路の幅や歩道の有無）」は30歳代以下で下位3位となっています。

	下位1位		下位2位		下位3位	
10歳代	(2)路線バスの利用しやすさ	-1.15	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-1.00	(8)身近な道路の安全性 (10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.41
20歳代	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.75	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-0.72	(8)身近な道路の安全性	-0.18
30歳代	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.91	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-0.88	(8)身近な道路の安全性 (10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.50
40歳代	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.95	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.81	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-0.73
50歳代	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.98	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-0.83	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.58
60歳代	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.92	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.65	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-0.62
70歳代	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	-0.40	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.37	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ (10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.36
80歳以上	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.36	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	-0.34	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.31

■居住地区別の地域の住み心地の満足度（評価点）（上位3位）

居住地区別に住み心地の満足度が高い上位3位をみると、「(5)自然景観の豊かさ・美しさ」が12地区中8地区で1位、「(7)騒音などの公害の少なさ」が残る4地区で1位となっており、すべての地区でこの2項目が1位と2位を占めています。

また、「(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ」が6地区で、「(3)高速バスの利用しやすさ」が5地区で3位となっています。

	1位		2位		3位	
田原	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	1.09	(7)騒音などの公害の少なさ	1.04	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	0.28
西条	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.91	(7)騒音などの公害の少なさ	0.77	(3)高速バスの利用しやすさ	0.51
東条	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	1.04	(7)騒音などの公害の少なさ	0.94	(3)高速バスの利用しやすさ	0.45
鴨川	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.98	(7)騒音などの公害の少なさ	0.69	(3)高速バスの利用しやすさ	0.34
江見	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	1.05	(7)騒音などの公害の少なさ	0.95	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	0.17
太海	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	1.30	(7)騒音などの公害の少なさ	1.10	(4)自動車の利用しやすさ	0.28
曾呂	(7)騒音などの公害の少なさ	1.27	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.67	(3)高速バスの利用しやすさ	0.15
大山	(7)騒音などの公害の少なさ	0.77	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.71	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	-0.16
吉尾	(7)騒音などの公害の少なさ	0.98	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.84	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	0.19
主基	(7)騒音などの公害の少なさ	1.10	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	1.05	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ (11)行政サービスのデジタル化	0.03
天津	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.91	(7)騒音などの公害の少なさ	0.81	(3)高速バスの利用しやすさ	0.01
小湊	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.63	(7)騒音などの公害の少なさ	0.38	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	0.21

■居住地区別の地域の住み心地の満足度（評価点）（下位3位）

居住地区別に満足度の下位3位をみると、「(2)路線バスの利用しやすさ」は12地区中7地区で下位1位となっており、その他の地区でも下位3位以内となっています。「(1)鉄道（駅）の利用しやすさ」は大山地区、主基地区、天津地区で下位1位、「(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性」は鴨川地区と小湊地区で下位1位となっています。

また、「(8)身近な道路の安全性（道路の幅や歩道の有無）」は、東条地区と鴨川地区で下位2位、「(6)お住まいの周辺の土地の使われ方」は江見地区で下位2位となっています。

	下位1位		下位2位		下位3位	
田原	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.85	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-0.75	(8)身近な道路の安全性	-0.55
西条	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.80	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-0.55	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.44
東条	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.89	(8)身近な道路の安全性	-0.66	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-0.64
鴨川	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.48	(8)身近な道路の安全性	-0.44	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.43
江見	(2)路線バスの利用しやすさ	-1.00	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ (6)お住まいの周辺の土地の使われ方			-0.65
太海	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.90	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-0.83	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.42
曾呂	(2)路線バスの利用しやすさ	-1.42	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.97	(6)お住まいの周辺の土地の使われ方	-0.85
大山	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-1.33	(2)路線バスの利用しやすさ	-1.31	(3)高速バスの利用しやすさ (10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.84
吉尾	(2)路線バスの利用しやすさ	-1.11	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-1.00	(3)高速バスの利用しやすさ	-0.56
主基	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-0.72	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.59	(3)高速バスの利用しやすさ	-0.37
天津	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	-0.82	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.76	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.74
小湊	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	-0.74	(2)路線バスの利用しやすさ	-0.40	(6)お住まいの周辺の土地の使われ方	-0.36

① 今後、まちづくりを進めていく上で重要だと思うもの（《重要》の割合）

今後、まちづくりを進めていく上で重要だと思うものを「とても重要」と「やや重要」を合わせた《重要》の割合でみると、『利便性』と『安全性』の分野の項目が上位となっており、逆に「(11)行政サービスのデジタル化」などの『デジタル化』の分野が下位となっています。上位5位と下位5位は下記のとおりです。

<上位5位>

- | | | |
|---|--------------------------|-------|
| 1 | (4)自動車の利用しやすさ（幹線道路の整備状況） | 86.3% |
| 2 | (10)地震・水害などの自然災害に対する安全性 | 86.1% |
| 3 | (8)身近な道路の安全性（道路の幅や歩道の有無） | 86.0% |
| 4 | (3)高速バスの利用しやすさ | 82.3% |
| 5 | (2)路線バスの利用しやすさ | 79.6% |

<下位5位>

- | | | |
|----|--------------------------------|-------|
| 12 | (11)行政サービスのデジタル化 | 71.1% |
| 11 | (12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ | 72.0% |
| 10 | (1)鉄道（駅）の利用しやすさ | 74.7% |
| 9 | (6)お住まいの周辺の土地の使われ方 | 76.6% |
| 8 | (7)騒音などの公害の少なさ | 77.0% |

② 今後、まちづくりを進めていく上で重要だと思うものの評価点（加重平均値）

※加重平均値（満足度の評価点）

前項①の《重要》のみによる評価では、《重要》の比率も高く、なおかつ《非重要》の比率も高いという場合、項目ごとの比較がやや不明瞭になってしまいます。そこで、比較をより明瞭にするために加重平均値により数量化を試みました。これは下記の計算式にあるように、評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する方法です。

$$\text{評価点} = \frac{\begin{array}{l} \text{「とても重要」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「やや重要」の回答者数} \times 1 \text{点} \\ + \text{「あまり重要ではない」の回答者数} \times -1 \text{点} + \text{「重要でない」の回答者数} \times -2 \text{点} \end{array}}{\text{「無回答」を除く回答者数}}$$

この算出法では、評価点は2.00～-2.00点の間に分布し、中間点の0点を境として、2.00点に近くなるほど重要度は高く、-2.00点に近くなるほど重要度は低くなります。

今後、まちづくりを進めていく上で重要だと思うものを評価点※でみると、上位には「(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性」と「(8)身近な道路の安全性（道路の幅や歩道の有無）」の『安全性』の分野となっており、逆に「(11)行政サービスのデジタル化」と「(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ」の『デジタル化』の分野が下位となっています、なお、上位5位と下位5位は下記のとおりです。

<上位5位>

- 1 (10)地震・水害などの自然災害に対する安全性・・・・・・・・・・1.64点
- 2 (8)身近な道路の安全性（道路の幅や歩道の有無）・・・・・・・・1.52点
- 3 (4)自動車の利用しやすさ（幹線道路の整備状況）・・・・・・・・1.47点
- 4 (5)自然景観の豊かさ・美しさ・・・・・・・・・・1.27点
- 5 (3)高速バスの利用しやすさ・・・・・・・・・・1.26点

<下位5位>

- 12 (11)行政サービスのデジタル化・・・・・・・・・・0.87点
- 11 (12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ・・・・0.90点
- 10 (1)鉄道（駅）の利用しやすさ・・・・・・・・・・1.01点
- 9 (6)お住まいの周辺の土地の使われ方・・・・・・・・1.12点
- 8 (7)騒音などの公害の少なさ・・・・・・・・・・1.16点

令和元年度調査と比較すると、評価点の増減点数が大きい取り組みは、下記のとおりです。

※『デジタル化』分野の2項目は今回調査での新設項目です。

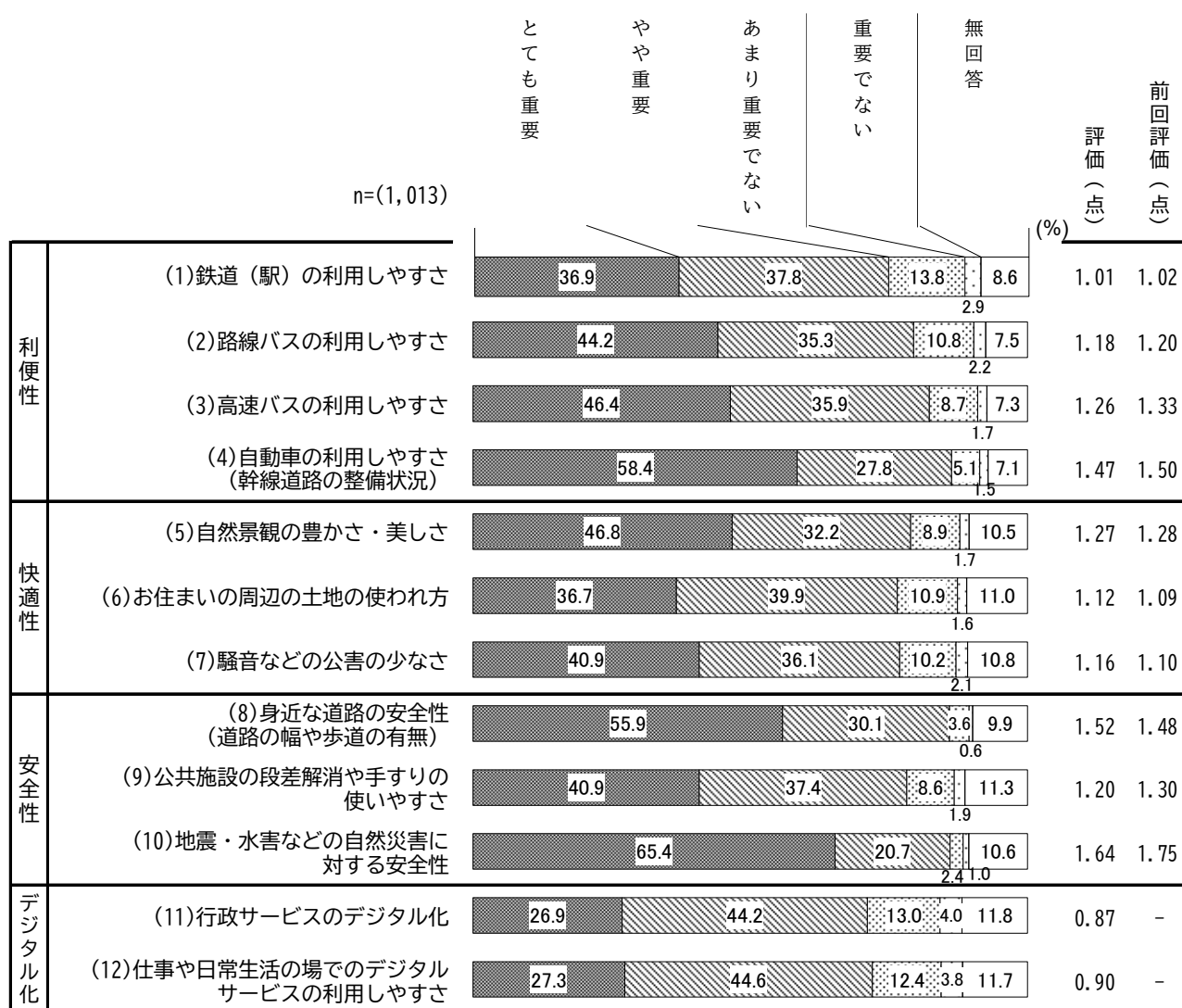
<増加点数が大きい取り組み上位3位>※増加は3項目のみ

- 1 (7)騒音などの公害の少なさ・・・・・・・・・・0.06点
- 2 (8)身近な道路の安全性（道路の幅や歩道の有無）・・・・・・・・0.04点
- 3 (6)お住まいの周辺の土地の使われ方・・・・・・・・0.03点

<減少点数が大きい取り組み上位3位>

- 1 (10)地震・水害などの自然災害に対する安全性・・・・・・・・・・-0.11点
- 2 (9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ・・・・・・・・・・-0.10点
- 2 (2)高速バスの利用しやすさ・・・・・・・・・・-0.07点

<地域の住み心地の重要度（評価点）>



■性別の地域の住み心地の重要度（評価点）（上位3位）

性別に重要度が高い上位3位をみると、男女とも「(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性」、「(8)身近な道路の安全性（道路の幅や歩道の有無）」、「(4)自動車の利用しやすさ（幹線道路の整備状況）」の順となっています。

	1 位		2 位		3 位	
男性	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.55	(8)身近な道路の安全性	1.45	(4)自動車の利用しやすさ	1.41
女性	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.72	(8)身近な道路の安全性	1.57	(4)自動車の利用しやすさ	1.51

■性別の地域の住み心地の重要度（評価点）（下位3位）

性別に重要度が低い取り組みをみると、男性では「(1)鉄道（駅）の利用しやすさ」が下位1位、次いで、「(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ」、「(11)行政サービスのデジタル化」となっています。女性では「(11)行政サービスのデジタル化」が下位1位、次いで「(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ」、「(1)鉄道（駅）の利用しやすさ」となっています。

	下位1位		下位2位		下位3位	
男性	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	0.87	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.88	(11)行政サービスのデジタル化	0.92
女性	(11)行政サービスのデジタル化	0.85	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.92	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	1.10

■年代別の地域の住み心地の重要度（評価点）（上位3位）

年代別に地域の住み心地の重要度が高い上位3位をみると、「(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性」は20歳代から70歳代までの6年代で1位となっており、全ての年代で2位以内となっています。さらに、「(8)身近な道路の安全性」は10歳代で1位、20歳代から70歳代で2位又は3位となっており、「(5)自然景観の豊かさ・美しさ」は80歳以上で1位となっています。

また、「(4)自動車の利用しやすさ」は20歳代以上の7世代で2位又は3位となっています。

	1 位		2 位		3 位	
10 歳代	(8)身近な道路の安全性	1.63	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.62	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	1.50
20 歳代	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.49	(8)身近な道路の安全性	1.47	(4)自動車の利用しやすさ	1.44
30 歳代	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.73	(8)身近な道路の安全性	1.57	(4)自動車の利用しやすさ	1.49
40 歳代	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.71	(4)自動車の利用しやすさ	1.50	(8)身近な道路の安全性	1.48
50 歳代	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.69	(8)身近な道路の安全性	1.55	(4)自動車の利用しやすさ	1.54
60 歳代	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.67	(8)身近な道路の安全性	1.54	(4)自動車の利用しやすさ	1.44
70 歳代	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.57	(8)身近な道路の安全性	1.50	(4)自動車の利用しやすさ (5)自然景観の豊かさ・美しさ	1.41
80 歳以上	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	1.66	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.60	(4)自動車の利用しやすさ	1.55

■年代別の地域の住み心地の重要度（評価点）（下位3位）

年代別に地域の住み心地の重要度の下位3位をみると、「(11)行政サービスのデジタル化」は20歳代から40歳代と80歳以上の4年代で下位1位となっており、残る4年代でも下位3位以内となっています。さらに、「(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ」も50歳代と70歳代で下位1位となっており、残る4年代でも下位3位以内となっています。

また、「(6)お住まいの周辺の土地の使われ方」は10歳代で、「(1)鉄道（駅）の利用しやすさ」は60歳代で下位1位となっています。

	下位1位		下位2位		下位3位	
10歳代	(6)お住まいの周辺の土地の使われ方	0.82	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.88	(11)行政サービスのデジタル化	0.90
20歳代	(11)行政サービスのデジタル化	0.82	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	0.85	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.86
30歳代	(11)行政サービスのデジタル化	0.90	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	1.05	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	1.06
40歳代	(11)行政サービスのデジタル化	0.88	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	0.90	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.94
50歳代	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.95	(11)行政サービスのデジタル化	0.98	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	1.01
60歳代	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	0.80	(11)行政サービスのデジタル化	0.83	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.86
70歳代	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.87	(11)行政サービスのデジタル化	0.89	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	1.01
80歳以上	(11)行政サービスのデジタル化	0.85	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.91	(6)お住まいの周辺の土地の使われ方	1.24

■居住地区別の地域の住み心地の重要度（評価点）（上位3位）

居住地区別に地域の住み心地の重要度が高い上位3位をみると、「(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性」は8地区で1位、残る4地区でも2位となっています。さらに、「(8)身近な道路の安全性」は東条地区と吉尾地区の2地区で、「(4)自動車の利用しやすさ」は大山地区でそれぞれ1位となっており、残る大半の地区でも3位以内となっています。

また、「(2)路線バスの利用しやすさ」が太海地区で1位となっています。

	1 位		2 位		3 位	
田原	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.66	(8)身近な道路の安全性	1.63	(4)自動車の利用しやすさ	1.47
西条	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.72	(4)自動車の利用しやすさ	1.55	(8)身近な道路の安全性	1.42
東条	(8)身近な道路の安全性	1.66	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.65	(4)自動車の利用しやすさ	1.48
鴨川	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.67	(8)身近な道路の安全性	1.53	(4)自動車の利用しやすさ	1.48
江見	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.56	(4)自動車の利用しやすさ	1.49	(8)身近な道路の安全性	1.44
太海	(2)路線バスの利用しやすさ	1.61	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.59	(4)自動車の利用しやすさ	1.34
曾呂	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.63	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	1.53	(4)自動車の利用しやすさ	1.41
大山	(4)自動車の利用しやすさ	1.62	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.57	(8)身近な道路の安全性	1.50
吉尾	(8)身近な道路の安全性	1.63	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.59	(5)自然景観の豊かさ・美しさ	1.48
主基	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.79	(4)自動車の利用しやすさ	1.61	(8)身近な道路の安全性	1.50
天津	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.59	(8)身近な道路の安全性	1.46	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	1.28
小湊	(10)地震・水害などの自然災害に対する安全性	1.67	(4)自動車の利用しやすさ	1.58	(8)身近な道路の安全性	1.42

■居住地区別の地域の住み心地の重要度（評価点）（下位3位）

居住地区別に地域の住み心地の重要度の下位3位をみると、「(11)行政サービスのデジタル化」、「(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ」、「(1)鉄道（駅）の利用しやすさ」はそれぞれ4地区で下位1位となっており、残る地区のほとんどでも下位3位以内に入っています。

また、小湊地区では前記の3項目は下位3位以内に入っておらず、「(3)高速バスの利用しやすさ」、「(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ」、「(6)お住まいの周辺の土地の使われ方」が下位3位となっています。

	下位1位		下位2位		下位3位	
田原	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	0.83	(11)行政サービスのデジタル化	0.84	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.91
西条	(11)行政サービスのデジタル化	0.76	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	0.93	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.95
東条	(11)行政サービスのデジタル化 (12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ			0.87	(6)お住まいの周辺の土地の使われ方	0.99
鴨川	(11)行政サービスのデジタル化	0.87	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.91	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	1.08
江見	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.92	(11)行政サービスのデジタル化	0.93	(3)高速バスの利用しやすさ	1.06
太海	(11)行政サービスのデジタル化	0.65	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.69	(6)お住まいの周辺の土地の使われ方	0.85
曾呂	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	0.88	(11)行政サービスのデジタル化	0.90	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.94
大山	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	0.74	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.95	(11)行政サービスのデジタル化	0.97
吉尾	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.70	(11)行政サービスのデジタル化	0.79	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	0.86
主基	(12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	1.15	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ (11)行政サービスのデジタル化			1.24
天津	(1)鉄道（駅）の利用しやすさ	0.73	(11)行政サービスのデジタル化	0.80	(3)高速バスの利用しやすさ (12)仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	0.82
小湊	(3)高速バスの利用しやすさ	0.91	(9)公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	0.97	(6)お住まいの周辺の土地の使われ方	1.03

《 地域の住み心地における満足度（現状評価）と重要度について 》

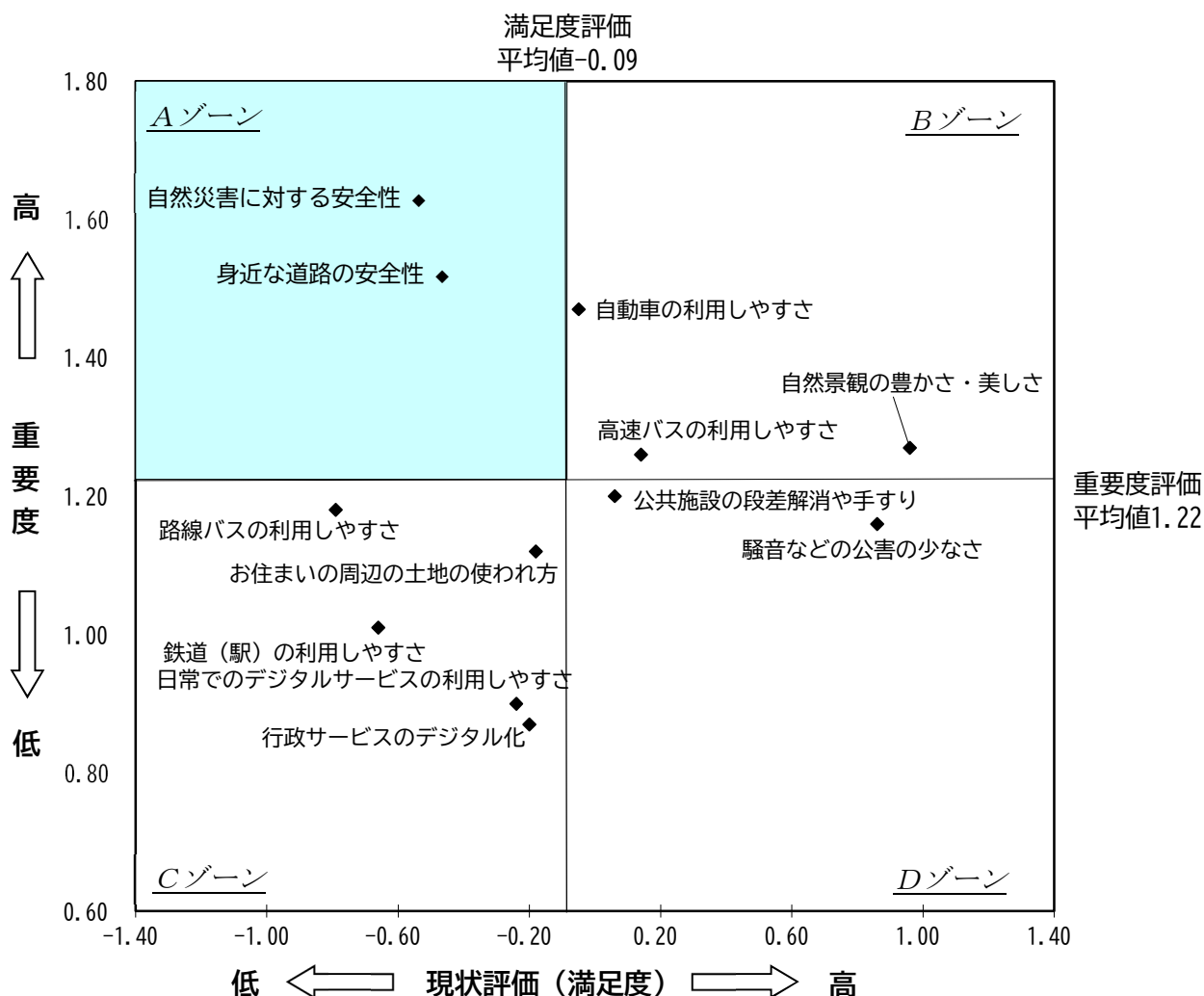
（１）満足度と重要度のプロット図

満足度（現状評価）を横軸に、重要度を縦軸にとって12項目を相対的に評価するため、平均値（満足度平均値-0.09、重要度平均値1.22）を境として、4つの領域に分類しました。

4つの領域の特性は、以下のとおりです。

《 満足度（現状評価） 》

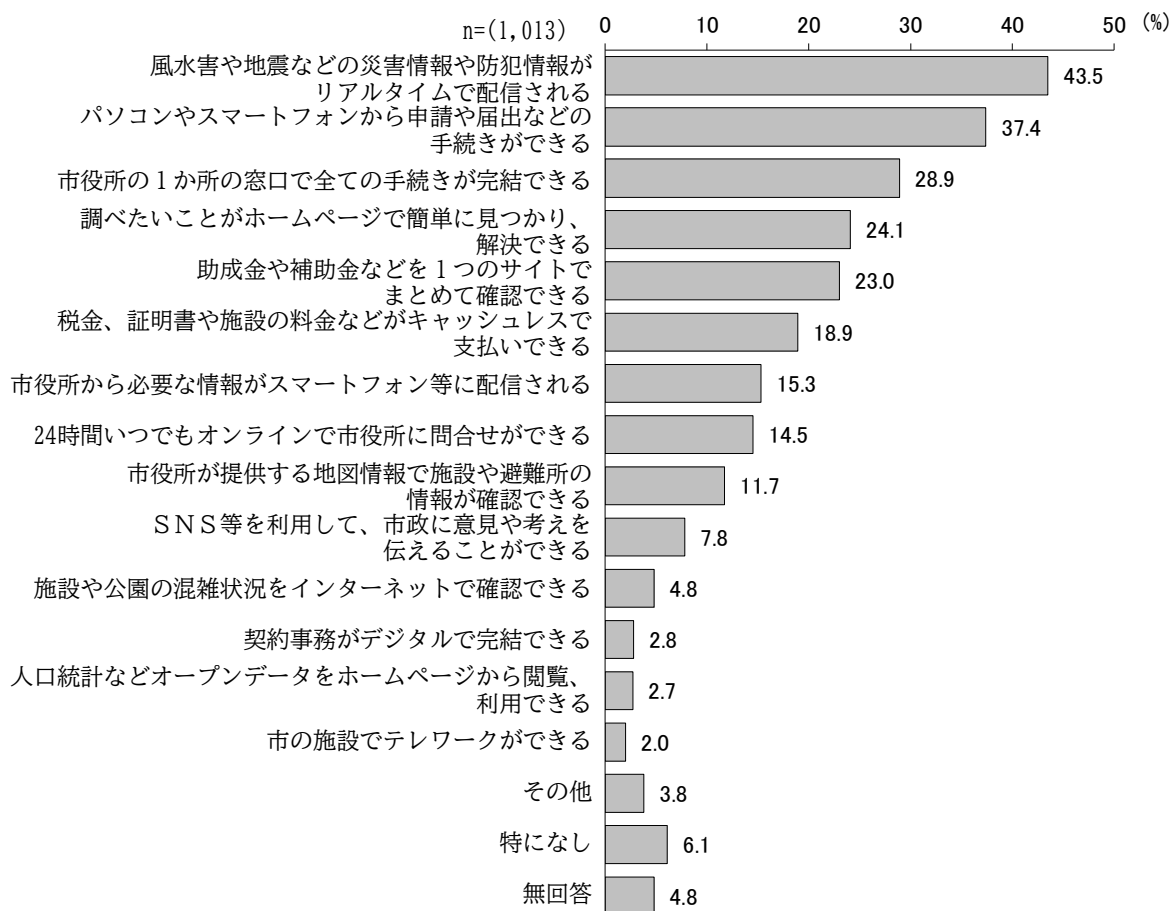
《重要度》	《Aゾーン》 満足度：平均値より低い 重要度：平均値より高い 住み心地を良くするためのニーズが高い項目であり、住み心地を向上させる検討と改善が求められます。「自然災害に対する安全性」と「身近な道路の安全性」の2項目が該当しています。	《Bゾーン》 満足度：平均値より高い 重要度：平均値より高い 住み心地に対するニーズを満たしている項目であり、今後も水準維持のために着実に取り組むことが求められます。「自動車の利用しやすさ」「自然景観の豊かさ・美しさ」「高速バスの利用しやすさ」の3項目が該当しています。
	《Cゾーン》 満足度：平均値より低い 重要度：平均値より低い 全体的にみて重要性の認識が低いため満足度も低くなっています。地区別に見て重要度が高い地区においては改善が求められます。「路線バスの利用しやすさ」「行政サービスのデジタル化」等最多5項目が該当しています。	《Dゾーン》 満足度：平均値より高い 重要度：平均値より低い 重要性の認識が低いものの満足度が高くなっています。地区別に見て重要性の認識を高めることが求められます。「騒音などの公害の少なさ」「公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ」の2項目が該当しています。



(11) 行政サービスのデジタル化で実現してほしいこと

問11 市が行政サービスのデジタル化を推進するに当たり、実現してほしいサービスはありますか。
【3つまで○】

行政サービスのデジタル化で実現してほしいサービスは、「風水害や地震などの災害情報や防犯情報がリアルタイムで配信される」が43.5%で最も高く、次いで「パソコンやスマートフォンから申請や届出などの手続きができる」(37.4%)、「市役所の1か所の窓口で全ての手続きが完結できる」(28.9%)の順となっています。



■性別・年代別

行政サービスのデジタル化で実現してほしいサービスを性別にみると、「風水害や地震などの災害情報や防犯情報がリアルタイムで配信される」は女性で最も高く、割合では男性より8.6ポイント高く、逆に「パソコンやスマートフォンから申請や届出などの手続きができる」は男性で最も高く、割合では女性より5.0ポイント高くなっています。

年代別にみると、「風水害や地震などの災害情報や防犯情報がリアルタイムで配信される」は50歳代以上の年代で最も高く、60歳代で5割と最も高い割合となっています。また、「パソコンやスマートフォンから申請や届出などの手続きができる」は40歳代以下の年代で最も高く、20歳代と30歳代で6割強と高い割合となっています。

単位：％

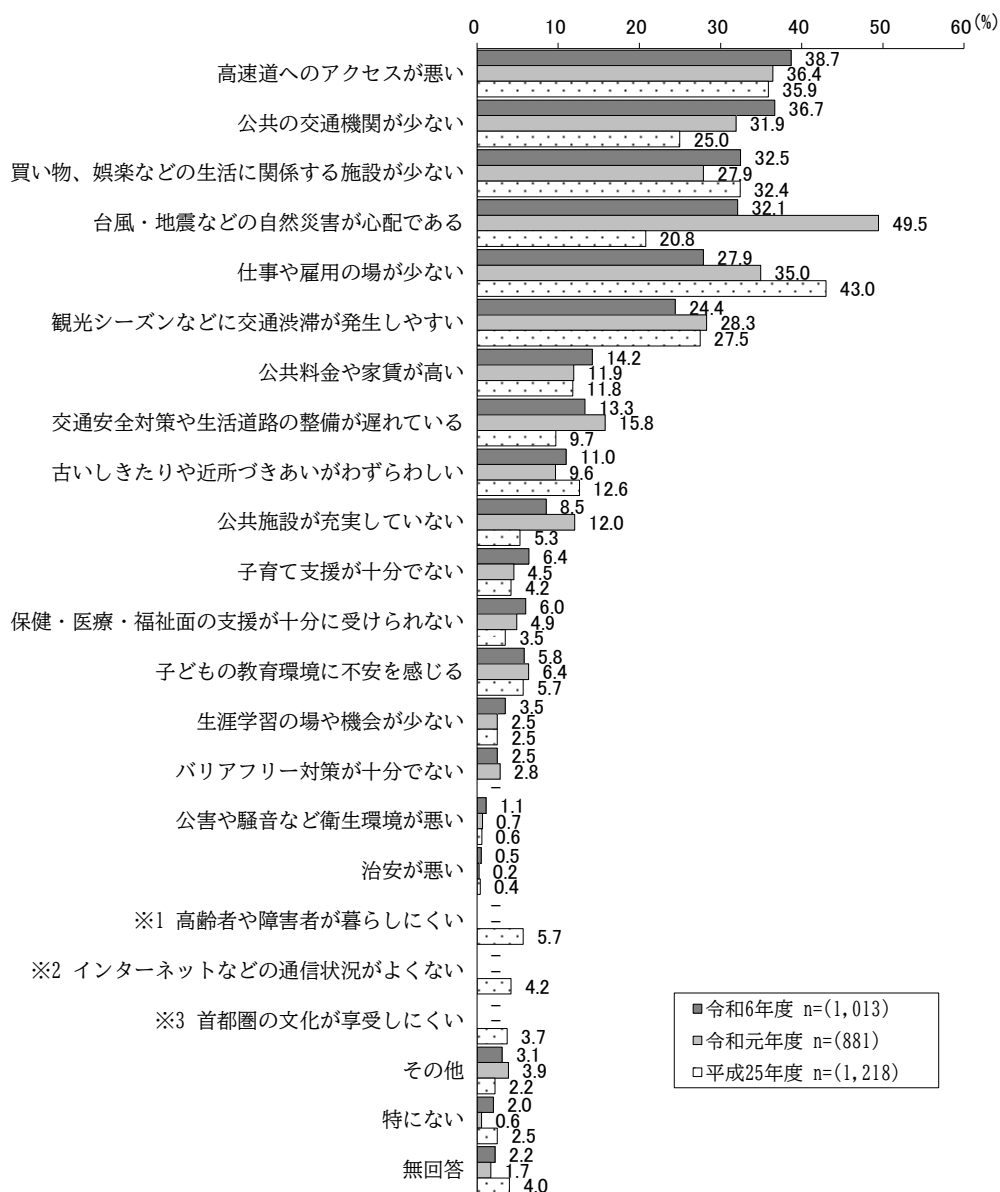
	調査数	風水害や地震などの災害情報がリアルタイムで配信される	パソコンやスマートフォンから申請や届出などの手続きができる	市役所の1か所の窓口で全ての手続きが完了できる	調べたいことがホームページで簡単に見つかり、解決できる	助成金や補助金などを1つのサイトでまとめて確認できる	税金、証明書や施設の料金などがキャッシュレスで支払いできる	市役所から必要な情報がスマートフォン等に配信される	24時間いつでもオンラインで市役所に問合せができる	市役所が提供する地図情報で施設や避難所の情報が確認できる	SNS等を利用して、市政に意見や考えを伝えることができる	施設や公園の混雑状況をインターネットで確認できる	契約事務がデジタルで完結できる	人口統計などオープンデータをホームページから閲覧、利用できる	市の施設でテレワークができる	その他	特になし	無回答
全 体	1,013	43.5	37.4	28.9	24.1	23.0	18.9	15.3	14.5	11.7	7.8	4.8	2.8	2.7	2.0	3.8	6.1	4.8
性別																		
男性	427	38.6	40.5	28.3	23.2	23.9	20.8	15.9	16.2	9.4	9.6	4.4	1.9	3.3	1.4	1.6	7.5	4.9
女性	581	47.2	35.5	29.3	25.0	22.5	17.6	14.8	13.4	13.3	6.5	5.2	3.4	2.1	2.4	5.5	5.0	4.8
年代別																		
10歳代	41	36.6	48.8	19.5	9.8	17.1	26.8	17.1	19.5	12.2	19.5	17.1	4.9	2.4	2.4	-	4.9	2.4
20歳代	72	27.8	61.1	23.6	20.8	30.6	31.9	12.5	15.3	5.6	8.3	6.9	4.2	-	2.8	2.8	5.6	-
30歳代	101	32.7	61.4	23.8	19.8	26.7	37.6	13.9	14.9	8.9	9.9	13.9	4.0	1.0	4.0	1.0	3.0	2.0
40歳代	167	47.3	53.3	22.8	30.5	26.9	24.0	13.2	13.8	7.8	9.0	5.4	6.0	3.0	1.8	3.6	2.4	3.6
50歳代	172	45.9	43.0	26.2	27.9	25.0	20.9	15.7	15.1	8.7	8.1	2.9	3.5	3.5	1.7	2.9	4.7	3.5
60歳代	173	50.9	32.4	27.7	29.5	25.4	12.1	19.7	16.2	13.9	8.7	2.3	1.7	1.2	0.6	2.9	4.6	4.0
70歳代	177	47.5	12.4	40.1	18.6	16.9	8.5	16.4	14.7	16.4	4.0	1.1	-	5.1	1.1	9.0	10.7	6.2
80歳以上	84	41.7	9.5	39.3	21.4	15.5	6.0	11.9	8.3	19.0	4.8	2.4	-	2.4	3.6	2.4	10.7	14.3

(12) 市内で生活していて不便に感じていることや困っていること

問12 鴨川市で生活していて、不便に感じていることや困っていることはありますか。あてはまる番号を3つまで選んで○印を付けてください。【3つまで○】

市内で生活していて不便に感じていることや困っていることは、「高速道へのアクセスが悪い」が38.7%で最も高く、次いで「公共の交通機関が少ない」(36.7%)、「買い物、娯楽などの生活に係る施設が少ない」(32.5%)、「台風・地震などの自然災害が心配である」(32.1%)が3割台で続いています。

過去の調査と比較すると、平成25年度調査では「仕事や雇用場が少ない」が43.0%で最も高く、「高速道へのアクセスが悪い」が2位でしたが、令和元年度調査では、「台風・地震などの自然災害が心配である」が49.5%と最も高く、「高速道へのアクセスが悪い」が2位でした。



※「保健・医療・介護・福祉面の支援が十分に受けられない」は、令和元年度では「保健・医療・福祉面の支援が十分に受けられない」

※「インターネットなどの通信状況がよいくない」「高齢者や障害者が暮らしにくい」「首都圏の文化が享受しにくい」は令和元年度から削除

※「バリアフリー対策が十分でない」は令和元年度からの新設項目

■性別・年代別

市内で生活していて不便に感じていることや困っていることを性別にみると、「高速道へのアクセスが悪い」は男性で最も高く、割合では女性より13.7ポイント高く、逆に「公共の交通機関が少ない」は女性で最も高く、割合では男性より9.2ポイント高くなっています。

年代別にみると、「高速道へのアクセスが悪い」は20歳代から50歳代の年代で最も高く、「公共の交通機関が少ない」は10歳代と60歳代で最も高く、「台風・地震などの自然災害が心配である」は70歳代以上の年代で最も高くなっています。

■居住地区別

居住地区別にみると、「高速道へのアクセスが悪い」は田原地区、西条地区、東条地区、鴨川地区の4地区で最も高く、「公共の交通機関が少ない」は田原地区、江見地区、大山地区、吉尾地区の4地区、「台風・地震などの自然災害が心配である」は曾呂地区、天津地区、小湊地区の3地区、「仕事や雇用の方が少ない」は太海地区、主基地区の2地区、「買い物、娯楽などの生活に関する施設が少ない」は田原地区でそれぞれ最も高い割合となっています。

単位：％																						
		調査数	高速道へのアクセスが悪い	公共の交通機関が少ない	買い物、娯楽などの生活に係る施設が少ない	台風・地震などの自然災害が心配である	仕事や雇用の方が少ない	観光シーズンなどに交通渋滞が発生しやすい	公共料金や家賃が高い	交通安全対策や生活道路の整備が遅れている	古いしきたりや近所づきあいがわずらわしい	公共施設が充実していない	子育て支援が十分でない	保健・医療・介護・福祉面の支援が十分に受けられない	子どもの教育環境に不安を感じる	生涯学習の場や機会が少ない	バリアフリー対策が十分でない	公害や騒音など衛生環境が悪い	治安が悪い	その他	特にない	無回答
全 体		1,013	38.7	36.7	32.5	32.1	27.9	24.4	14.2	13.3	11.0	8.5	6.4	6.0	5.8	3.5	2.5	1.1	0.5	3.1	2.0	2.2
性別	男性	427	46.6	31.6	27.2	28.6	29.3	28.1	11.7	16.2	11.9	8.0	5.6	7.0	4.2	4.2	2.1	0.9	0.5	2.6	2.8	2.1
	女性	581	32.9	40.8	36.5	34.4	26.9	21.7	16.2	11.4	10.2	9.0	6.9	5.0	7.1	2.9	2.6	1.2	0.5	3.4	1.4	2.2
年代別	10歳代	41	39.0	68.3	53.7	19.5	12.2	24.4	4.9	19.5	7.3	4.9	9.8	2.4	4.9	7.3	7.3	-	2.4	-	-	-
	20歳代	72	54.2	41.7	43.1	11.1	15.3	23.6	27.8	11.1	9.7	2.8	9.7	6.9	4.2	-	1.4	2.8	-	4.2	2.8	1.4
	30歳代	101	51.5	32.7	46.5	24.8	18.8	16.8	18.8	5.0	11.9	13.9	21.8	1.0	15.8	1.0	3.0	-	-	-	1.0	1.0
	40歳代	167	48.5	41.3	28.1	29.3	24.0	22.2	18.0	9.6	12.6	7.2	9.6	6.6	16.2	1.2	1.8	1.2	-	3.6	0.6	3.0
	50歳代	172	44.8	34.3	34.3	26.7	37.2	26.2	14.0	16.3	11.6	6.4	2.9	4.1	3.5	1.2	0.6	0.6	1.2	5.2	2.9	1.7
	60歳代	173	35.8	36.4	27.2	35.8	32.4	27.7	12.1	15.6	8.7	6.9	2.9	8.1	2.9	6.4	2.3	1.7	-	4.0	2.3	2.3
	70歳代	177	25.4	28.8	26.0	43.5	33.9	28.2	13.0	15.8	8.5	10.7	1.7	7.3	-	4.0	4.0	0.6	0.6	1.1	1.7	2.8
	80歳以上	84	17.9	34.5	27.4	45.2	26.2	20.2	3.6	15.5	15.5	13.1	-	9.5	-	10.7	3.6	1.2	-	2.4	3.6	2.4
居住地区別	田原地区	76	38.2	38.2	38.2	25.0	23.7	30.3	22.4	9.2	18.4	7.9	5.3	6.6	5.3	1.3	-	-	-	3.9	-	1.3
	西条地区	117	41.9	40.2	36.8	23.9	29.1	32.5	12.8	12.8	11.1	10.3	5.1	8.5	4.3	6.8	4.3	-	-	3.4	0.9	0.9
	東条地区	203	38.9	38.4	31.0	30.5	24.1	29.6	14.8	15.3	5.4	8.4	8.9	3.4	9.4	3.4	3.4	2.0	-	2.0	2.0	3.0
	鴨川地区	210	48.1	36.2	34.8	29.0	24.3	20.0	20.0	13.3	7.1	10.5	6.2	6.2	4.3	2.4	2.9	1.4	1.4	3.3	1.4	1.9
	江見地区	66	33.3	47.0	22.7	33.3	33.3	16.7	15.2	13.6	10.6	10.6	4.5	6.1	3.0	3.0	1.5	-	-	7.6	4.5	1.5
	太海地区	32	31.3	21.9	18.8	37.5	40.6	15.6	6.3	9.4	28.1	12.5	9.4	3.1	12.5	3.1	-	3.1	-	-	-	6.3
	曾呂地区	36	27.8	30.6	16.7	44.4	41.7	11.1	5.6	5.6	13.9	5.6	11.1	16.7	2.8	11.1	-	-	-	2.8	2.8	2.8
	大山地区	39	28.2	35.9	33.3	28.2	28.2	20.5	12.8	23.1	7.7	-	-	17.9	2.6	7.7	-	2.6	-	5.1	7.7	-
	吉尾地区	45	26.7	42.2	33.3	26.7	20.0	22.2	13.3	17.8	4.4	15.6	11.1	2.2	6.7	2.2	2.2	4.4	2.2	2.2	2.2	4.4
	主基地区	40	32.5	35.0	22.5	27.5	55.0	22.5	-	7.5	30.0	2.5	5.0	5.0	5.0	5.0	-	2.5	-	-	5.0	-
	天津地区	102	38.2	36.3	39.2	46.1	25.5	26.5	9.8	12.7	12.7	5.9	5.9	2.9	6.9	1.0	3.9	-	-	2.0	-	2.0
	小湊地区	36	36.1	13.9	33.3	55.6	27.8	27.8	8.3	11.1	13.9	2.8	2.8	5.6	5.6	5.6	-	-	2.8	-	5.6	5.6

■居住意向別／市内で生活していて不便に感じていることや困っていること（上位5位）

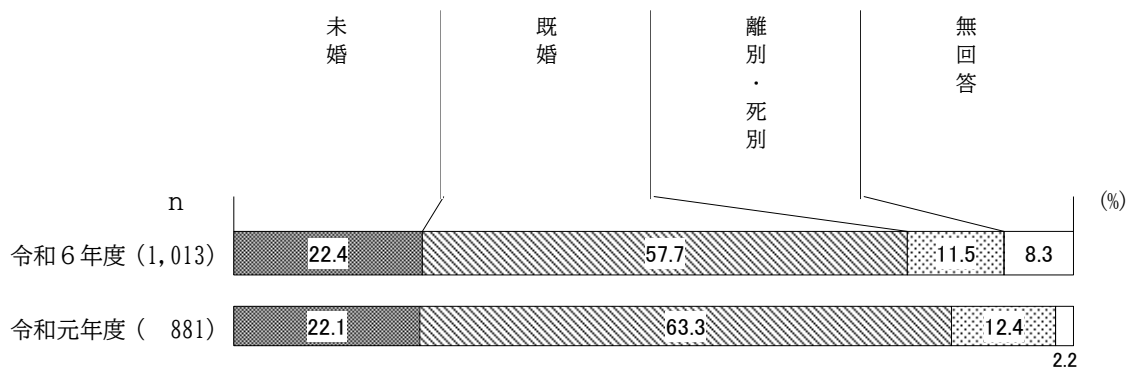
市内で生活していて不便に感じていることや困っていることを居住意向別にみると、“ずっと住み続けたい”人にとっては「台風・地震などの自然災害が心配である」が40.1%で、“すぐにでも転居したい”人の21.9%の約2倍の割合となっています。一方、“すぐにでも転居したい”人にとっては「買い物、娯楽などの生活に係る施設が少ない」が53.1%で、“ずっと住み続けたい”人の26.7%の約2倍の割合となっています。

	1 位		2 位		3 位		4 位		5 位	
ずっと住み続けたい	台風・地震などの自然災害が心配である	40.1	仕事や雇用の場が少ない	34.2	高速道へのアクセスが悪い	32.2	公共の交通機関が少ない	31.4	買い物、娯楽などの生活に係る施設が少ない	26.7
当分は住み続けたい	高速道へのアクセスが悪い	40.8	公共の交通機関が少ない	37.8	買い物、娯楽などの生活に係る施設が少ない	35.0	台風・地震などの自然災害が心配である	27.8	観光シーズンなどに交通渋滞が発生しやすい	26.0
市外の別の場所にやがては転居したい	高速道へのアクセスが悪い	50.6	公共の交通機関が少ない	45.1	買い物、娯楽などの生活に係る施設が少ない	37.0	台風・地震などの自然災害が心配である	22.8	仕事や雇用の場が少ない	21.0
すぐにでも転居したい	買い物、娯楽などの生活に係る施設が少ない	53.1	高速道へのアクセスが悪い	46.9	公共の交通機関が少ない	37.5	仕事や雇用の場が少ない	31.3	台風・地震などの自然災害が心配である	21.9

(13) 結婚の有無

問13 現在、あなたは結婚していますか。【1つに〇】

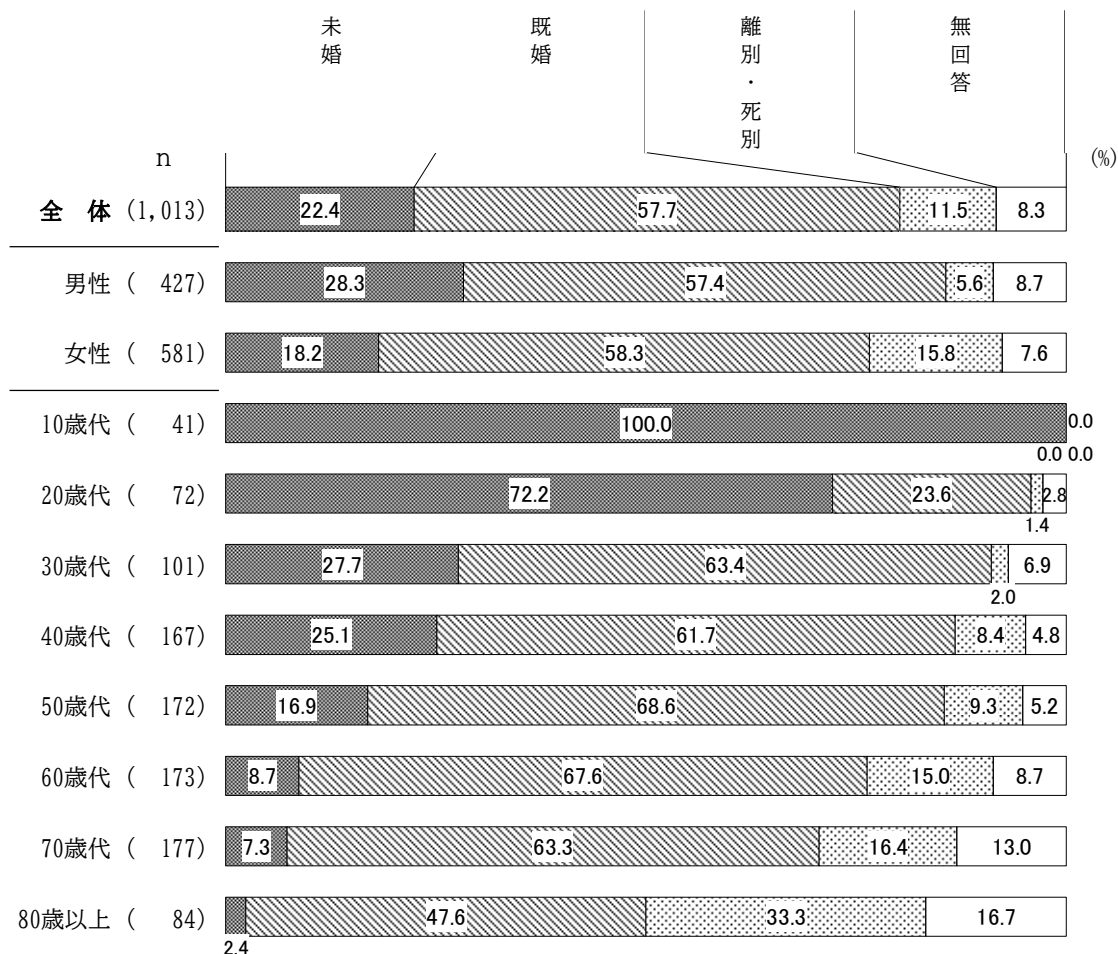
結婚の有無は、「既婚」が57.7%、「未婚」が22.4%、「離別・死別」が11.5%となっています。
令和元年度調査と比較すると、「既婚」が5.6ポイント減少しています。



■性別・年代別

性別にみると、「未婚」は男性の方が約10ポイント、「離別・死別」は女性の方が約10ポイントそれぞれ高くなっています。

年代別にみると、「未婚」は20歳代で72.2%、30歳代で27.7%、40歳代で25.1%、50歳代で16.9%となっています。



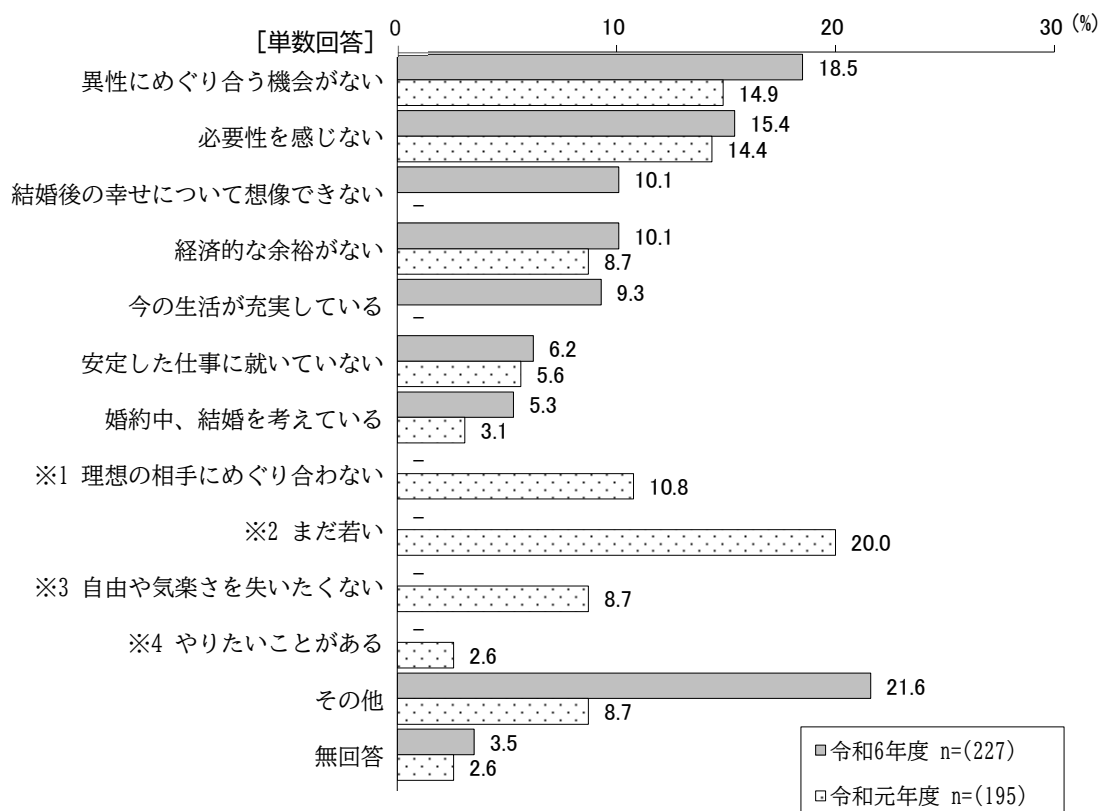
(14) 結婚していない理由

(問13で、「1」に○をつけた方に伺います。)

問14 どのような理由で結婚していませんか。【1つに○】

前問で「未婚」と回答した方にその理由をたずねたところ、「異性にめぐり合う機会がない」が18.5%、「必要性を感じない」が15.4%、「結婚後の幸せについて想像できない」と「経済的な余裕がない」がそれぞれ10.1%となっています。

また、「その他」が21.6%で最も高くなっていますが、その約半数は「学生のため」「未成年のため」となっています。



※1～4の選択肢は、今年度調査から削除

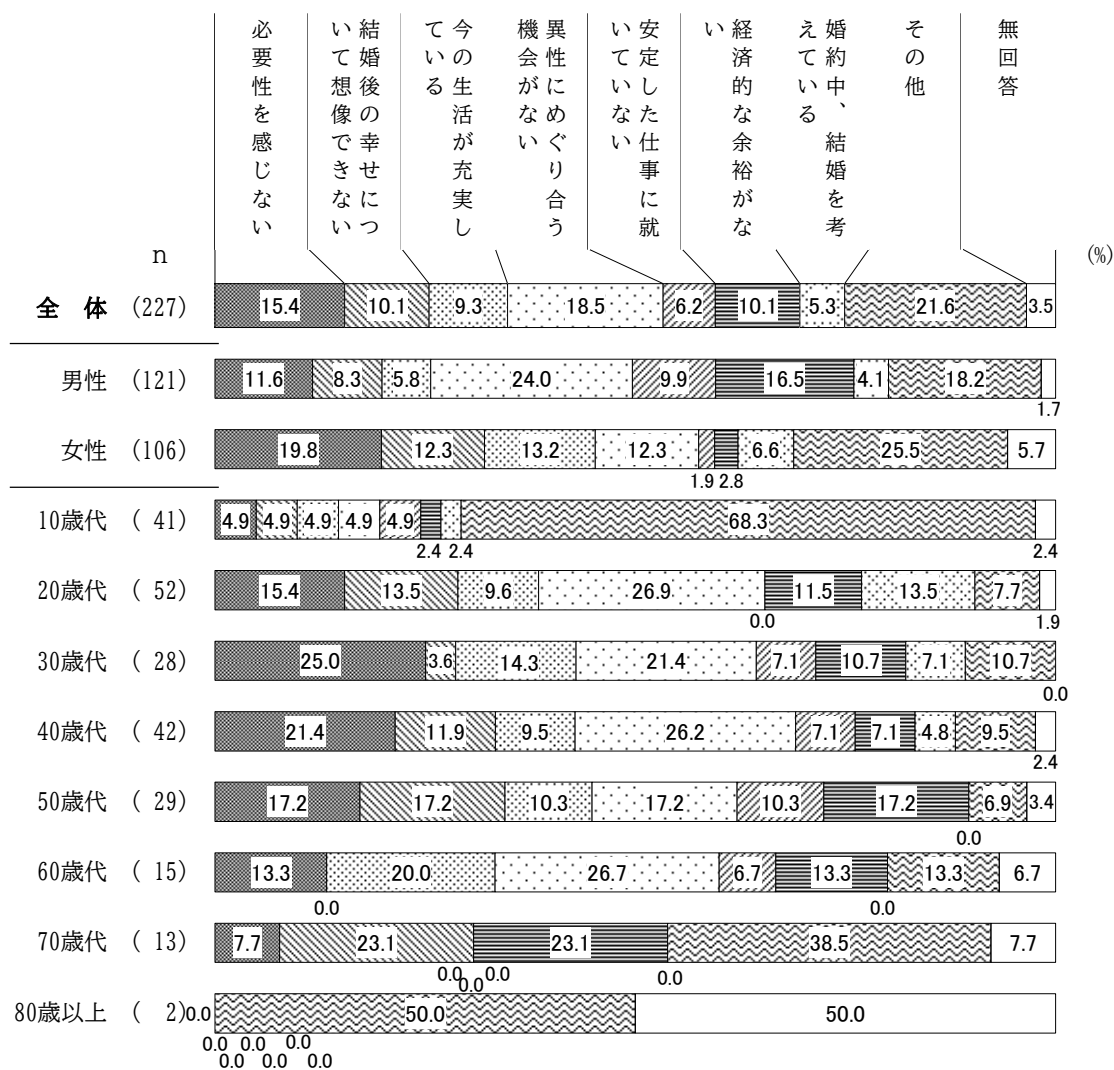
※「結婚後の幸せについて想像できない」と「今の生活が充実している」は今回令和6年度調査で新設

■性別・年代別

性別にみると、男性では、「異性にめぐり合う機会がない」が24.0%で最も高く、次いで「経済的な余裕がない」(16.5%)となっているのに対して、女性では「必要性を感じない」が19.8%で最も高く、次いで「今の生活が充実している」(13.2%)となっています。

年代別にみると、多くの年代でサンプル数が少ないため参考までに図示しています。

※「学生・未成年のため」を多く含む「その他」を除外して分析しています。



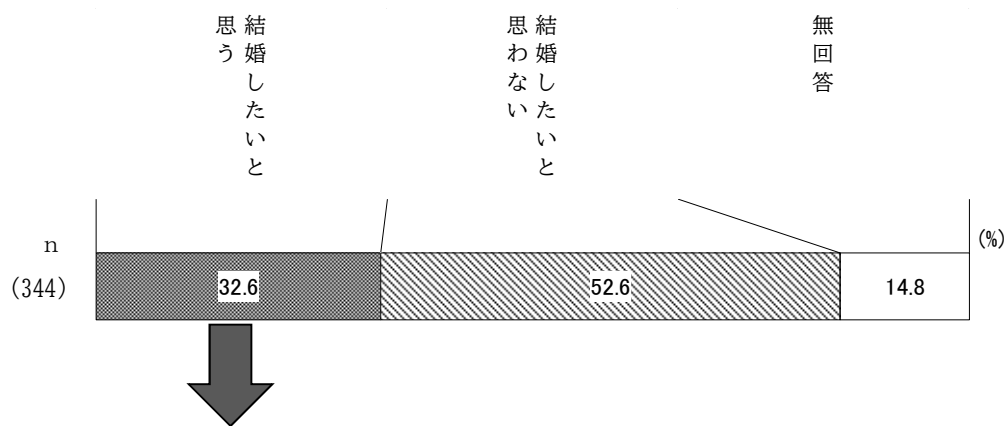
(15) 将来の結婚意向

(問13で、「1」または「3」に○を付けた方に伺います。)

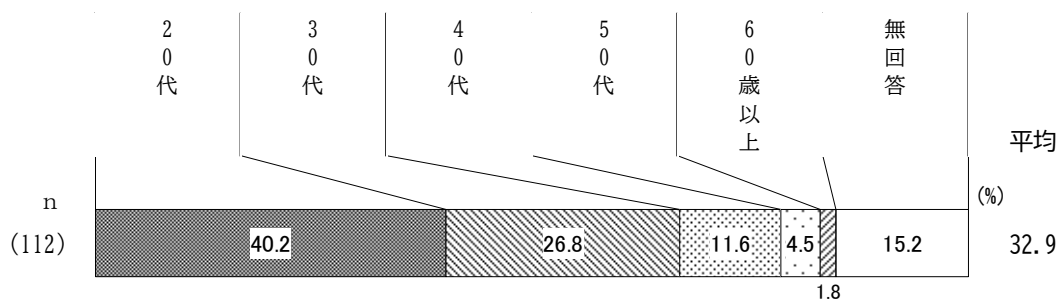
問15 将来の結婚の希望について、ご回答ください。【1つに○】

前問において「未婚」または「離別・死別」と回答した方に、将来の結婚の希望についてたずねたところ、「結婚したいと思わない」が52.6%で、「結婚したいと思う」(32.6%)を上回っています。

また、「結婚したいと思う」と回答した方にその年齢をたずねたところ、「20代」が40.2%で最も高く、次いで「30代」(26.8%)、「40代」(11.6%)となっており、結婚したいと思う平均年齢は32.9歳となっています。



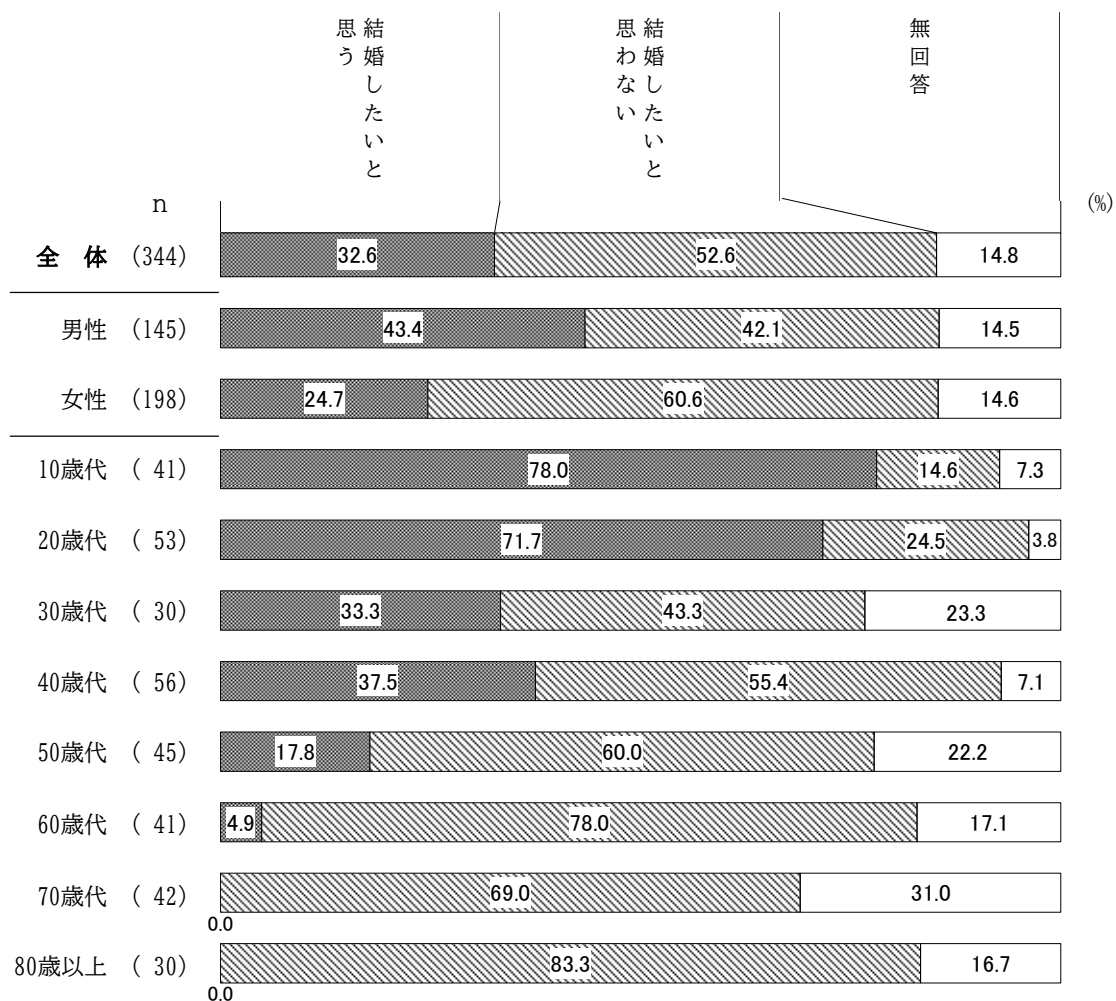
■結婚したいと思う年齢



■性別・年代別

将来の結婚の希望について性別にみると、男性では、「結婚したいと思う」が43.4%で「結婚したいと思わない」(42.1%)をわずかに上回っていますが、女性では「結婚したいと思わない」が60.6%で「結婚したいと思う」(24.7%)を大幅に上回っています。

年代別にみると、10歳代と20歳代では「結婚したいと思う」が「結婚したいと思わない」を大きく上回っていますが、30歳代で「結婚したいと思わない」(43.3%)が「結婚したいと思う」(33.3%)を逆転し、40歳代で「結婚したいと思わない」(55.4%)が「結婚したいと思う」(37.5%)を大幅に上回っています。



(16) 理想とする子どもの人数

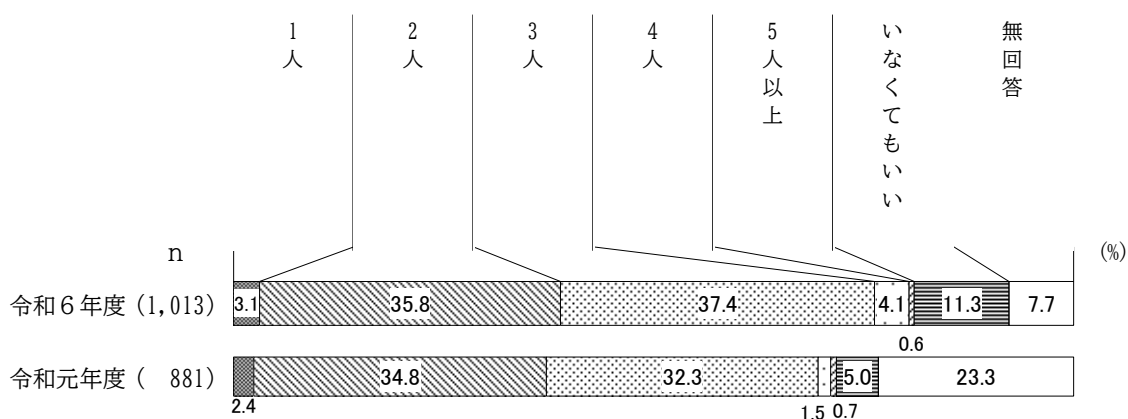
(再び、全員に伺います。)

問16 理想とする子どもの数は何人ですか(子育て中の方は、既にいるお子さんの数を含みます)。

【1つに〇】

理想とする子どもの人数は、「3人」が37.4%で最も高く、「2人」(35.8%)が僅差が続いています。一方、「いなくてもいい」が11.3%となっています。

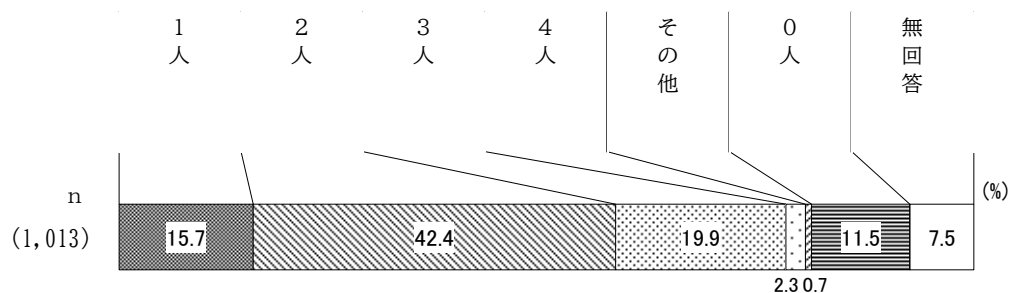
令和元年度調査と比較すると、「3人」が5.1ポイント増加しており、「2人」を逆転しています。一方、「いなくてもいい」も6.3ポイント増加しています。



(17) 現実に持てると思う子どもの人数

問17 理想とは別に、現実に持てると思う子どもの数は何人ですか(子育て中の方は、既にいるお子さんの数を含みます)。【1つに〇】

理想とは別に、現実に持てると思う子どもの人数は、「2人」が42.4%で最も高く、次いで「3人」(19.9%)、「1人」(15.7%)となっています。一方、「0人」(11.5%)が1割を超えています。

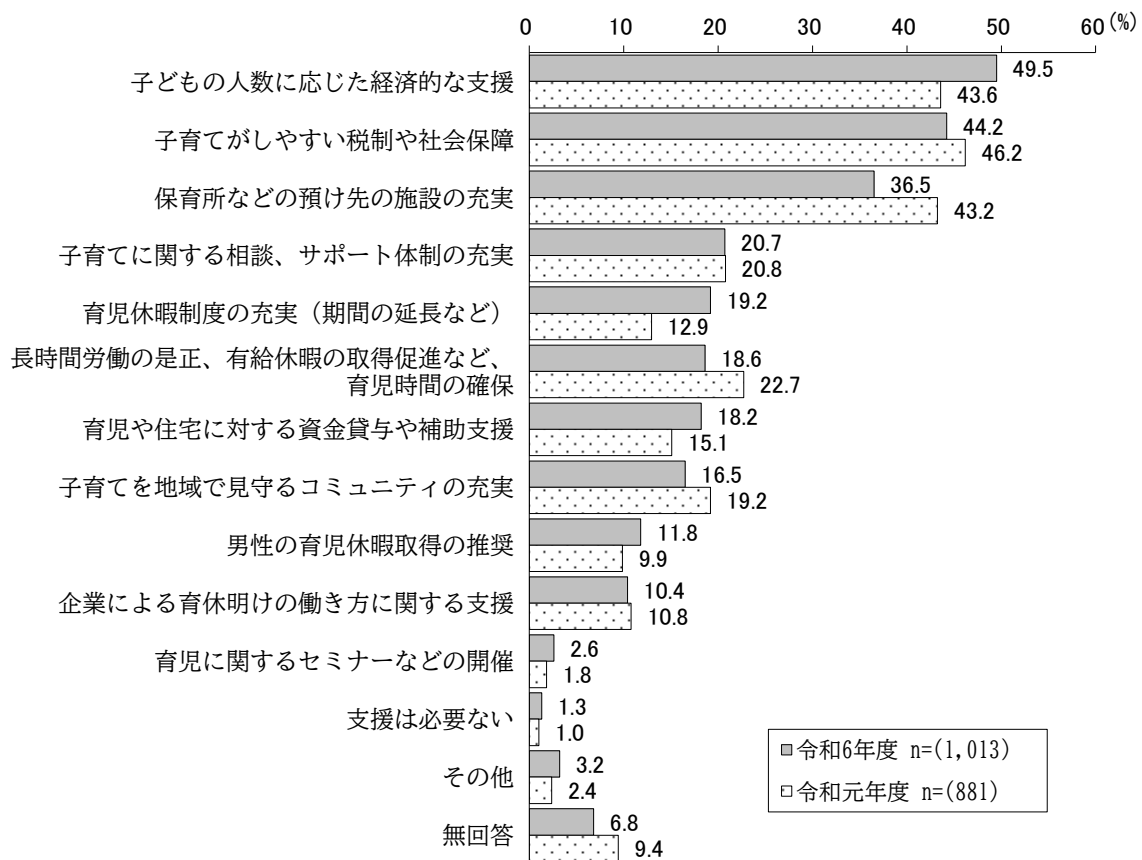


(18) 子育てしやすい環境をつくるためにあればいいと思う支援

問 18 子育てしやすい環境をつくるには、どのような支援があればよいと思いますか。【3つまで○】

子育てしやすい環境をつくるためにあればいいと思う支援は、「子どもの人数に応じた経済的な支援」が49.5%で最も高く、次いで「子育てがしやすい税制や社会保障」(44.2%)、「保育所などの預け先の施設の充実」(36.5%)となっています。

令和元年度調査と比較すると、「育児休暇制度の充実(期間の延長など)」が6.3ポイント、「子どもの人数に応じた経済的な支援」が5.9ポイント、それぞれ増加しています。逆に「保育所などの預け先の施設の充実」が6.7ポイント減少しています。



■性別・年代別

子育てしやすい環境をつくるためにあればいいと思う支援について性別にみると、男女ともに「子どもの人数に応じた経済的な支援」が最も高く、次いで「子育てがしやすい税制や社会保障」となっていますが、割合で見ると2項目とも男性の方が8～10ポイント高くなっています。

年代別にみると、「子どもの人数に応じた経済的な支援」は60歳代以外の年代で最も高くなっています。60歳代では「子育てがしやすい税制や社会保障」が最も高く、70歳代でも同率で最も高くなっています。

単位：％

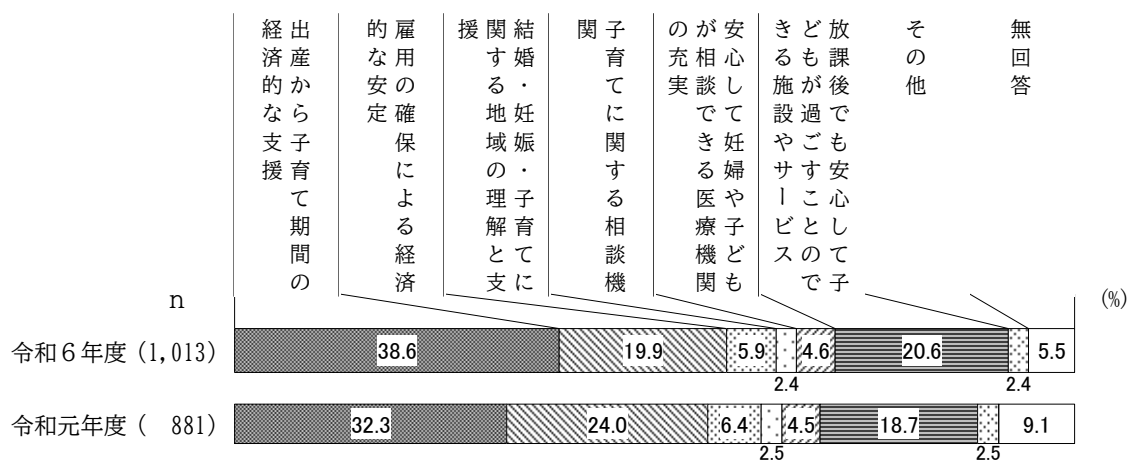
		調査数	子どもの人数に応じた経済的な支援	子育てがしやすい税制や社会保障	保育所などの預け先の施設の充実	子育てに関する相談、サポート体制の充実	育児休暇制度の充実（期間の延長など）	長時間労働の是正、有給休暇の取得促進など、育児時間の確保	育児や住宅に対する資金貸与や補助支援	子育てを地域で見守るコミュニティの充実	男性の育児休暇取得の推奨	企業による育休明けの働き方に関する支援	育児に関するセミナーなどの開催	支援は必要ない	その他	無回答
全 体		1,013	49.5	44.2	36.5	20.7	19.2	18.6	18.2	16.5	11.8	10.4	2.6	1.3	3.2	6.8
性別	男性	427	55.5	48.7	33.0	21.3	15.9	17.1	21.8	16.9	12.6	5.6	2.8	2.3	2.6	6.6
	女性	581	44.9	40.8	39.2	20.5	21.9	19.8	15.5	16.4	11.2	13.6	2.4	0.5	3.6	6.9
年代別	10歳代	41	43.9	41.5	29.3	12.2	36.6	26.8	24.4	26.8	26.8	9.8	4.9	-	2.4	-
	20歳代	72	62.5	40.3	25.0	23.6	27.8	13.9	37.5	8.3	22.2	6.9	4.2	-	2.8	2.8
	30歳代	101	58.4	39.6	41.6	23.8	17.8	18.8	27.7	18.8	12.9	10.9	3.0	1.0	5.0	1.0
	40歳代	167	58.7	49.1	38.3	20.4	21.0	18.6	22.8	12.0	8.4	10.2	1.8	1.2	6.6	1.8
	50歳代	172	52.3	44.2	39.0	19.8	13.4	14.0	21.5	14.0	7.0	15.1	2.3	2.3	2.9	4.7
	60歳代	173	43.4	50.3	43.4	24.3	18.5	22.5	13.9	18.5	11.0	12.7	0.6	0.6	2.3	3.5
	70歳代	177	40.1	40.1	35.0	20.9	19.8	20.3	5.6	20.9	13.6	6.2	4.5	1.1	0.6	13.6
	80歳以上	84	44.0	42.9	26.2	14.3	17.9	19.0	6.0	13.1	10.7	7.1	1.2	3.6	-	23.8

(19) 子育てしやすいまちになるために重要だと思うこと

問19 鴨川市が子育てしやすいまちになるためには、何が重要だとお考えですか。特に重要だと思うものを1つだけ選んで番号に○印をつけてください。【1つに○】

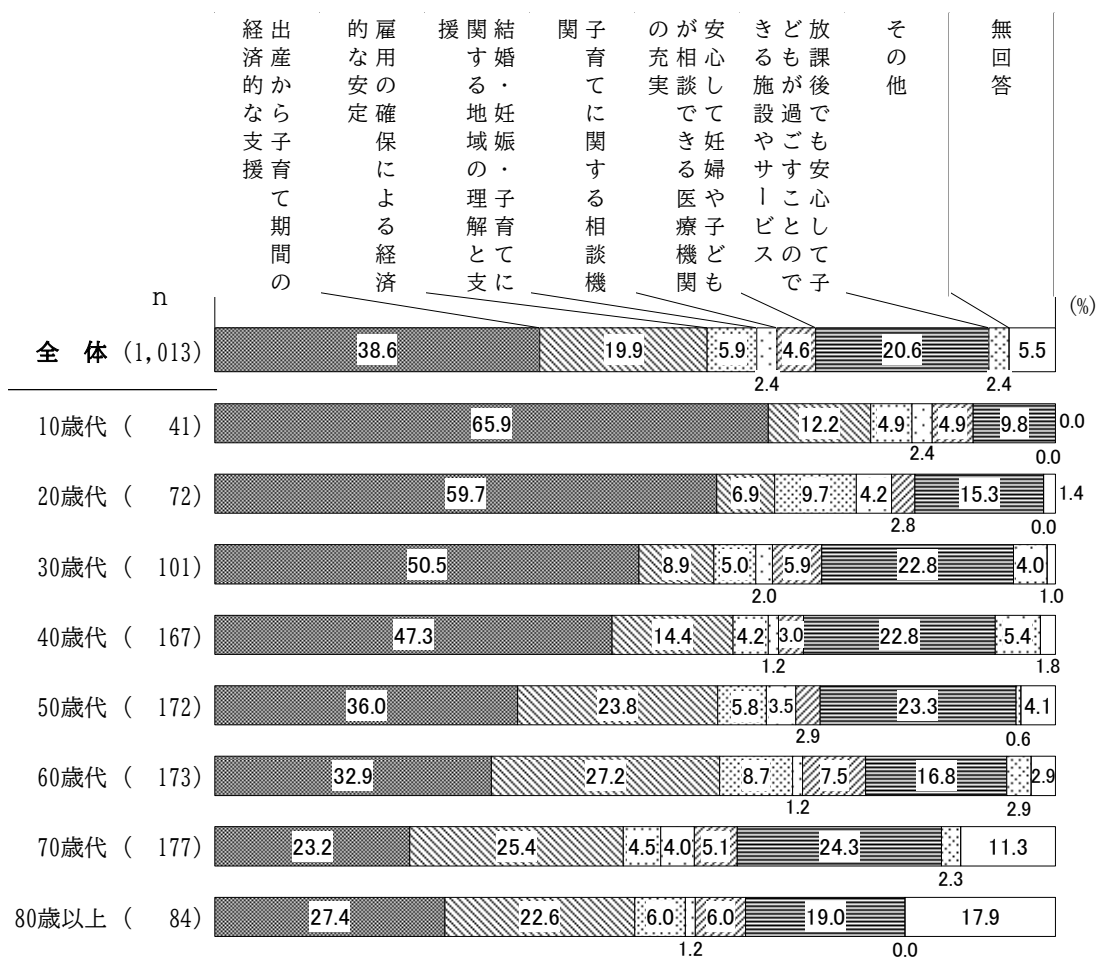
子育てしやすいまちになるために重要だと思うことは、「出産から子育て期間の経済的な支援」が38.6%で最も高く、次いで「放課後でも安心して子どもが過ごすことのできる施設やサービス」(20.6%)、「雇用の確保による経済的な安定」(19.9%)が2割前後となっています。

令和元年度調査と比較すると、「出産から子育て期間の経済的な支援」が6.3ポイント増加し、「雇用確保による経済的な安定」が4.1ポイント減少しています。



■年代別

子育てしやすいまちになるために重要だと思うことを年代別にみると、「出産から子育て期間の経済的な支援」は70歳代から10歳代にかけて年代が下がるほど割合が高くなり、10歳代で65.9%と最も高くなっています。逆に「雇用の確保による経済的な安定」は20歳代から60歳代にかけて年代が上がるほど割合も高くなり、60歳代で27.2%と最も高くなっています。



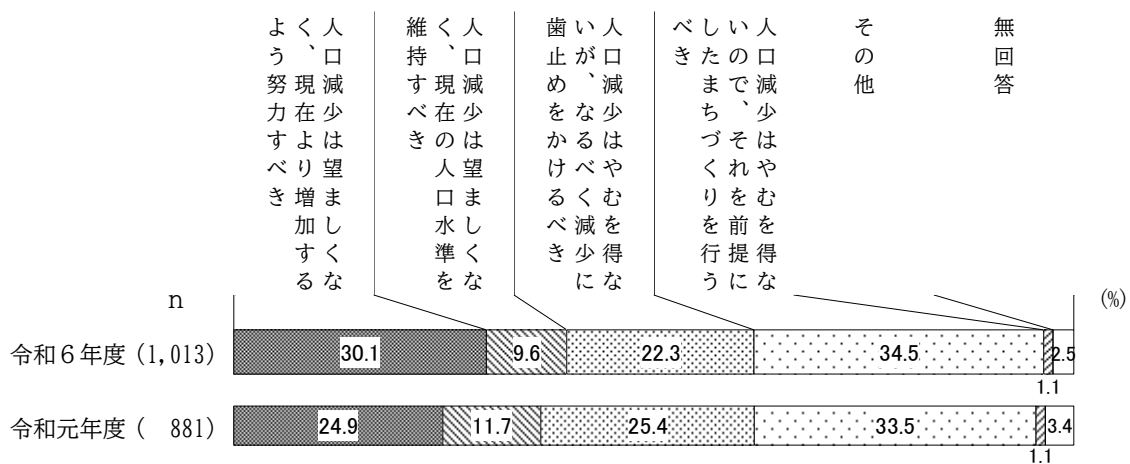
(20) 市の人口が減少することについて

問20 鴨川市の人口は30,107人(2024年10月1日現在)から2050年には22,407人まで減少すると予測されています。鴨川市の人口が減少することについて、あなたはどのように考えていますか。

【1つに〇】

市の人口が減少することについての考えは、「人口減少はやむを得ないので、それを前提にしたまちづくりを行うべき」が34.5%で最も高く、次いで「人口減少は望ましくなく、現在より増加するよう努力すべき」(30.1%)、「人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき」(22.3%)の順となっています。

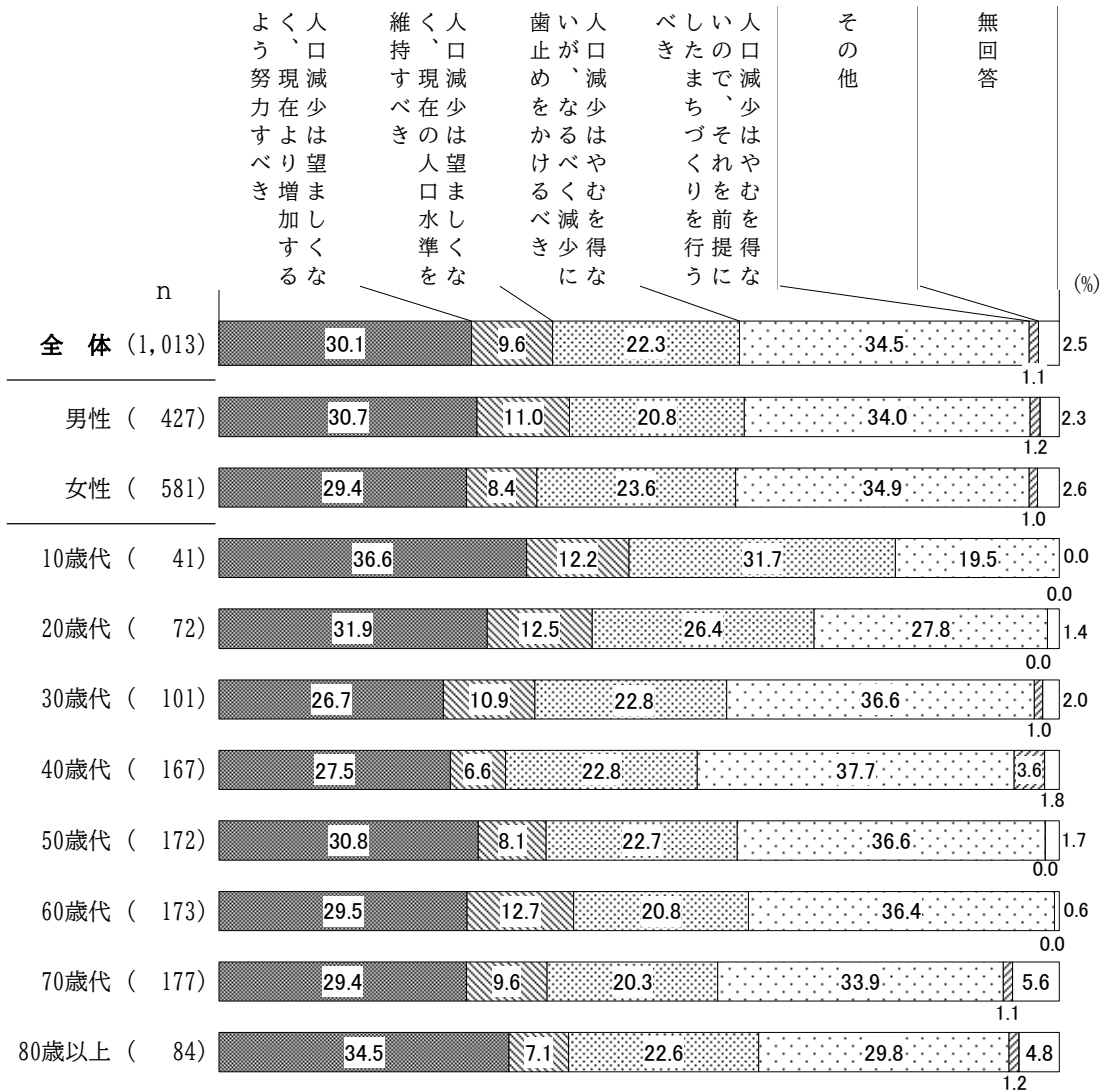
令和元年度調査と比較すると、「人口減少は望ましくなく、現在より増加するよう努力すべき」が5.2ポイント増加しています。



■性別・年代別

市の人口が減少することについての考えを性別にみると、特に大きな違いはみられません。

年代別にみると、「人口減少はやむを得ないので、それを前提にしたまちづくりを行うべき」は30歳代から60歳代にかけて3割台後半と他の年代に比べて高く、「人口減少は望ましくなく、現在より増加するよう努力すべき」は10歳代と80歳以上で3割台半ばと他の年代に比べて高い割合となっています。

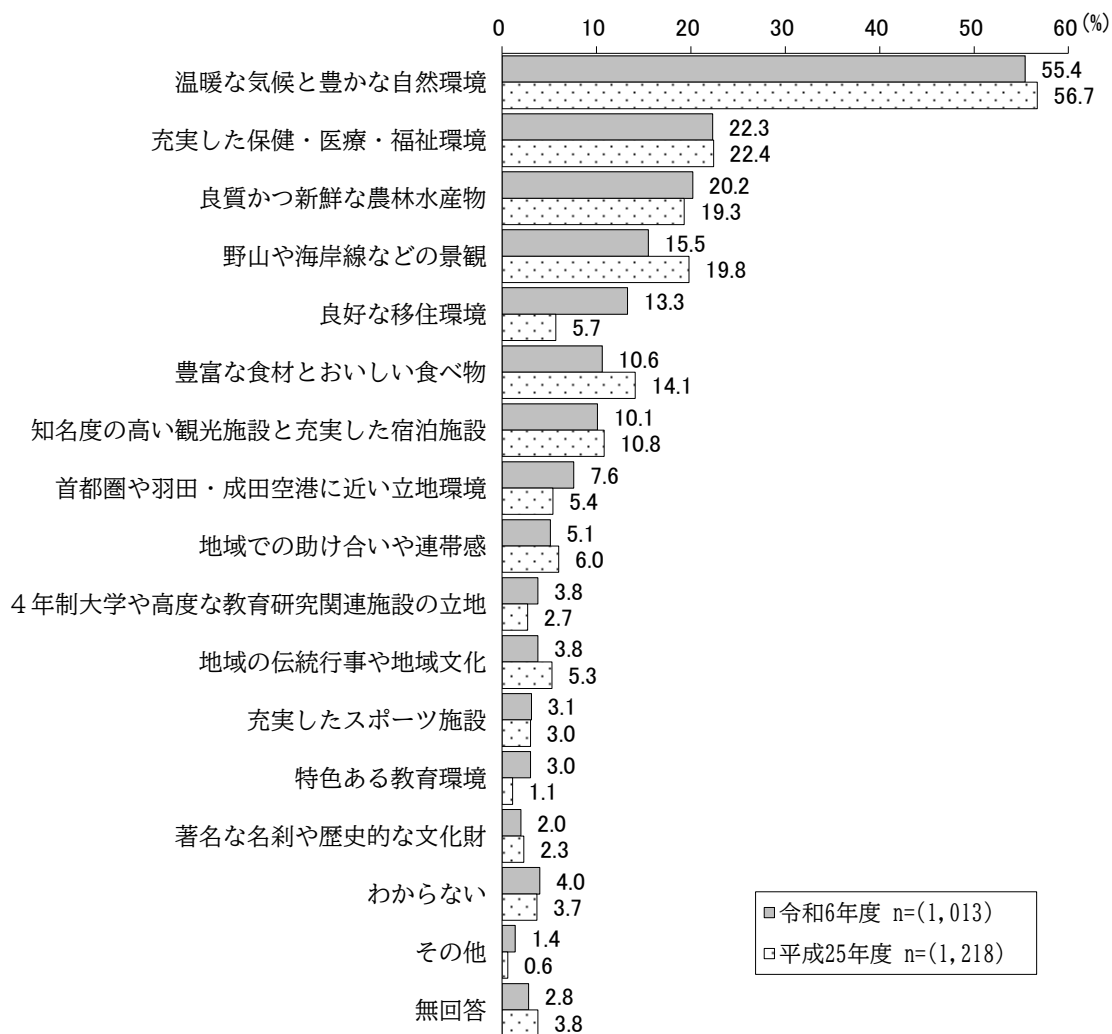


(21) 市の魅力や誇りと感じ、まちづくりに生かしていくべき持ち味と思うもの

問21 鴨川市の魅力や誇りと感じ、また、これからのまちづくりに生かしていくべき持ち味(特色)は何だと思いますか。お考えに近いものを2つまで選んで、番号に○印をつけてください。【2つまで○】

市の魅力や誇りと感じ、また、これからのまちづくりに生かしていくべき持ち味と思うものは、「温暖な気候と豊かな自然環境」(55.4%)が半数を超え最も高くなっています。これに「充実した保健・医療・福祉環境」(22.3%)、「良質かつ新鮮な農林水産物」(20.2%)が2割台で続いています。

平成25年度調査と比較すると、「良好な移住環境」が7.6ポイント増加しています。逆に、「野山や海岸線などの景観」が4.3ポイント、「豊富な食材とおいしい食べ物」が3.5ポイントそれぞれ減少しています。



※本設問は令和元年度では聴取していない

※平成25年度の「良好な居住環境」から令和6年度で「良好な移住環境」と表現を変更

■性別・年代別

市の魅力や誇りと感じ、また、これからのまちづくりに生かしていくべき持ち味と思うものを性別にみると、「温暖な気候と豊かな自然環境」は男女とも最も高くなっています。

年代別にみると、「温暖な気候と豊かな自然環境」は全年代で最も高く、中でも60歳代で61.3%と最も高い割合となっています。また、「充実した保健・医療・福祉環境」は70歳代（26.6%）、「良質かつ新鮮な農林水産物」は20歳代（27.8%）で最も高い割合となっています。

■居住地区別

居住地区別にみると、「温暖な気候と豊かな自然環境」は全地区で最も高く、中でも太海地区で65.6%と最も高い割合となっており、天津地区（63.7%）でも6割台と高い割合となっています。また、「充実した保健・医療・福祉環境」は東条地区（30.5%）、「良質かつ新鮮な農林水産物」は主基地区（32.5%）、「野山や海岸線などの景観」は江見地区（30.3%）で最も高い割合となっています。

単位：％

	調査数	温暖な気候と豊かな自然環境	充実した保健・医療・福祉環境	良質かつ新鮮な農林水産物	野山や海岸線などの景観	良好な移住環境	豊富な食料とおいしい食べ物	知名度の高い観光施設と充実した宿泊施設	首都圏や羽田・成田空港に近い立地環境	地域での助け合いや連帯感	4年制大学や高度な教育研究機関の立地	地域の伝統行事や地域文化	充実したスポーツ施設	特色ある教育環境	著名な名刹や歴史的な文化財	わからない	その他	無回答
全 体	1,013	55.4	22.3	20.2	15.5	13.3	10.6	10.1	7.6	5.1	3.8	3.8	3.1	3.0	2.0	4.0	1.4	2.8
性別																		
男性	427	55.7	23.9	21.3	13.1	15.7	10.8	8.4	11.2	5.2	2.8	5.2	3.5	2.6	2.1	2.8	1.6	1.9
女性	581	55.2	21.2	19.3	17.2	11.7	10.5	11.2	5.0	5.2	4.3	2.8	2.8	3.3	1.9	4.8	1.2	3.4
年代別																		
10歳代	41	46.3	22.0	24.4	12.2	12.2	17.1	12.2	12.2	2.4	2.4	4.9	-	4.9	-	7.3	2.4	-
20歳代	72	52.8	15.3	27.8	13.9	18.1	12.5	12.5	4.2	2.8	4.2	2.8	-	2.8	-	9.7	1.4	1.4
30歳代	101	46.5	21.8	26.7	16.8	14.9	10.9	14.9	13.9	4.0	5.9	2.0	5.0	1.0	2.0	2.0	2.0	1.0
40歳代	167	56.9	23.4	21.0	14.4	13.2	13.2	11.4	4.8	4.2	1.8	4.2	3.6	5.4	1.8	4.2	1.8	1.8
50歳代	172	54.7	23.8	17.4	16.9	9.9	15.7	10.5	9.3	4.1	2.9	5.8	5.2	1.2	0.6	2.9	1.2	1.2
60歳代	173	61.3	20.2	20.8	18.5	13.3	8.1	10.4	9.8	4.6	4.6	1.7	0.6	4.6	2.3	2.3	1.7	2.9
70歳代	177	56.5	26.6	15.3	14.1	15.8	5.6	5.1	4.0	9.6	4.0	5.6	4.5	2.3	3.4	1.7	1.1	5.1
80歳以上	84	56.0	19.0	17.9	11.9	13.1	4.8	8.3	7.1	6.0	6.0	2.4	1.2	1.2	2.4	9.5	-	7.1
居住地区別																		
田原地区	76	51.3	25.0	17.1	14.5	14.5	7.9	7.9	14.5	3.9	3.9	3.9	1.3	3.9	-	6.6	-	1.3
西条地区	117	54.7	25.6	17.9	17.9	15.4	8.5	12.8	2.6	4.3	1.7	3.4	3.4	3.4	2.6	6.8	0.9	1.7
東条地区	203	57.1	30.5	16.7	10.3	11.3	5.9	12.3	7.9	3.0	3.0	3.9	3.0	2.5	1.5	5.4	1.5	4.9
鴨川地区	210	51.0	18.1	23.8	17.6	13.8	13.3	10.5	9.0	4.3	4.8	6.2	5.7	2.9	1.9	2.4	1.4	2.4
江見地区	66	59.1	21.2	21.2	30.3	13.6	7.6	4.5	9.1	6.1	3.0	3.0	1.5	1.5	1.5	4.5	-	-
太海地区	32	65.6	21.9	9.4	15.6	9.4	9.4	15.6	6.3	3.1	-	6.3	-	6.3	-	3.1	-	6.3
曽呂地区	36	52.8	25.0	22.2	11.1	22.2	8.3	5.6	2.8	8.3	11.1	2.8	2.8	-	-	2.8	-	5.6
大山地区	39	53.8	10.3	28.2	12.8	15.4	12.8	10.3	2.6	15.4	5.1	-	2.6	5.1	2.6	2.6	5.1	2.6
吉尾地区	45	53.3	15.6	22.2	15.6	13.3	15.6	4.4	15.6	4.4	2.2	4.4	2.2	2.2	2.2	4.4	-	-
主基地区	40	57.5	17.5	32.5	17.5	15.0	12.5	10.0	5.0	2.5	2.5	-	-	5.0	5.0	-	2.5	2.5
天津地区	102	63.7	17.6	19.6	14.7	12.7	15.7	10.8	6.9	5.9	4.9	2.0	2.9	2.9	2.9	2.0	2.0	1.0
小湊地区	36	50.0	22.2	16.7	5.6	2.8	16.7	8.3	2.8	13.9	5.6	2.8	2.8	2.8	5.6	2.8	5.6	8.3

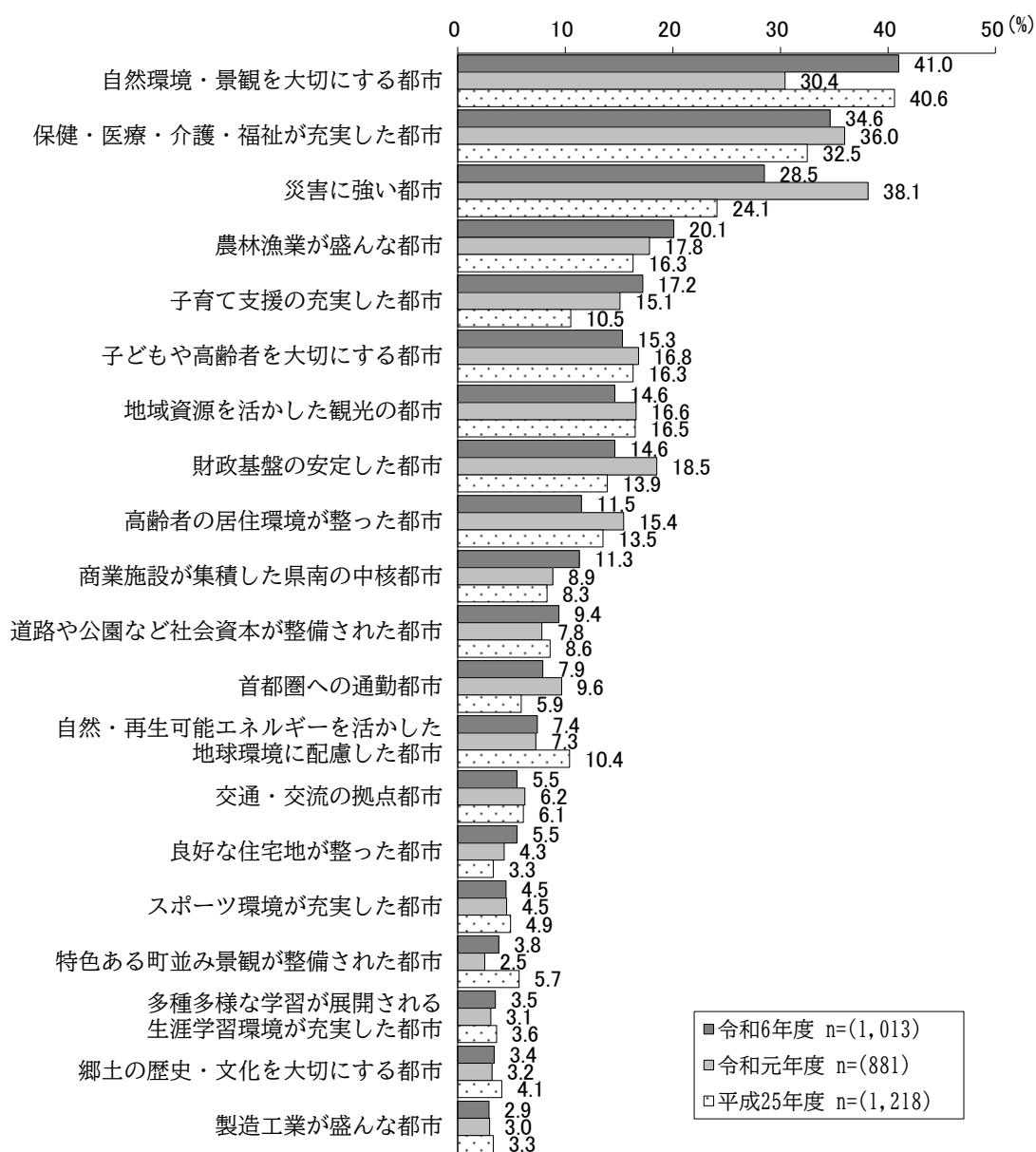
(22) 将来どのようなまちになったら良いか

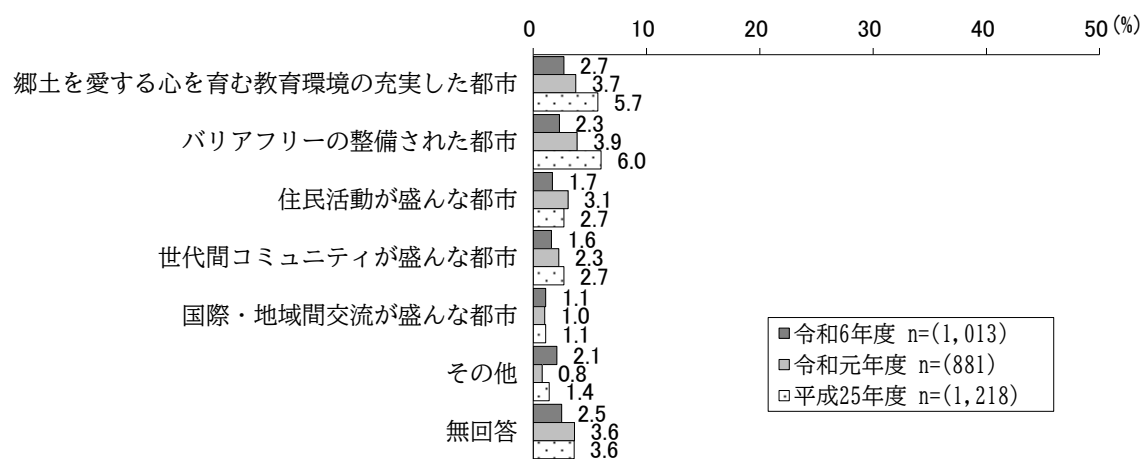
問22 鴨川市は、将来どのようなまちになったら良いと思われますか。

お考えに近いイメージを3つまで選んで、番号に○印を付けてください。【3つまで○】

市が将来どのようなまちになったら良いと思うかについては、「自然環境・景観を大切にする都市」が41.0%で最も高く、次いで「保健・医療・福祉が充実した都市」(34.6%)、「災害に強い都市」(28.5%)、「農林漁業が盛んな都市」(20.1%)となっています。

過去の調査と比較してみると、平成25年度調査では今回と同じ「自然環境・景観を大切にする都市」(40.6%)、「保健・医療・福祉が充実した都市」(32.5%)、「災害に強い都市」(24.1%)という順位でしたが、令和元年度調査では調査実施の台風15号の被害もあり、「災害に強い都市」(38.1%)が1位となり、「自然環境・景観を大切にする都市」(30.4%)が3位と入れ替わっています。





※「保健・医療・介護・福祉が充実した都市」は、令和元年度・平成25年度では「保健・医療・福祉が充実した都市」

■性別・年代別

市が将来どのようなまちになったら良いと思うかについて性別にみると、「自然環境・景観を大切に作る都市」は男女とも最も高くなっています。

年代別にみると、「自然環境・景観を大切に作る都市」は30歳代と80歳以上の年代以外で最も高く、中でも70歳代で45.8%と最も高い割合となっています。また、80歳以上では「保健・医療・介護・福祉が充実した都市」(44.0%)、30歳代では「子育て支援の充実した都市」(39.6%)が最も高い割合となっています。

単位：％

	調査数	自然環境・景観を大切に作る都市	保健・医療・介護・福祉が充実した都市	災害に強い都市	農林漁業が盛んな都市	子育て支援の充実した都市	子どもや高齢者を大切に作る都市	地域資源を活かした観光の都市	財政基盤の安定した都市	高齢者の居住環境が整った都市	市商業施設が集積した県南の中核都市	道路や公園など社会資本が整備された都市	首都圏への通勤都市	自然・再生可能エネルギーを活かした地球環境に配慮した都市	交通・交流の拠点都市	良好な住宅地が整った都市
全 体	1,013	41.0	34.6	28.5	20.1	17.2	15.3	14.6	14.6	11.5	11.3	9.4	7.9	7.4	5.5	5.5
性別	男性	427	41.2	35.4	26.2	21.5	16.9	11.9	13.6	15.9	11.2	12.6	10.8	7.5	7.0	8.0
	女性	581	41.0	34.3	30.1	18.9	17.4	17.7	15.5	13.8	11.5	10.2	8.4	8.3	4.5	3.4
年代別	10歳代	41	41.5	34.1	22.0	17.1	22.0	19.5	12.2	9.8	2.4	12.2	7.3	12.2	-	12.2
	20歳代	72	44.4	30.6	25.0	20.8	25.0	12.5	22.2	4.2	2.8	15.3	8.3	6.9	8.3	11.1
	30歳代	101	31.7	25.7	18.8	19.8	39.6	21.8	13.9	6.9	5.0	17.8	9.9	11.9	4.0	11.9
	40歳代	167	42.5	33.5	32.9	19.2	26.9	18.0	12.6	7.8	7.8	9.0	11.4	10.8	8.4	5.4
	50歳代	172	36.6	32.6	30.8	14.0	11.6	9.9	16.3	15.7	12.2	19.8	12.8	10.5	7.6	4.1
	60歳代	173	42.2	41.0	24.9	20.8	11.0	13.9	16.8	22.0	15.6	8.7	10.4	6.9	10.4	5.2
	70歳代	177	45.8	34.5	34.5	25.4	9.6	15.8	14.1	20.9	14.7	5.6	6.2	2.8	5.6	4.5
	80歳以上	84	42.9	44.0	25.0	20.2	1.2	16.7	11.9	19.0	22.6	4.8	2.4	3.6	10.7	1.2

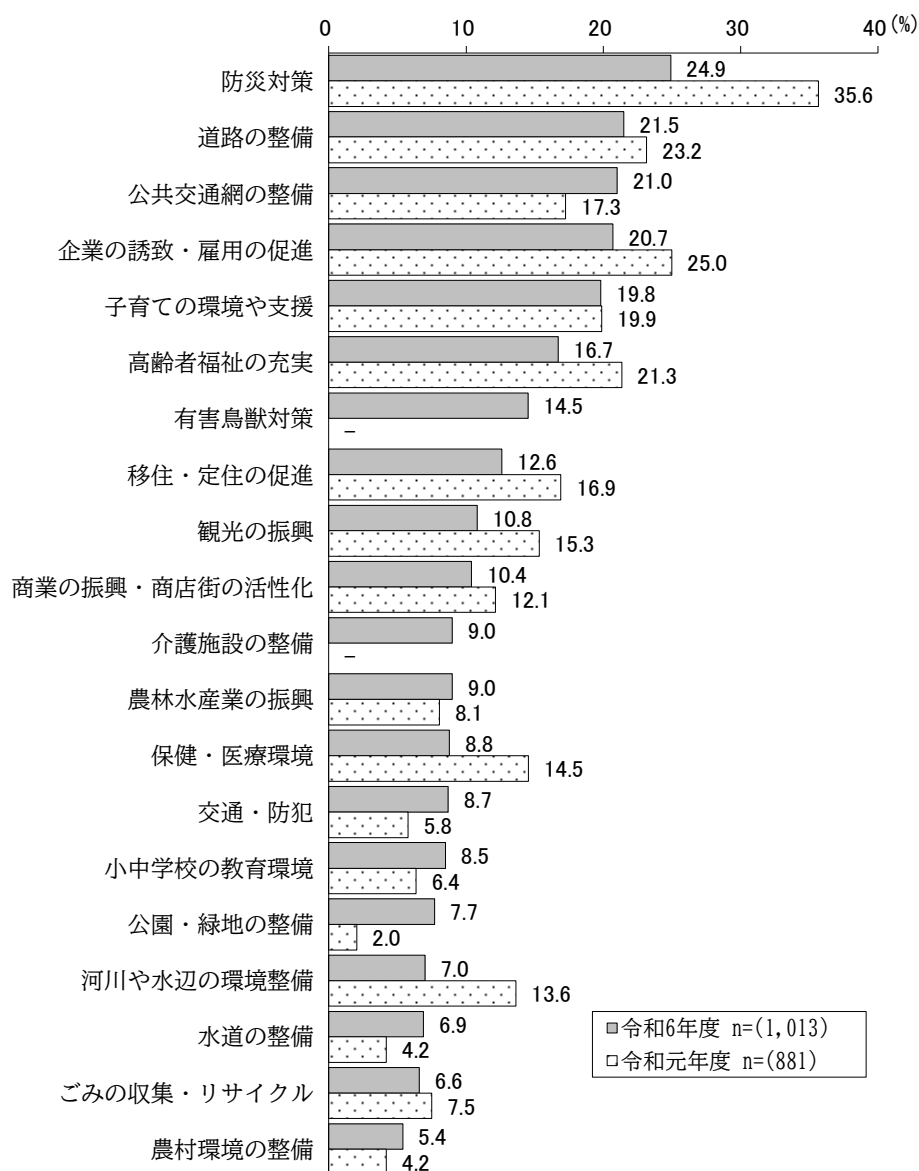
	調査数	スポーツ環境が充実した都市	都市特有ある町並み景観が整備された都市	多様な学習が展開される生涯学習環境が充実した都市	郷土の歴史・文化を大切に作る都市	製造工業が盛んな都市	郷土を愛する心を育む教育環境の充実した都市	バリアフリーの整備された都市	住民活動が盛んな都市	世代間コミュニケーションが盛んな都市	国際・地域間交流が盛んな都市	その他	無回答
全 体	1,013	4.5	3.8	3.5	3.4	2.9	2.7	2.3	1.7	1.6	1.1	2.1	2.5
性別	男性	427	5.9	3.7	2.6	4.0	3.3	3.3	2.3	1.2	0.5	1.6	1.6
	女性	581	3.6	4.0	4.1	2.8	2.6	2.2	2.2	2.1	2.4	0.7	1.5
年代別	10歳代	41	4.9	-	2.4	4.9	7.3	-	9.8	-	-	4.9	2.4
	20歳代	72	5.6	1.4	-	2.8	-	-	1.4	1.4	-	2.8	-
	30歳代	101	5.0	5.9	4.0	2.0	1.0	3.0	3.0	2.0	3.0	1.0	1.0
	40歳代	167	6.6	7.2	3.6	1.8	1.8	3.6	1.8	1.2	1.2	0.6	2.4
	50歳代	172	5.8	5.2	5.8	2.3	4.1	1.7	1.7	-	3.5	1.2	2.3
	60歳代	173	2.3	2.9	5.8	2.9	1.2	5.2	1.2	2.3	1.7	0.6	3.5
	70歳代	177	4.5	2.3	1.1	5.6	4.0	1.7	1.7	2.8	0.6	-	1.1
	80歳以上	84	1.2	1.2	1.2	4.8	7.1	2.4	4.8	2.4	1.2	-	2.4

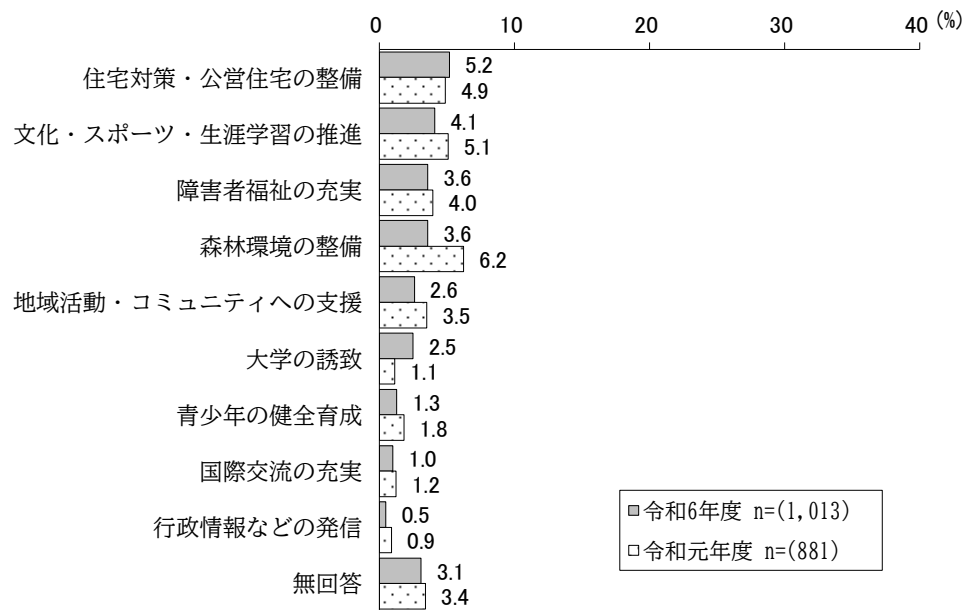
(23) 市が特に力を入れる必要があると思う取り組み

問23 鴨川市がこれから10年間で特に力を入れて取り組む必要があることは何だと考えますか。あてはまる番号を3つまで選んで○印をつけてください。【3つまで○】

市が特に力を入れる必要があると思う取り組みは、「防災対策」が24.9%で最も高く、これに「道路の整備」(21.5%)、「公共交通網の整備」(21.0%)、「企業の誘致・雇用の促進」(20.7%)、「子育ての環境や支援」(19.8%)などが2割前後で続いています。

令和元年度調査と比較すると、今回調査で新設された「有害鳥獣対策」(14.5%)と「介護施設の整備」(9.0%)の2項目で、20ポイント以上の獲得があった影響で大幅に減少した項目が多くみられました。順位の変動をみると、「公共交通網の整備」が前回の6位から今回3位、新設の「有害鳥獣対策」が7位となっています。





※「道路の整備」は今回令和6年度で、選択肢の後に「・維持管理更新」を追加

※「介護施設の整備」「有害鳥獣対策」は今回令和6年度の新設項目

※令和元年度「農業の振興」は、今回令和6年度「農林水産業の振興」に変更

※令和元年度「森林の保全・林業の振興」は、今回令和6年度「森林環境の整備」に変更

■性別・年代別

市が特に力を入れる必要があると思う取り組みを性別にみると、男性では「道路の整備・維持管理更新」（27.9%）、女性では「防災対策」（25.3%）が最も高くなっています。

年代別にみると、10歳代で「公共交通網の整備」、20歳代から40歳代で「子育ての環境や支援」、50歳代から60歳代で「防災対策」、70歳代で「企業の誘致・雇用の促進」、80歳以上で「高齢者福祉の充実」で最も高い割合となり、各年代で異なる結果となっています。

単位：％

		調査数	防災対策	道路の整備・維持管理更新	公共交通網の整備	企業の誘致・雇用の促進	子育ての環境や支援	高齢者福祉の充実	有害鳥獣対策	移住・定住の促進	観光の振興	商業の振興・商店街の活性化	介護施設の整備	農林水産業の振興	保健・医療環境	交通・防犯	小中学校の教育環境
全 体		1,013	24.9	21.5	21.0	20.7	19.8	16.7	14.5	12.6	10.8	10.4	9.0	9.0	8.8	8.7	8.5
性別	男性	427	24.4	27.9	20.8	21.5	18.7	15.9	12.6	12.4	11.0	9.1	7.0	11.9	9.6	8.0	7.5
	女性	581	25.3	17.0	21.3	20.0	20.5	16.9	16.0	12.9	10.7	11.4	10.5	6.9	8.3	9.0	9.3
年代別	10歳代	41	24.4	19.5	34.1	14.6	26.8	9.8	4.9	12.2	24.4	4.9	-	4.9	12.2	14.6	19.5
	20歳代	72	30.6	25.0	26.4	11.1	37.5	6.9	5.6	6.9	11.1	13.9	8.3	8.3	9.7	8.3	12.5
	30歳代	101	24.8	24.8	28.7	11.9	38.6	6.9	4.0	13.9	11.9	5.9	7.9	3.0	8.9	10.9	19.8
	40歳代	167	25.7	25.1	23.4	14.4	32.3	11.4	10.2	11.4	9.6	9.0	4.2	9.0	6.0	10.8	13.8
	50歳代	172	32.0	20.3	21.5	29.7	9.9	15.1	14.0	14.0	15.1	14.0	11.0	8.7	11.0	5.2	3.5
	60歳代	173	23.7	22.5	15.0	22.5	15.0	19.7	17.3	13.3	11.0	11.6	13.3	13.3	11.0	12.1	4.6
	70歳代	177	18.6	16.4	15.3	27.1	7.3	24.3	24.9	16.4	6.2	8.5	12.4	8.5	5.1	5.6	3.4
	80歳以上	84	19.0	21.4	22.6	17.9	9.5	31.0	25.0	8.3	4.8	10.7	7.1	11.9	7.1	6.0	4.8

		調査数	公園・緑地の整備	河川や水辺の環境整備	水道の整備	ごみの収集・リサイクル	農村環境の整備	住宅対策・公営住宅の整備	文化・スポーツ・生涯学習の推進	障害者福祉の充実	森林環境の整備	地域活動・コミュニティへの支援	大学の誘致	青少年の健全育成	国際交流の充実	行政情報などの発信	無回答
全 体		1,013	7.7	7.0	6.9	6.6	5.4	5.2	4.1	3.6	3.6	2.6	2.5	1.3	1.0	0.5	3.1
性別	男性	427	6.6	7.7	5.9	8.0	6.3	7.0	5.2	2.8	3.5	3.0	1.9	0.9	1.2	0.2	2.3
	女性	581	8.6	6.5	7.4	5.7	4.8	4.0	3.4	4.0	3.6	2.2	2.9	1.5	0.7	0.7	3.6
年代別	10歳代	41	12.2	4.9	4.9	4.9	2.4	7.3	2.4	7.3	-	-	-	-	7.3	-	-
	20歳代	72	6.9	4.2	4.2	8.3	4.2	8.3	2.8	2.8	1.4	2.8	1.4	2.8	1.4	-	2.8
	30歳代	101	21.8	5.9	2.0	5.0	3.0	8.9	4.0	5.9	-	4.0	4.0	-	-	-	3.0
	40歳代	167	10.2	6.0	5.4	3.6	4.8	8.4	7.2	4.8	4.2	2.4	2.4	-	-	0.6	2.4
	50歳代	172	5.8	9.3	9.3	7.0	3.5	2.3	3.5	4.7	3.5	1.2	2.3	1.2	1.2	0.6	1.7
	60歳代	173	5.2	6.4	8.1	8.7	6.4	1.7	2.3	1.2	5.8	2.3	2.3	1.7	-	-	3.5
	70歳代	177	4.0	11.3	7.9	6.8	8.5	4.5	4.0	2.3	5.1	2.3	2.8	2.3	1.1	1.1	5.1
	80歳以上	84	2.4	2.4	7.1	7.1	8.3	6.0	4.8	2.4	2.4	4.8	3.6	1.2	1.2	1.2	3.6

■居住意向別（上位5位）

市が特に力を入れる必要があると思う取り組みを居住意向別にみると、“ずっと住み続けたい”と“当分は住み続けたい”人にとっては「防災対策」が2割台半ばで最も高い割合となっており、“すぐにでも転居したい”人の12.5%（上位5位表には入っていませんが）の約2倍の割合となっています。一方、“すぐにでも転居したい”と“市外の別の場所にやがては転居したい”人にとっては「道路の整備・維持管理更新」が3割弱から3割台半ばで最も高い割合となっており、“ずっと住み続けたい”（18.3%）と“当分は住み続けたい”（19.5%）人の約1.5倍から2倍高い割合となっています。

	1 位		2 位		3 位		4 位		5 位	
ずっと住み続けたい	防災対策	24.8	企業の誘致・雇用の促進	23.8	高齢者福祉の充実	22.8	有害鳥獣対策	19.3	道路の整備・維持管理更新	18.3
当分は住み続けたい	防災対策	27.0	公共交通網の整備	21.3	子育ての環境や支援	20.8	道路の整備・維持管理更新	19.5	企業の誘致・雇用の促進	19.3
市外の別の場所にやがては転居したい	道路の整備・維持管理更新	35.2	公共交通網の整備	28.4	子育ての環境や支援	26.5	防災対策	21.0	企業の誘致・雇用の促進	19.1
すぐにでも転居したい	道路の整備・維持管理更新	28.1	公共交通網の整備	25.0	子育ての環境や支援	21.9	小中学校の教育環境／介護施設の整備			18.8

(24) 市の「強み」と「課題」(自由記述)

問 24 あなたが考える鴨川市の「強み」と「課題」は何ですか。自由にご記入ください。

鴨川市の「強み」と「課題」について、それぞれ自由記述で伺ったところ、「強み」については、508人より延べ726件のお考えをいただき、「課題」については、524人より延べ636件のお考えを記述していただきました。

「強み」について記述いただいた内容を分野別にまとめたところ、以下のとおりとなりました。

分 野 (内 容)	件 数
生活環境	387 件
自然・風景	221 件
気候・温暖	78 件
海・海岸線	73 件
住みやすさ	7 件
災害が少ない	3 件
その他	5 件
観光産業・地場産業	159 件
観光資源	58 件
鴨川シーワールド	55 件
農漁業・農水産物	46 件
保健・医療・福祉	112 件
医療の充実	108 件
子育て施設	4 件
スポーツ・教育	15 件
サーフィン・スポーツ	13 件
教育環境	2 件
その他	53 件
都心・首都圏へのアクセス	17 件
人心の温かさ・繋がり・田舎気質	15 件
その他	21 件

以下に、それぞれの分野・内容から一部を抜粋して記載しています。

■【強み】生活環境

(自然・風景) 221 件

- ・自然景観の豊かさ、美しさ。
- ・里山・野山・海岸線があり、自然に恵まれている。
- ・自然と住みやすい環境、空気のおいしさ。
- ・土地や自然環境はあると思いますが、もったいない事に全て生かされていない。
- ・四方木・清澄地域を中心とした山村の魅力。

(気候・温暖) 78 件

- ・温暖な気候と青い海、青い空、深い山々。
- ・温暖な気候、豊かな自然で子育てには最高。
- ・豊かで比較的気候が安定しており暮らしやすい。

(海・海岸線) 73 件

- ・海岸線の街並みを中心とした海岸線。
- ・海と山に囲まれ、自然に恵まれ美しい。
- ・太平洋に面した美しい海岸線。
- ・美しい海岸線、低い山並み、水産資源、棚田のある風景がある。

(住みやすさ) 7 件

- ・自然豊かなところ、夏は涼しく冬は暖かく、都心に比べて住みやすいと思います。
- ・美しい自然と住居のバランスを備えた住みやすさ。
- ・住みやすく生活しやすい気候。海・山・自然、お金を使わなくても楽しめる（サーフィン、釣り、ハイキングなど）。

(災害が少ない) 3 件

- ・気温も暖かく、災害も少ない方だと思います。
- ・生活環境が良い。自然災害が少ない。

(その他) 5 件

- ・静かで落ち着いた住環境。
- ・生活に困らない程度の程々の田舎。
- ・自給自足が可能。
- ・スーパー、医療機関など必要な施設が揃っている。

■【強み】観光産業・地場産業

(観光資源) 58 件

- ・自然、寺社、お寺が多いこと。海・山・寺を生かした観光。
- ・自然景観と美味しい魚肉や野菜、それを目当てにくる観光客で外貨獲得できる体制もあること。
- ・金山ダムを再整備して観光名所にすべき。観光地としてのポテンシャルを秘めている。
- ・観光資源（海岸線、山、川）と宿泊施設が多いところ。両側の館山、南房総市、勝浦市と比べても、最上位と思います。
- ・県内の田舎の中では観光資源（食、自然、寺院、水族館 等）に富んでいる。

(鴨川シーワールド) 55 件

- ・日本有数の規模を誇る鴨川シーワールド。
- ・水族館をリニューアルしたらシャチが鴨川に来る。
- ・鴨川シーワールドの知名度。
- ・鴨川シーワールドという観光名所と海。

(農漁業・農水産物) 46 件

- ・山と海の素晴らしい自然環境、それに伴う農林水産業から産み出される食文化、その割に首都圏に近いという好立地。
- ・自然豊かな中で水産、農産物が採れるし、栽培出来るポテンシャルをもっている。
- ・農業、漁業ともに高齢化が進んでいるが、協同して作業を行い、若い方に引き継いでいる。
- ・新鮮な農産物と海産物が豊富なこと。

■【強み】保健・医療・福祉

（医療の充実）108 件

- ・ 亀田総合病院があり、医療に強いこと。
- ・ 恵まれた自然環境（ローコスト）、小児の入院と三次救急が可能な総合病院がある。
- ・ 日本でも有数の亀田病院があることが強みだと思います。
- ・ 鴨川市内の医療・介護・福祉の充実をアピールして移住及び定住者を増やす。

（子育て施設）4 件

- ・ アワーズなどの子育て施設の存在、田舎ならではの人のあたたかさ、自然の豊かさ。
- ・ 共働き家庭でも安心して預けられる保育施設、学童保育の充実。
- ・ 子ども、障害者、高齢者への福祉はしっかりしていると思う。

■【強み】スポーツ・教育

（サーフィン・スポーツ）13 件

- ・ サーフィンにより各地から来ることで、お金を落としていくこと。
- ・ 年齢性別に関わらず、豊かな自然の中でスポーツに取り組める。
- ・ 素敵な波がありサーファーも憧れる海。
- ・ スポーツ施設の充実。

（教育環境）2 件

- ・ 私は令和五年度に鴨川市青少年派遣事業参加者としてマニトワックを訪れたが、ここでの経験は今の私にとってかけがえのないものとなり、「アメリカに行った」という体験が、今後の私にとっても重要な転換期となったと思う。同年度にプログラムに参加した友人達も異口同音に一致した。これから将来を担っていくであろう若者達に、その様な感想を抱かせられるプログラムがあるというのは、鴨川市が誇れることだろう。
- ・ 教育関係。

■【強み】その他

（都心・首都圏へのアクセス）17 件

- ・ 都心・空港へのアクセスと程良い距離感、比較的きさくな地域の気質。
- ・ 高速バス網が比較的充実している。
- ・ 都心に近い。空港へのアクセスが近い。
- ・ ほどほどの田舎と比較的都市に近い便利な場所。
- ・ 都心から近い田舎。

（人心の温かさ・繋がり・田舎気質）15 件

- ・ 全体的に考えて人が穏やか。気候、自然環境など住みやすく買い物しやすい。
- ・ ガツガツしないでのんびりとした気質。
- ・ 助け合いの輪がある。
- ・ 自然に恵まれている。人の温かさと優しさ。
- ・ 首都圏内にありながら自然が豊か。人心も穏やかで治安が良い。

（その他）21 件

- ・ 活用できそうな土地や資源はあるので、アイデア次第だと思う。
- ・ 豊かな自然と歴史文化が魅力。
- ・ 治安が良い。

「課題」について記述いただいた内容を分野別にまとめたところ、以下のとおりです。

分 野（内 容）	件 数
生活環境	241 件
交通インフラの整備	105 件
交通機関の充実	65 件
自然環境の保全	19 件
災害対策・防犯対策	19 件
空き家・住宅対策	17 件
有害鳥獣対策	12 件
ごみ処理体制	4 件
市政（行財政・運営）	186 件
人口（過疎）対策	63 件
就労支援・企業誘致	43 件
財政対策	25 件
行政機能（資源・繋ぎ）の活用	12 件
移住資源の支援・活用	7 件
その他	36 件
産業振興	89 件
まちの活性化（店舗・イベント）	38 件
観光資源の支援	33 件
農漁業の支援	18 件
子育て・保健・医療・福祉	70 件
出生・子育て支援	36 件
教育環境	13 件
高齢者・障がい者支援	12 件
医療機関（混雑・充実）	9 件
その他	50 件
公園・遊び場所	14 件
コミュニティ・スポーツ施設	10 件
その他	26 件

以下に、それぞれの分野・内容から一部を抜粋して記載しています。

■【課題】生活環境

（交通インフラの整備）105 件

- ・安房鴨川駅の線路を挟んで東西のエリアの移動（車を含む）がしづらい。駅を橋上化してスムーズに海岸とイオン側の往来ができるようにすべき。
- ・観光に力を入れている割には、道路周りが汚いと思う。半分位まで草で道路が塞がれていたり。まずキレイな街が良いです。
- ・高速道路と繋がっていないため、交通網が貧弱。

- ・何より孤立している地域で道路網が整備されなくては、若者は住みづらく、人口は流出する。
- ・ショッピングモールや飲食店が少ないため市外への買い物に行くことになる。高速道路へのアクセスが悪く、都心に行くにも時間がかかること。歩道が狭くてベビーカーでお散歩ができない。
- ・東京までのアクセスが悪い。電車でもバス（車）でも2時間かかるので不便です。

（交通機関の充実）65 件

- ・車がないと移動が難しい。病院や買い物に行くだけで半日から一日がかりになる。
- ・車の利用でしか移動できない。電車やバスがない。
- ・鴨川市が今考えなくてはいけないのは、高齢者の問題です。お店が無い地域が多く、孤立している。公共交通も減り、買い物や病院に行くことがとても困難になってきている。
- ・車が無いと何も出来ない。もっと公共交通の充実が必要。
- ・商業施設がない、タクシーの配車アプリが欲しい。
- ・障害者への支援、公共機関の交通網の改善。

（自然環境の保全）19 件

- ・温暖な気候と豊かな自然といった強みの部分が、現実的には住民・事業者によって排除されていること。
- ・自然を生かすと同時に守っていく大切さがあり、その活動をどう続けていくのか。
- ・ホタル・トンボ・ドジョウ・アユ・ハヤ・山ユリの減少など、自然が破壊されている。
- ・温暖な気候風土の活用手段の意識向上（啓蒙）と施策。
- ・環境破壊となるメガソーラー事業は止めるべき。破壊した所からのカドミウム流出により自然が破壊される。

（災害対策・防犯対策）19 件

- ・自然災害（特に津波）に対する安全面への不安。
- ・災害に弱い。道路・河川・山林の整備ができていない。対応が遅い。
- ・安全な津波避難ビルを増やす。鴨川小学校やこども園の建物の高さが低いので不安。
- ・津波対策として高台に上がる階段や避難場所を早急に確保して欲しい。
- ・台風・地震・津波などの自然災害対策。

（空き家・住宅対策）17 件

- ・空き家対策について、戸建てを市が中心となり借り受け、集落の人々が管理して人々の集まりの場・観光客に貸与し収入を得る。
- ・住みやすいのにアパートが高い。移住する人が少ない。
- ・古い家屋、空き家、空き地がとにかく多い。この十年で顕著に増えた。アクセスも悪く、何も無い、何も揃わない町なのに地代も賃貸も近隣と比べると明らかに高い。そんな町に若い人が残りたいと思うのか。真剣に考えた方が良いと思う。
- ・若い世代が安全、安心に住みやすい鴨川市。独居者が集団で暮らせる施設。

（有害鳥獣対策）12 件

- ・害獣対策に対して、全く耳を傾けてくれず、農作物を作っても意味がないのに対応してくれない。
- ・猪・鹿に田畑を荒らされて困っています。
- ・高齢化による農業放棄地の増加とそれに伴う有害鳥獣の増加による被害。
- ・有害鳥獣の対策にもう少し力を入れて欲しい。山林の整備。

（ごみ処理体制）4 件

- ・窓を開ければ、あちこちでゴミを燃やし、家の中にすすの臭いが入ってきて、終わるまで開けられない。昭和の時代じゃないので、ゴミを燃やして空気を汚さないよう条例で徹底させて欲しい。
- ・空き家、道路脇の雑草ゴミ、高校の隣にゴミ処分場、道路にはみ出した木々、海岸に打ち上げられた竹など、雑然としていてゴーストタウン化を感じる。
- ・海に漂流したゴミで砂浜が危なくなっている。

■【課題】市政（行財政・運営）

（人口（過疎）対策）63 件

- ・高齢化で地域の景観を段々維持できなくなっている。
- ・人口減少による企業の人手不足、若者が残らない。
- ・過疎化、高齢化、産業の少なさ。
- ・若い世代が町にいない。高齢者の為の支援、設備ばかりなので今後も成人した子どもたちは町を離れていくと思う。
- ・人口減少に伴い若い労働力が減少していること。

（就労支援・企業誘致）43 件

- ・会社の誘致が必要（若者が働く場所等）。
- ・商業施設が少ない。雇用先はあるが、若者がやりたがる職種が少ない。高齢者には優しいが、若者が定住しづらい。人を増やして欲しい。
- ・土地活用のため、企業が入り、若い人達の仕事が増えて活動化する市となること。
- ・働く場所がない。労働人口が増えるよう、若い人を定着させる企業の誘致。
- ・子育て世代に訴求できる魅力。特に小中学生以降の教育環境と親世代の雇用もしくは労働環境。

（財政対策）25 件

- ・人口減少を見据えた緊縮財政。
- ・企業不足、人口減少による税収減少。
- ・市の財源がなく、学校や給食センターなどの設備が整っていないこと。
- ・財の分配ができていない。

（行政機能（資源・繋ぎ）の活用）12 件

- ・行政職員のデジタル化や生成AIの導入に賛成であり、行政職員の給料が地域の水準になるよう賃金も上がるべきである。その分、地域で経済が循環するよう公共調達でできることを鴨川市内業者が行うべきである。
- ・縦割り行政、非効率な行政運営、狭い地域でお互いの足を引っ張り合う悪習、遊休施設の放置、近隣都市との道路網。
- ・素晴らしい素材を十二分に生かして十分な市の予算を取っていく戦略がないこと。
- ・自然環境を守り、穏やかな町。都市への通勤手段を改善。若者人口を増やす、育てる方法。行政相談以外の生活不安解決窓口が必要。
- ・ある物をいかに必要とされる人や団体に提供、貸与できるか、そのパイプは公にしかできない。

（移住資源の支援・活用）7 件

- ・観光資源を首都圏にアピールできていない。移住したとしても就職先が少ない、仕事の内容や質が首都圏とは異なる(特にデザイン系やIT系の仕事)。
- ・与えられた自然環境を生かす力がない。行政が小さく固まっているように見える。他県からの移住者の力を生かす行政。
- ・高速までが遠すぎるので、鴨川まで伸ばす事は絶対必要だと思います。東京まで1時間程度になれば移住者ももう少し期待できるのではないのでしょうか。少子高齢化は止められないので、いかに若者もしくは家族層が移住、定住したくなるような施設、設備が必要かと思います。

（その他）36 件

- ・オーシャンパーク、さとうみ学校などは中途半端で集客できないと思います。
- ・鴨川の魅力を市外や県外の人に伝えきれていないこと。プロモーション不足。
- ・せっかくの宝物（自然や食文化）の良さに、地元の人には気付いていないこと。
- ・強みを生かすビジョンを示すリーダーシップの欠落。目先の事ばかりしか取り組もうとしていないように思います。

- ・とにかく市民税が他の市等と比べると高いのに、サービスが不十分な点。サービスを拡充できないなら、市民税を引き下げて欲しい。
- ・住人のきずなが生まれるシステムがない。

■【課題】産業振興

（まちの活性化（店舗・イベント））38 件

- ・買い物や外食をする所が少なく、館山や木更津方面へ行く事が多いです。
- ・天津や小湊は静まり返っています。どうにかして欲しい。
- ・高速道路へのアクセス。せっかくのロケーションを活かしきれていない。夜、開いている店が少ない。
- ・充実した商業、娯楽施設。子どもの買い物も全て木更津や館山に人が流れています。
- ・若い世代が地元根付くために娯楽施設や商業施設を作る。現状、買い物など他市外へ行く人が多数。
- ・自然を充分に活かせていないと思う。シーワールド以外には何も無い。雨が降ると遊ぶ所がない。新鮮なお魚が捕れるのに、鋸南のぼんやのような活気のある、漁港直営のような食事処がない。道の駅を作っても何故だか魅力がない。群馬の川場田園プラザのような魅力のある道の駅が出来ると良いと思う。人手不足と言うが、働く所がないと思う。
- ・観光地ではあるが、遊べる施設、飲食店などが少ない。鴨川といえばシーワールドしかない。

（観光資源の支援）33 件

- ・観光。シーサイドベース、やる気があるとは思えない。鴨川オーシャンパーク、太海フラワーセンターなど最高の立地なのに再訪したいとは思えない残念な施設。
- ・逆にいえばそれしかないから自然の特色を生かした観光施設などを増やすべきだと思う。
- ・四方木・清澄の自然を生かした紅葉とか桜などの木を植える。
- ・水がキレイな海なのに、砂浜整備や遊歩道の整備ができていないため、行きたい気持ちにならない。
- ・農水産物の豊かさをもっとアピールし、観光と結び付ける。山林整備は海をきれいにする。
- ・シーワールドの周りに商業施設をつくれば、バス利用者の寄り道にも繋がる。土地活用を考える。

（農漁業の支援）18 件

- ・食材を保つために農業、漁業、畜産、林業を支援すること。素晴らしい鴨川に何をPRして人を呼ぶか。
- ・農水産物をアピールする場（例えば鋸南の番屋）が少ない。
- ・採れた作物や漁業産物を鴨川市内で提供する体制をアピールできるようにすることだと思います。JR東日本など交通機関とのコラボが必要だと思います。
- ・農林水産業を活かせる施設が観光施設しかないこと。市民や観光客どちらも殺到するような直売所や道の駅がない。
- ・農業や漁業の未来を引き継ぐ若者の育成。

■【課題】子育て・保健・医療・福祉

（出生・子育て支援）36 件

- ・保育施設の老朽化（特に学童）。毎日利用されている施設に対しての投資が全然されていない。公園とかへの投資より、利用者が多い施設に対してもっと目を向けて欲しい。
- ・もっと若者がここで暮らしていけるようなサポートや子育て・教育を考えて欲しい。
- ・若い世代が住み続けたいと思える環境づくり。都心への交通の便をもっと便利にして欲しい。そうすれば子どもの教育にも選択肢が生まれると思う。
- ・若年層が住みたいと思えるような魅力ある施策の発信。

(教育環境) 13 件

- ・天津小湊の学区からでも鴨川中学校への入学を希望する場合、希望者は制限なく入学させて欲しいです。子どもの成長過程において、小さなコミュニティから大きいコミュニティで学びたいと考える事は自然な事だと思います。それを他の都合で子どもの学びを制限しないで欲しいです。
- ・木更津や千葉市まで通学無料制度など、子どもが就学支援を受けられる環境作り。
- ・高い教育。スポーツ施設や公園、遊び場を増やして欲しい。
- ・競争環境がない。人が足りず部活ができない。上のレベルを目指せない等の教育環境が課題。

(高齢者・障がい者支援) 12 件

- ・今求められているのは施設の整備。
- ・高齢者を活かす政策がない。私なら高齢者を新規保育士にすべく支援金を出す。
- ・独居老人の暮らし支援。
- ・高齢者の住まいを整える。

(医療機関(混雑・充実)) 9 件

- ・個人経営の医療病院サポート。
- ・亀田病院は近くにあるのに予約がいっぱいで全く気軽に受診できない。眼科と皮膚科の町医者も誘致できないか。
- ・人口減少・年齢の高齢化は防げないが、防災・医療に優しい都市として充実していくべきである。

■【課題】 その他

(公園・遊び場所) 14 件

- ・子どもたちが外で遊べる公園を整備して欲しい。
- ・公園が少ないので公共施設を増やしてほしい。昔から言っているが何かしらのアクションを起こしてほしいです。
- ・子どもの室内の余暇施設の不足による定住者離れが進んでいること。
- ・小湊エリアは公園が少ない。子どもが増えてきたので、遊ぶ所くらい作ってくれたら嬉しいです。

(コミュニティ・スポーツ施設) 10 件

- ・大学の誘致や野球(マリーンズ)、サッカー等、市民以外にお金(税)を使い過ぎている。
- ・景観と共にスポーツや飲食を楽しむ施設。
- ・住み良い市づくりと、市民が集まれる施設づくり。
- ・教育にも使える文化会館的施設の設立。
- ・健康を維持するためのスポーツ施設、無料のジム。

(その他) 26 件

- ・美術品を鑑賞できる施設がない。
- ・豊かな自然環境が当たり前すぎて環境に感謝の念がない。
- ・釣り人やサーファーのマナーが悪い。
- ・市民全体が鴨川市の強みを意識して民意をあげること。

(25) 市が今後目指すべきまちづくりの方向性や人口減少への対応の提案（自由記述）

問25 鴨川市が今後目指すべきまちづくりの方向性や、人口減少への対応などにご提案がありましたらご記入ください。

鴨川市が今後目指すべきまちづくりの方向性や、人口減少への対応について自由記述で伺ったところ、433人より延べ574件のご提案をいただきました。いただいた内容を分野別にまとめた結果は、以下のとおりです。

分 野 （内 容）	件 数
就労支援・雇用創出・企業誘致	89 件
交通インフラの整備によるまちづくり	76 件
子育て支援・婚活支援	66 件
行財政全般・方向性等について	59 件
移住促進支援・定住支援	57 件
住宅支援・空き家対策	29 件
商業施設	29 件
観光振興	27 件
農漁業の振興・後継者支援	23 件
介護・高齢者福祉・障がい者支援	19 件
I ターン・Uターン支援	13 件
防災対策・防犯対策	13 件
他自治体の成功事例を学習	9 件
医療・保健	8 件
その他	57 件

以下に、それぞれの分野・内容から一部を抜粋して記載しています。

◆就労支援・雇用創出・企業誘致

- ・教育機関や企業の誘致。シーワールドだけに頼らず観光施設を充実させる事により仕事を増やし、そこで働く若い方が定着できるように出産から育児の支援を強化することが大事だと考えます。
- ・新しく企業を誘致して、住民の人口を増やして、税収を上げていくこと。企業誘致に関して、税金の優遇や土地を無料で貸与すべき。他の地域にない豊かな環境を生かしたまちづくりをして欲しい。
- ・働ける場所や住居などが整っていればいいかな。子育て支援にもなります。
- ・人が居住するということが、まちづくりにとって大切だと思う。そのために雇用機会を確実に得られるまちにすると良い。人が増えれば、何事もやり方や実施できる環境を作れると考える。雇用機会だけでなく、保障や施設の充実を図ることで、地元の人を呼び戻すことも可能であると考ええる。
- ・道路網の整備、企業誘致を行い、木更津市のように通勤都市化を図る。

◆交通インフラの整備によるまちづくり

- ・市の行政運営を大きく変えない限り、今後の市の発展は難しい。まず、交通網を整備し、観光客が入りやすい環境にする。市外からの人の出入りを増やす。若者が働ける場所を、例えば休田や空き地を利用できないか。
- ・交通網を整備し、都心部からのアクセスを良くすれば、人口が増えると思う。通勤アクセスを良くしなければ定住者は増えない。
- ・若者が出て行かない、もしくは戻ってきたいと思えるまちづくり。都内へ出るにも距離以上に交通面で困る事が多い。そこを改善していく事。魅力的な商業施設がない事。そのため市内で事が完結出来ない。
- ・高速道路を鴨川まで通して移住者を少しでも増やすことが必須だと思います。東京まで1時間程度になれば、ベッドタウンとして住む人は増えると思います。あとは鴨川シーワールド周辺に、ハワイアンズのように冬でも楽しめる施設を整備するなどして、観光業を年間通じて盛り上げることも必要かなと思います。
- ・鴨川市から東京都まで約90km。公共交通機関を利用した場合、電車で2時間、急行バスでも一部を除いて2時間かかる。半分の時間で往復できる交通体制、また、市内の混雑緩和が早急の課題です。
- ・高速道路を鴨川までつなげる。若い人々の遊び場がないため、出会いがない。

◆子育て支援・婚活支援

- ・子育て世代、つまり親世代に訴求できる魅力を作ること。1. 田舎特有の時代遅れな価値観やしきたりをなくしていく。2. 進学あるいは自分の能力を活かす仕事に直結できる分野を学べる環境が整った学校、教育施設がある。それを目当てに全国から入学希望者が来るほどのカリキュラムのあるもの。3. 都心へのアクセスが便利なベッドタウンに。4. テレワークやノマドワーカーなど、働く場所に関係なく所得を得ている層に訴求する。ネット環境を整備。あるいは自営業や副業促進で所得を増やす。つまり、雇用なくても生活可能に。5. 耕作放棄地や空き家の管理をいつでも外注できる仕組み。
- ・給食費無料。保育料無料（0歳～）。出産後、すぐ働けるように保育料無料化。母子家庭・父子家庭の補助金の充実。親と同居していても補助金が出るようにしていただきたい。
- ・移住への金銭的援助、出産への費用援助、不妊治療への取り組み、子育て支援の情報発信、若者世代が市へ関心を持てるよう、デジタル化の推進。
- ・子育て支援で移住を促進する。閉鎖している幼小中学校の建物を使い、老人が子どもと一緒に集い、両親が安心して働ける等、魅力ある市を目指す。もちろん支援金も大切。
- ・福祉、子育て支援の充実。市の持ち物の土地をどの様に有効活用するか。沢山ある空き家を利用して、どれだけの人を誘致できるか。合併する予定の小学校をどれだけ魅力的にできるか。
- ・金銭的な子育て支援、初診から出産までの無料化と出産祝い金の増額。専業主婦主夫家庭でも保育園に預ける事ができる。保育施設の拡充と子どもに携わる仕事をする人の人員増・給与増。幼少中学校教諭の人員増、1クラスの人数を減らし（15名以下）目が届くようにし学力の向上・運動能力の向上・生活の指導・教諭の業務量の緩和等、人件費が増える以外にデメリットが無い。普通のレベルを上げやすくなり、付いていけなくなる確率も減る。子どもの能力が上がればそれも土地から出ていなくなる理由になる。

◆行財政全般・方向性等について

- ・鴨川シーワールドのおかげで観光地ではあるが、公共の交通機関が充実したら、渋滞等もう少し良くなる。大学等が増えたらなお良い。ただ、家賃が高い。田舎なのに家賃や土地が高い。若い子も若い家族も来るわけがないと思います。住民税も高いです。
- ・市民の声が反映される窓口があると良い。移住したくなるような強みや特色があまりなく、家賃も都会並みに高い。空き家利用など対策をして欲しい。
- ・医療（亀田を中心に）、観光（シーワールド）、スポーツ（文化）に特化したまちづくり。スポーツだけではなく、文化・芸術でも活躍できる場所。

- ・急な大きな開発ではなく、自然環境を大切にしたいゆるやかな、心地良いまちづくり。都会から来た人が心休まるような町になって欲しい。
- ・地域の良いところを学校行事で経験させる。農家民泊、棚田の田植え、枝豆収穫から味噌作り、和泉の三役など、文化や史跡巡り。授業などで無理に取り込まないと地域の誇りを知らないままでは、将来、田舎に戻りません。地域の良さを知り、英語が話せる人が増えると、将来的には増えることになる外国人労働者への対応や外国人観光客への対応がスムーズになり、結果的には市の収入が増えてくると思います。誰もの意見をも聞かなければならないでしょうけど、このままではいつまでたってもうだつがあがりません。ゴールイメージをもって、貴重な財産を有効活用しましょう。
- ・多くの若年層、移住者など住民の声を聞く機会をつくり、鴨川市の地域課題をオープンにして話し合いの場を設けてほしい。

◆移住促進支援・定住支援

- ・若者が都会まで出なくてすむ企業誘致。学校の跡地等を利用した子育て世帯が優先して入居できる公共住宅や子育て環境の整備、他市町村からの転入者に補助金（引っ越し費用等、年齢制限は必要）を出す。財政面はふるさと納税が増加するように返礼品を工夫し、研究し活用すべきです。
- ・企業の誘致による雇用の促進。子育て支援の更なる拡充により、若い世代の人達に定住してもらうまちづくり。移住支援金など移住したくなるような魅力的なまちづくり。
- ・子育てがしやすい環境、賃貸物件の金額、高速道路の実現、移住したいと思える環境。
- ・都会から農林漁業をやりに移住する若い世代に、経済的な支援、家を借りられるようにサポートすること。
- ・農業の魅力、海魅力を発信し、生計を立てられる方法を伝え、都会から若者を引き寄せる。旅行者より定住者を。
- ・豊かな自然を財産に農林水産業の衰退の歯止めが必要。後継者不足に対し、移住者支援、外国人労働者の受け入れなども必要かと思います。既に行っている点については更なる強化が必要だと思います。
- ・魅力の創出により若年層の流出を阻止するとともに、充実した医療・福祉環境をはじめとする本市の強みを活し、他都市からの移住者の流入を促進していくことが求められると思う。

◆住宅支援・空き家対策

- ・子育て世帯の移住促進。子育て環境の充実、雇用や空き家の活用等での住宅支援の充実。
- ・この素晴らしい景観をもっと有効利用すべき。海が望める場所の空き家とか勿体ないにもほどがある。移住して住みたいと思う人は沢山いるはず。何故住まないのか。仕事が無いくせに家賃や物価が高いから。東京より交通が不便で物価も高い。家賃もこんなに田舎なのに決して安くはない。車が無くても生活できる生活圏がほしい。人口が増えた分、みんなが車に乗っていたら単純に渋滞が激しくなるだけ。市内の各駅を中心に据えた街造りが良い。
- ・子育て世代への支援、住まいの支援。子育て世代への減税など。
- ・空き家対策でもっと自然を楽しみたい移住者を誘致したらどうか。また、市が中心となって若い人達の婚活を応援すべきだ。
- ・住宅、特に借家となると家賃が高いと感じる。
- ・空き家を整備して若い世代が住みやすい場所を増やしてほしい。
- ・学校統合や空き家、企業誘致や古民家は移住に使用し雇用に繋げる。

◆商業施設

- ・充実した商業施設がない為、子どもを連れて市内での買い物ができません。子育て世代をもっと増やして、活気のある街づくりをしてほしいです。そのためには、大型ショッピングモールや飲食店を増やして欲しい。
- ・商業施設の設立、気軽に立ち寄れる海産物の出店などで観光地として発展させてほしい。高速道路を作って都心などへのアクセスが良ければ人口減少を抑えられると思う。店が少なすぎて不便に思うため、高速道路の導入、商業施設の設立をしてもらえれば不満はない。

- ・鋸南町の番屋をモチーフにした市直営の商業施設を作るべき。商業の基本“薄利多売”で。シーサイドベースはいらない。
- ・もっと集客のできる「道の駅」。海産物などあまり売り物にしていないし、シーサイドベースも小さい。もっと、港町、浜焼きとか東京の真似ではなく、田舎の漁港をメインに作った方が良かったと思う。「ザ・田舎漁港」の方が受けたと思う。
- ・「流山おおたかの森」のような、若い子育て夫婦、子どもにやさしいまちづくり、商業施設の活性化。新町通りや中央通りの商店街復活。大駐車場を完備して車で来られる商業施設、合わせて宿泊施設も併設し泊まれる環境も充実させる。新町通り、中央通り等の通りそのものを、東京の恵比寿横丁や渋谷横丁のような街づくりをする。観光客だけでなく地元民も楽しめる街づくり。
- ・若い世代の人たちの話を聞いていると必ずと言っていいほど、娯楽施設や商業施設が少ないから、退職し市外や他県へ流れていくケースがほとんどである。賃金の安さもある。

◆観光振興

- ・観光客誘致施策として、①フォトコンテスト、鴨川の四季をネット上で拡散させる。②画家のたまご(美大生)にキャンパス(場所)を提供、ゆくゆくはアートの街鴨川。③S Lとサイクリング等。
- ・特徴あるキャンプ場やカフェや交通機関のアクセスの充実。
- ・観光客がリピーターとなってくれるような魅力。例えば、道の駅の充実、夏場の開店時間の延長。
- ・観光名所、名産品の質の向上。広告を強化し、都心部からの観光客を増やす。これにより雇用の場が増え、人口減少に繋がる。
- ・シーサイドベースなどの若者が行きたいと思える施設をもっと作る。

◆農漁業の振興・後継者支援

- ・農業(花・果物・野菜)に市が援助して、増やしていく。若い人が働く所があれば、人口も増えて行くと思う。
- ・「里のMUJI みんなの里」や「オーシャンパーク」、「鴨川 SEASIDE BASE」などのお土産施設ではなく、観光客も市民も利用できる海産物や農産物をふんだんに扱う直売所や道の駅をなぜ作らないのか不思議に思います。そのような巨大施設が地方には沢山テレビでも紹介されて移住者や観光客が集まっているのを耳にするのに、鴨川市が作るのはいつも企業に丸投げ？したお土産中心のオシャレな施設で市民には何も響いていません。土地の活用と企画力がうまくいっているとは思えません。マリーナももっと市民が集まれる道の駅にしてほしかった。市民会館跡地の活用に期待します。
- ・農林水産業の振興、特に若い人に来てもらいたい。
- ・管理できなくなった田畑、農業を志す若い方に希望が持てる十分な力添えを。永住、人口減少にも歯止め。荒れた田畑は原状回復するまでには時間がかかり過ぎます。
- ・農業による土地の活性化、六次産業の促進、耕作放棄地の管理体制の改善、若者への希望ある施策、健全な人口の定着、不安なき住生活の促進、防犯予防の警察の連携・見守・巡回・相談が重要です。
- ・農水産業を主体とした、古くて新しいドキドキするまちづくりをみんなでつくっていくこと。

◆介護・高齢者福祉・障がい者支援

- ・障害者福祉が他の地域より遅れているように思える。高齢者だけでなく、バランス良く援助が必要だと思う。
- ・高齢者でも元気で働ける人達の雇用促進。企業の工場等を誘致して若い人。高齢者の雇用を進める。移住者と地元の人達との交流。声掛けから輪が広がると思います。一人世帯が多いと思うので、孤独な人が多いと考えられます。温かいまちづくりができればいいと思う。
- ・高齢者が住みやすい町づくり。公園の設営。スーパーの設置。移動販売の充実。車がなくても生活しやすい環境づくり。高速道路の誘致。
- ・高齢になっても、何か楽しみのある生活ができる場、予防教室などの運動ができる場、健康に対しての情報を提示して欲しい。若い世代が農業をやって欲しい。

- ・交通の便が悪く、災害が起きた時、孤立してしまうのではないかと。一人暮らしが多くなってきて、町の中もお店が少なくなって、買い物や病院へ行く交通手段で困る人が増えている。
- ・若者の減少や子育て世代の転居を防ぐためには、まず介護施設や福祉のサービス充実が必要。
- ・車社会なので、将来運転ができない年齢になった時の生活が心配です。老後は車を持たなくても生活できる場所に引っ越しをすることも考えています。また、子育て中も子どもの送迎や通院があり、十分に働くことができません。経済的に不安があるため、子どもを増やすことはしないです。子どもや高齢者が自分で学校、病院、買い物などに行ける環境を整えることが大事だと思います。

◆ Iターン・Uターン支援

- ・農業、水産業地域の空き家を、農地・漁業従事資格をセットして I、U ターンを呼びかけていき、それぞれの地域で専従アドバイザーとなる住民も付けて定住を支援する。
- ・鴨川市で育った子どもを、都心に流出させるのではなく、しっかりと戻ってきて産業を発展させられるような、住環境、交通環境、生活環境を整えることが必要。
- ・若い人達の仕事の場をもっと学生達にアピールしたら、都会への流出も少しは歯止めがかかるのではないかと。都会への交通手段がもっと良くなれば、若者も増えると思う。
- ・若い世代・世帯が住みやすいまちづくりをしないと、若い人に帰ってこいとは言えない。亀田以外の専門の医療機関が貧弱。保育施設、保育士の質が悪い。
- ・若い人が鴨川に住みたいと思える様な市でありたい。企業の誘致をする中で、多くの人が帰って来るのが望ましい。
- ・鴨川市へ U ターン・I ターンする有意性を享受できるようにする。例えば、養育や教育の費用の低減、住宅の確保や補助など。財源として、波力や浮体式洋上風力発電施設を構築して電力を売電し、得られた資金を活用する。嶺岡トンネルから待崎橋の国道沿いに商業施設を誘致、整備する。この区間をショッピングモール街道のようにして、生活しやすく魅力のある町づくりをする。

◆ 防災対策・防犯対策

- ・第一は災害対策だと思います。安心安全の確保。
- ・災害（特に津波）が来ても逃げ切れるような施設の充実。今の避難ビルは古い建物や高さのないビルが多いので不安。数年内に大地震が来ると言われているので、海際に引っ越すことに抵抗がある人（特に地元出身者以外）が多いと思う。
- ・市民会館・体育館が必要。災害時に避難できるように。市民が自由に使える運動器材。
- ・防災、防犯や生活環境の整備などを充実させ、若い人から高齢の方々まで、みんなが安心して住みやすい町にして欲しい。
- ・防災対策（特に地震）。道路の崩壊、火災等により、当市を含め、地域の孤立化がないように対策が必要だと思います。
- ・防災に強い町にしてほしい。3.11以降、もう十数年も経っているのに避難場所の確保だったり、高台の避難場所がない。これは沿岸部の地域には死活問題です。震災以降ずっと思っていました。天津小湊にはそのような場所がなくて酷いと思います。さとうみには避難場所があるのに、天津地区、浜荻地区にないのはなぜなのか知りたい。

◆ 他自治体の成功事例を学習

- ・子育てのためのこども園や、援助は充実していると思うが、とにかく公園や子どもを遊ばせる場所が少なく、規模が小さい。近隣の市へ遊ばせに行く事も多くある。室内遊技場も見当たらないため、他市を参考にして策を検討してほしい。前述したが、アクセスを良くしない限り、人口は流出するであろうし、住みにくく若者は外へ行きたがると感じる。
- ・移住をしたいという人に支援を提供していますか。北海道では住む所、仕事などを支援しています。SNSでの発信も一生懸命やっています。
- ・太陽光発電に積極的に取り組んで、クリーンなまちづくりは進められませんか。長野県の友人に聞いた話ですが、公有地を積極的に未来の子らに活用している様です。県と市と地元の金融機関とで連携、出資し合って、クリーンエネルギー活用。田畑も複合型農業にシフトさせて、市民、農業者にそして事業者にも益となる取り組みを企画・調査してみたいかがででしょうか。町も豊か

に、住民にも誇りを持って伝えられる様な取り組みを望みます。他市で行えているのですから、鴨川でもできると思います。

- ・北海道の東川町や長野県への移住者が増えているので、モデルにしたらいいいと思います。子育て手当がそんなに厚くないので、その点も力を入れて欲しい。〇〇の町みたいなブランディングをして欲しい。それか、インスタ映えスポットを作って人を呼ぶとか。
- ・他所の街では、移住者の手厚い支援などがありますが、鴨川市は一部の病院などを除いて、殆ど職が無く市内で安定する職に就けないことでしょうか。また、自治会・町内会の半強制参加が必須など、時代に合わない旧体制が負担になり、若い世代にも負担になっています。「住みやすい」と言われる他の街の良い部分を、鴨川市も積極的に取り入れていただきたいと思います。

◆医療・保健

- ・歯医者にかかりたくても何ヶ月も待たされる。
- ・移住者へのメリットを増やす。眼科等、亀田病院以外の町直結の専門医院を充実させる。
- ・自然と医療が調和したまちづくり。
- ・私は医療従事者として長年働いてきました。市内では定年が60歳制度の病院がほとんどです。65歳定年制にしてもらって正社員で働きたいと思います。国は税金ばかり上げ、年金は下がる。60歳でパートになったら生活が苦しくなるのは目に見える。不安です。
- ・亀田総合病院を主とした保健医療や、それに関連して流入してきた人口の定着を図るための子育て支援など、若い世代が生活しやすいまちになるよう力を入れていくべきだと考えます。

◆その他

- ・一部の市や町ではサッカーチームを強化し、見物客の取り込みを強力に進めておりますが、鴨川では「オルカ鴨川FC」が女子1部リーグで優勝したにも関わらず、行政や市民の関心は薄く、亀田病院が勝手にやっている感じにしか受けとれない。せっかくこのような集客の要素がありながら、鴨川ではこれを利用しようとの動きが感じられないので、官民一体でこれを利用し、集客策を考えるべきです。
- ・治安のよいまちであってほしい。今はプライバシーを無視できる環境ではないので、人口減少は仕方ないと思います。なので学校で疑似デートをさせるなど、恋愛にポジティブな学生を増やすことから始めてはどうでしょうか。
- ・一番は自然の豊かさや暖かさだと思いますが、それだけではダメで、毎日生活を送らなければならない時、気持ち良く過ごすにはどうしたら良いかを考えた時、隣人、地域の人々の優しさ、温かさ、親切さが絶対必要だと思います。親切にして差し上げたいと思います。
- ・観光客の誘致活動は控える。市民の意識を高めるための文化活動を盛んにする。
- ・地元において仕事もあるが、集落のしきたりや役員等の持ち回りがあり、若い人はそれが煩わしく、実家にいたくないという声を多く聞く。古くからいる家だけの持ち回りで、新しい住宅地に新築した人の参加はなく、地域や集落ではどんどん高齢者ばかりになる。

(26) 災害発生に備えて準備しているもの

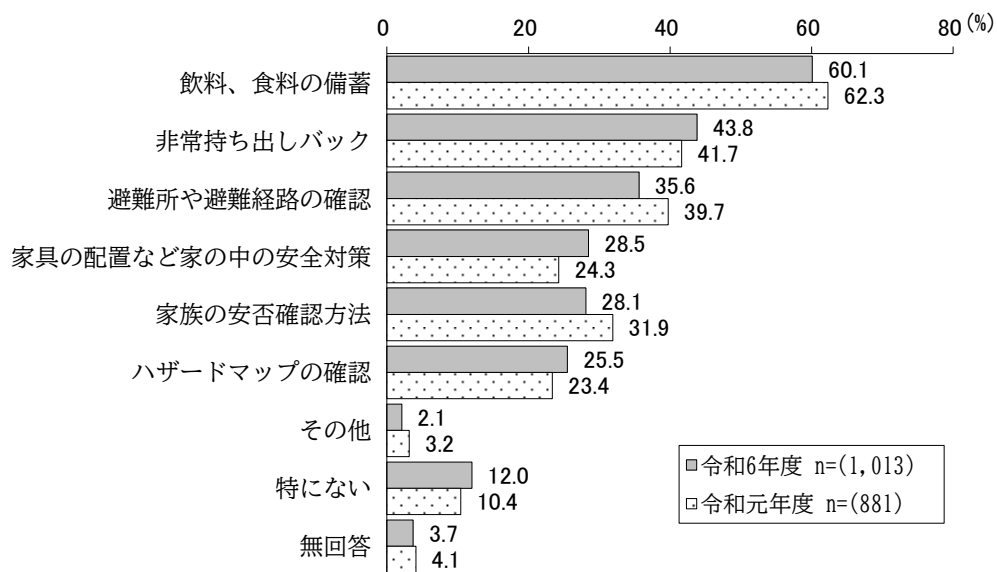
ここからは災害時の助け合いに関することを伺います。

問26 災害の発生に備え、何を準備していますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。

【いくつでも○】

災害発生に備えて準備しているものは、「飲料、食料の備蓄」が60.1%で最も高く、次いで、「非常持ち出しバック」(43.8%)、「避難所や避難経路の確認」(35.6%)となっています。

令和元年度調査と比較すると、「家具の配置など家の中の安全対策」が4.2ポイント増加し、「避難所や避難経路の確認」が4.1ポイント減少しています。



■家族構成別

災害発生に備えて準備しているものを家族構成別にみると、「飲料、食料の備蓄」は全ての家族構成で最も高くなっており、「非常持ち出しバック」と「避難所や避難経路の確認」が全ての家族構成で2位と3位となっています。

		調査数	飲料、食料の備蓄	非常持ち出しバック	避難所や避難経路の確認	家具の配置など家の中の安全対策	家族の安否確認方法	ハザードマップの確認	その他	特にない	無回答
全 体		1,013	60.1	43.8	35.6	28.5	28.1	25.5	2.1	12.0	3.7
家族構成別	ひとり暮らし世帯	153	56.2	42.5	26.1	20.3	16.3	22.2	2.6	15.7	3.9
	一世代世帯（夫婦のみ）	276	65.2	46.4	35.5	35.5	31.9	27.2	1.8	9.1	4.0
	二世帯世帯（親・子）	460	58.7	43.9	38.3	28.9	28.9	27.0	1.7	13.3	3.3
	三世帯世帯（親・子・孫）	93	61.3	45.2	39.8	20.4	32.3	21.5	3.2	7.5	3.2
	四世代世帯（親・子・孫・曾）	6	50.0	-	50.0	16.7	16.7	33.3	-	-	-
	その他	18	55.6	33.3	38.9	27.8	38.9	16.7	5.6	22.2	-

(27) 災害発生時、被害を軽減するためにとる対応として重要だと思うこと

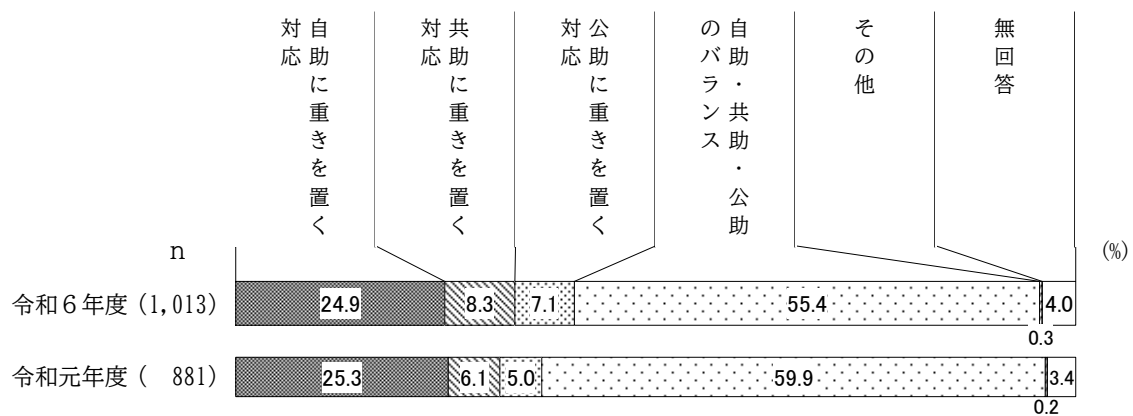
問27 災害が発生した時にその被害を軽減するためにとる対応として重要なことは何ですか。

【1つに〇】

※自分や家族で身を守るのが「自助」、地域住民やボランティアで助け合うのが「共助」、市役所など公的機関による支援が「公助」

災害発生時、被害を軽減するためにとる対応として重要だと思うことは、「自助・共助・公助のバランス」が55.4%で最も高く、「自助に重きを置く対応」が24.9%、「共助に重きを置く対応」が8.3%、「公助に重きを置く対応」が7.1%の順となっています。

令和元年度調査と比較すると、「自助・共助・公助のバランス」が4.5ポイント減少しています。

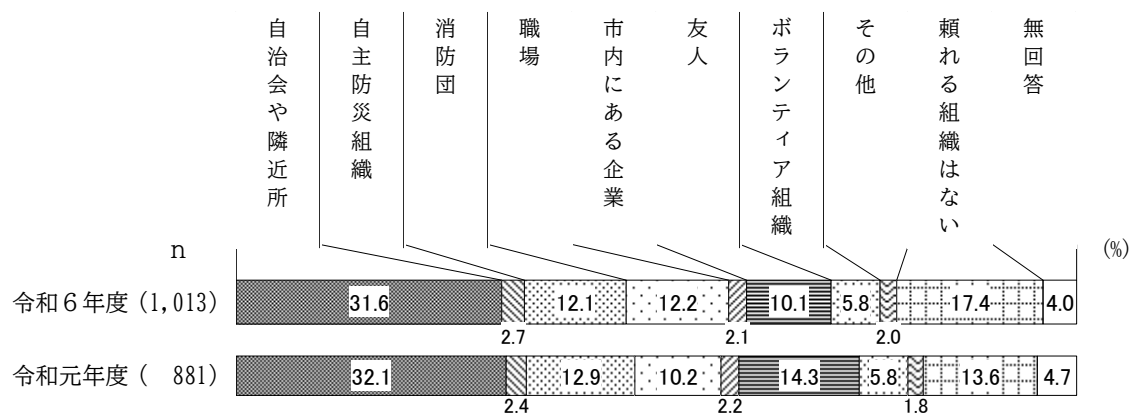


(28) 災害発生時に、行政以外に頼れる組織

問28 災害が発生した時に、行政のほかに頼れる組織は何ですか。【1つに○】

災害発生時に、行政以外に頼れる組織は、「自治会や隣近所」が31.6%で最も高く、「職場」が12.2%、「消防団」が12.1%、「友人」が10.1%となっています。一方、「頼れる組織はない」は17.4%となっています。

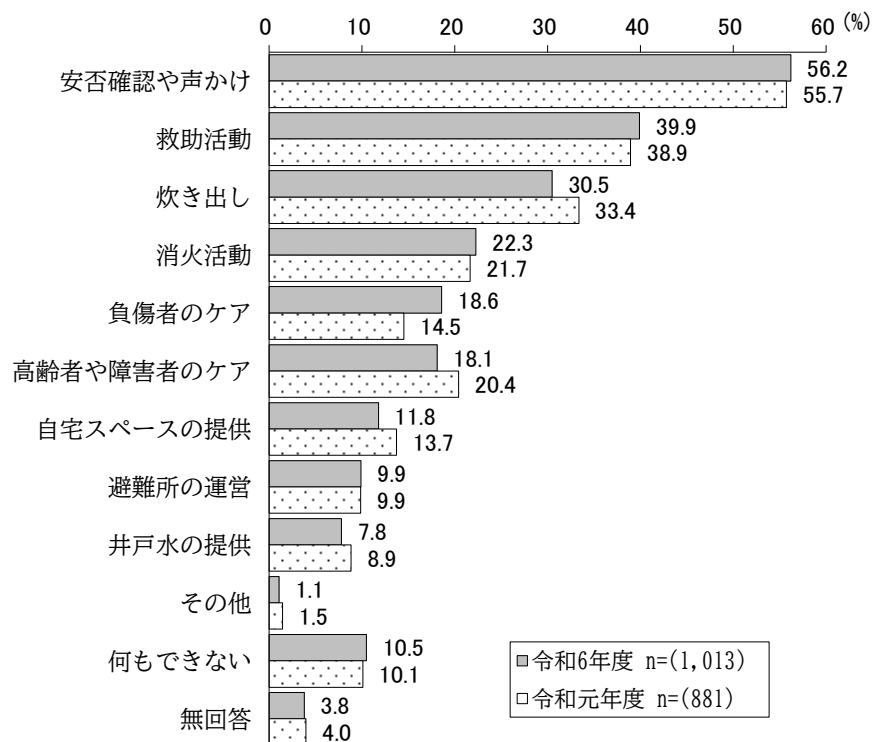
令和元年度調査と比較すると、「友人」が4.2ポイント減少し、「頼れる組織はない」が3.8ポイント増加しています。



(29) 災害が発生し、近所で助け合いが必要となったとき自分にできること

問29 災害が発生し、近所で助け合いが必要となった場合、あなたができることは何ですか。あてはまるものに○印をつけてください。【いくつでも○】

災害が発生し、近所で助け合いが必要となったとき自分にできることは、「安否確認や声かけ」が56.2%で最も高く、これに「救助活動」(39.9%)、「炊き出し」(30.5%)が3割台で続いています。令和元年度調査と比較すると、「負傷者のケア」が4.1ポイント増加しています。



■年代別

災害が発生し、近所で助け合いが必要となったとき自分にできることを年代別にみると、「安否確認や声かけ」は全ての年代で最も高くなっており、中でも40歳代（61.7%）で最も高い割合となっています。また、「救助活動」は50歳代（48.8%）、「炊き出し」（34.7%）と「消火活動」（29.9%）は40歳代、「負傷者のケア」は30歳代（29.7%）で最も高い割合となっています。

■居住地区別

居住地区別にみると、「安否確認や声かけ」は全ての地区で最も高くなっており、中でも大山地区（66.7%）で最も高い割合となっています。また、「救助活動」は西条地区（45.3%）、「炊き出し」は吉尾地区（42.2%）、「消火活動」は曾呂地区（27.8%）、「負傷者のケア」は江見地区（27.3%）で最も高い割合となっています。

■家族構成別

家族構成別にみると、「安否確認や声かけ」は全ての家族構成で最も高くなっており、中でも一世代世帯（59.1%）で最も高い割合となっています。また、「救助活動」は二世代世帯（42.6%）、「炊き出し」（34.4%）と「消火活動」（35.5%）は三世代世帯、「負傷者のケア」はひとり暮らし世帯（22.9%）で最も高い割合となっています。

単位：％

単位：％														
		調査数	安否確認や声かけ	救助活動	炊き出し	消火活動	負傷者のケア	高齢者や障害者のケア	自宅スペースの提供	避難所の運営	井戸水の提供	その他	何もできない	無回答
全 体		1,013	56.2	39.9	30.5	22.3	18.6	18.1	11.8	9.9	7.8	1.1	10.5	3.8
年代別	10歳代	41	61.0	46.3	31.7	19.5	22.0	17.1	7.3	12.2	4.9	-	4.9	-
	20歳代	72	51.4	38.9	20.8	19.4	29.2	20.8	6.9	12.5	4.2	-	13.9	2.8
	30歳代	101	52.5	45.5	27.7	17.8	29.7	19.8	11.9	7.9	5.9	3.0	4.0	4.0
	40歳代	167	61.7	46.7	34.7	29.9	27.5	22.2	9.0	13.8	7.8	-	5.4	3.6
	50歳代	172	59.9	48.8	34.3	26.7	19.8	21.5	11.0	12.2	6.4	0.6	7.6	4.1
	60歳代	173	58.4	39.9	32.4	27.2	9.8	17.9	15.0	8.1	7.5	2.9	8.7	3.5
	70歳代	177	55.4	32.8	31.6	15.8	12.4	14.1	15.3	9.0	12.4	0.6	13.6	3.4
	80歳以上	84	45.2	17.9	20.2	10.7	8.3	9.5	13.1	2.4	7.1	-	28.6	7.1
居住地区別	田原地区	76	59.2	36.8	26.3	15.8	7.9	11.8	10.5	3.9	5.3	-	18.4	-
	西条地区	117	60.7	45.3	26.5	22.2	20.5	18.8	12.8	9.4	6.8	-	9.4	1.7
	東条地区	203	53.2	37.4	28.1	19.7	20.7	14.8	7.4	10.8	7.4	1.0	10.8	4.4
	鴨川地区	210	53.8	42.4	32.4	22.4	20.0	20.0	15.7	10.0	9.5	1.0	7.1	4.8
	江見地区	66	57.6	40.9	31.8	27.3	27.3	25.8	13.6	15.2	4.5	-	12.1	3.0
	太海地区	32	50.0	37.5	25.0	15.6	18.8	25.0	12.5	6.3	9.4	-	9.4	6.3
	曾呂地区	36	52.8	44.4	22.2	27.8	13.9	25.0	2.8	8.3	2.8	-	8.3	8.3
	大山地区	39	66.7	43.6	35.9	17.9	20.5	23.1	20.5	12.8	10.3	2.6	10.3	-
	吉尾地区	45	55.6	44.4	42.2	22.2	17.8	15.6	11.1	4.4	15.6	-	8.9	4.4
	主基地区	40	57.5	37.5	35.0	27.5	15.0	17.5	7.5	10.0	5.0	2.5	12.5	2.5
	天津地区	102	60.8	32.4	34.3	27.5	17.6	14.7	13.7	15.7	9.8	2.0	11.8	2.9
	小湊地区	36	58.3	33.3	36.1	25.0	8.3	16.7	13.9	2.8	-	5.6	8.3	13.9
家族構成別	ひとり暮らし世帯	153	43.8	33.3	21.6	17.0	22.9	20.9	8.5	7.2	3.3	2.0	18.3	4.6
	一世代世帯（夫婦のみ）	276	59.1	39.1	29.7	21.7	18.8	15.2	13.0	10.5	11.2	0.7	7.2	5.4
	二世代会世帯（親・子）	460	58.3	42.6	33.3	22.0	17.8	18.3	11.7	10.9	5.9	0.9	9.8	2.8
	三世代会世帯（親・子・孫）	93	57.0	41.9	34.4	35.5	15.1	22.6	15.1	6.5	11.8	1.1	9.7	2.2
	四世代世帯（親・子・孫・曾）	6	83.3	33.3	33.3	16.7	33.3	16.7	-	16.7	-	-	16.7	-
	その他	18	61.1	38.9	38.9	22.2	16.7	11.1	16.7	16.7	16.7	-	16.7	5.6

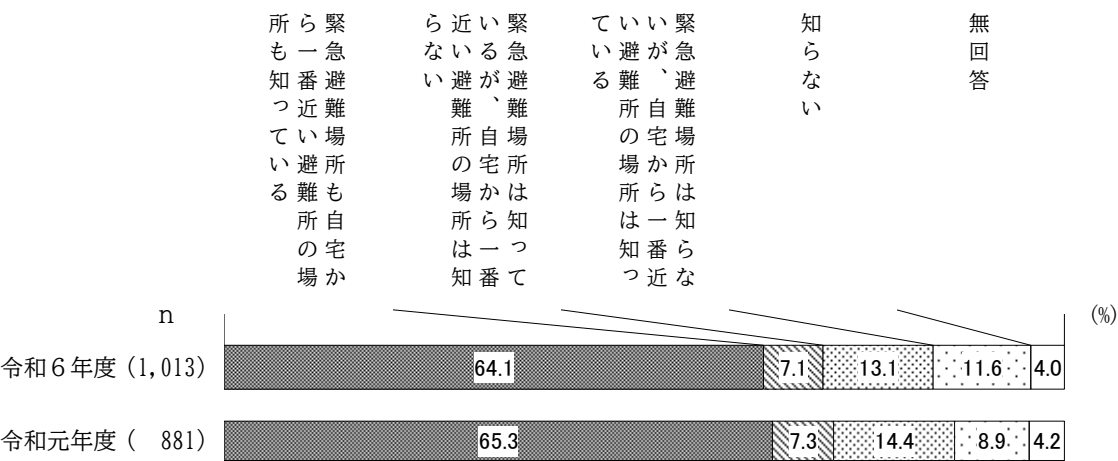
(30) 災害が発生した場合の緊急避難場所や一番近い避難所の場所の認知度

問 30 災害が発生した場合の緊急避難場所や自宅から一番近い避難所の場所を知っていますか。
【1つに○】

※緊急避難場所：災害が発生、または発生のおそれがある場合、一時的な避難が必要な時に身の安全を確保する場所
※避難所：災害の危険性があり避難した住民、または災害により家に帰れなくなった住民などが、一定期間滞在するための施設

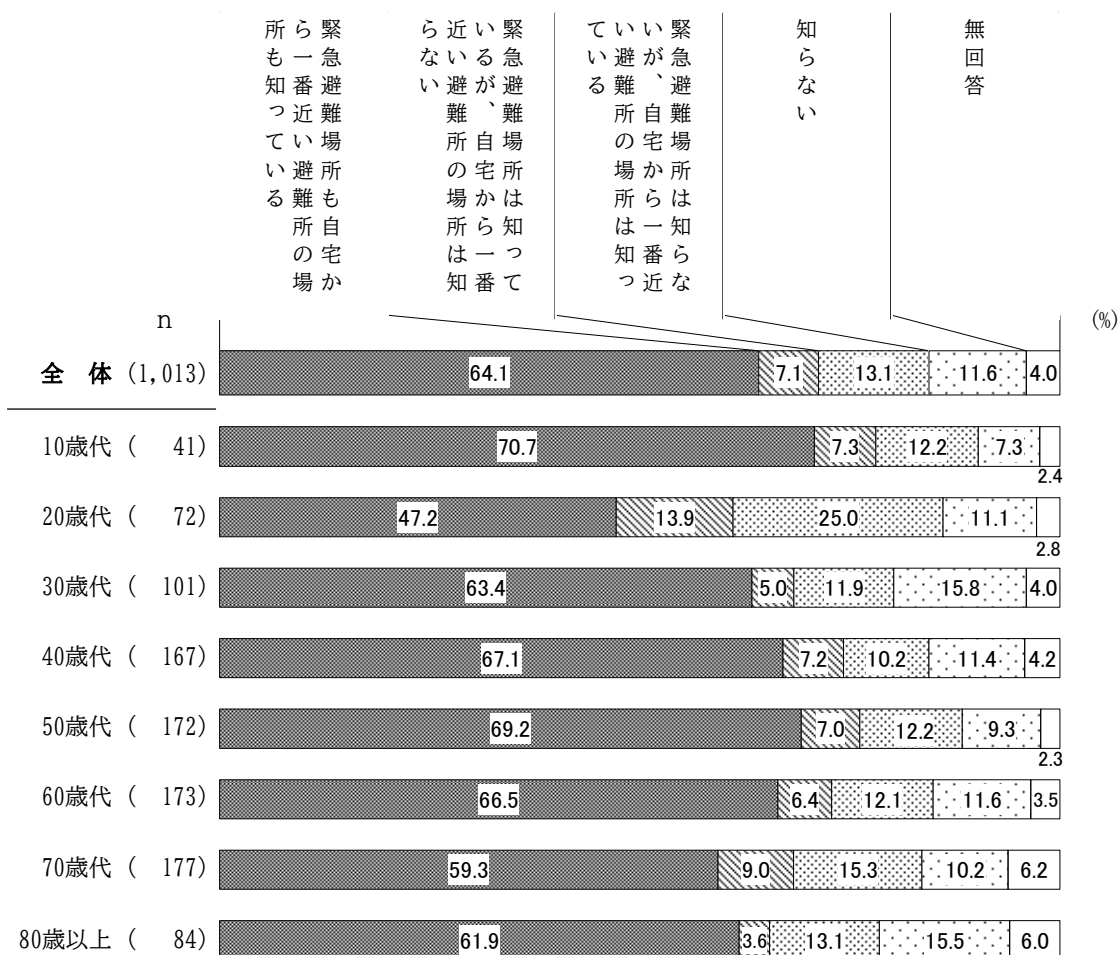
災害が発生した場合の緊急避難場所や一番近い避難所の場所の認知度は、「緊急避難場所も自宅から一番近い避難所の場所も知っている」が64.1%で最も高く、「緊急避難場所は知らないが、自宅から一番近い避難所の場所知っている」が13.1%となっています。一方、「知らない」は11.6%となっています。

令和元年度調査と比較すると、特に大きな違いはみられません。



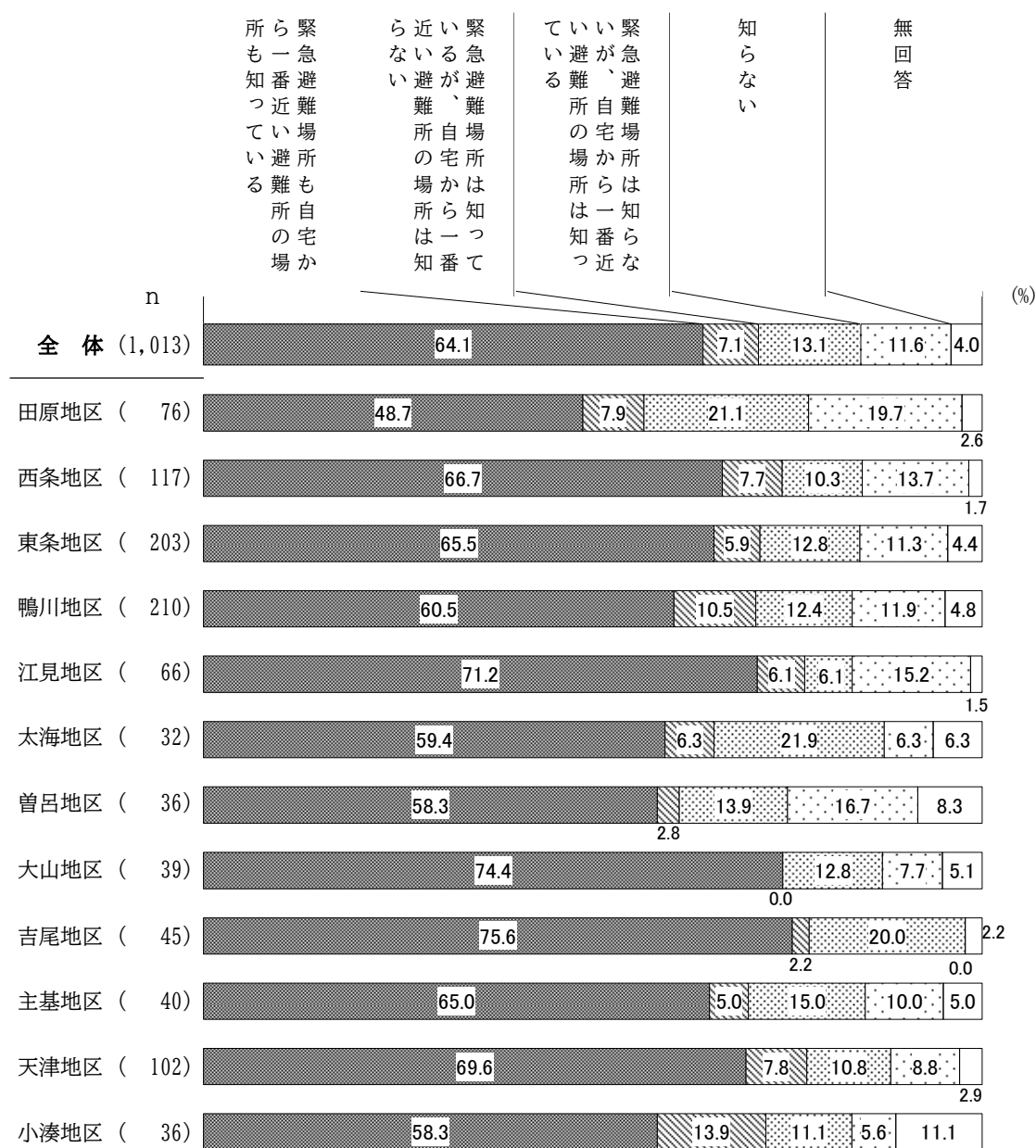
■年代別

災害が発生した場合の緊急避難場所や一番近い避難所の場所の認知度を年代別にみると、「緊急避難場所も自宅から一番近い避難所の場所も知っている」は全ての年代で最も高くなっており、中でも10歳代（70.7%）で最も高い割合となっており、次いで50歳代（69.2%）となっています。逆に、20歳代で47.2%と最も低くなっています。



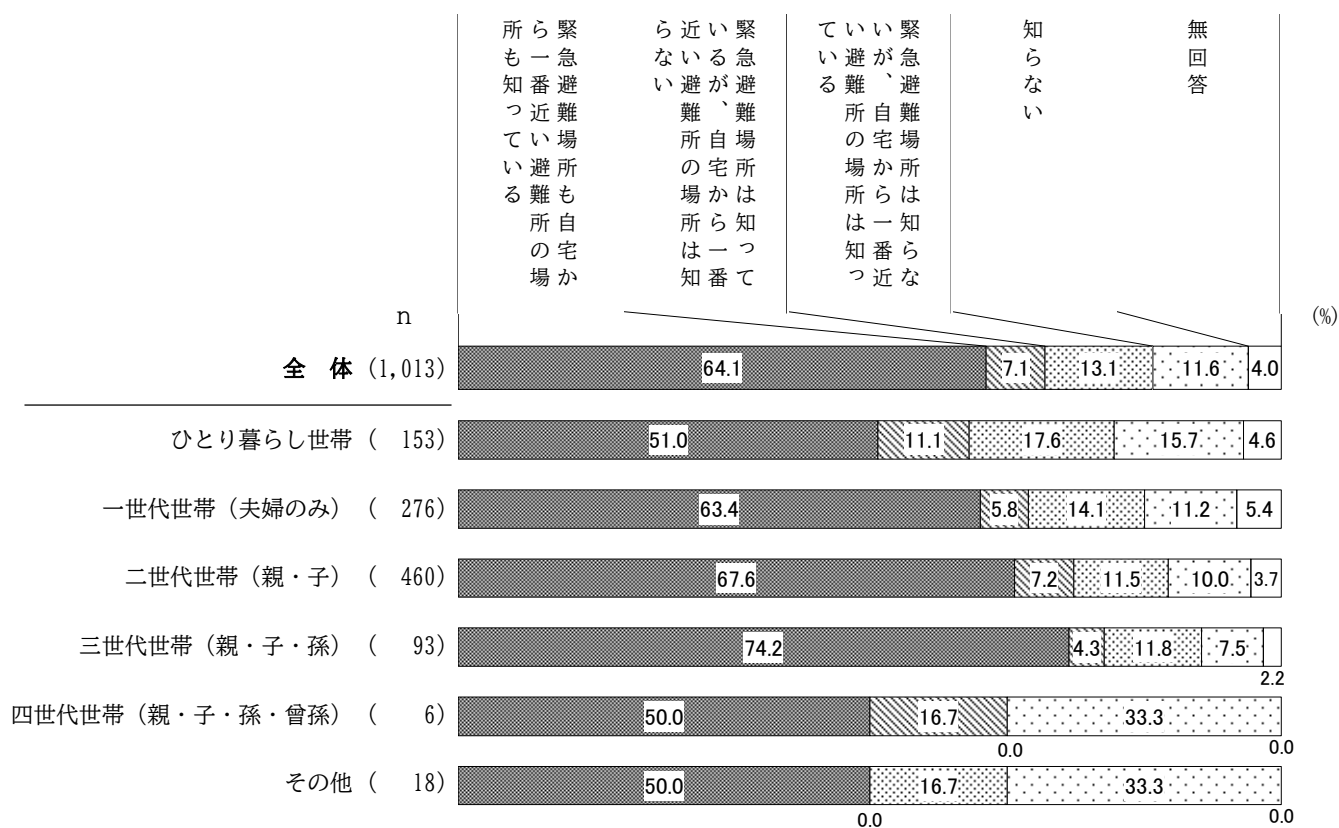
■居住地区別

災害が発生した場合の緊急避難場所や一番近い避難所の場所の認知度を居住地区別にみると、「緊急避難場所も自宅から一番近い避難所の場所も知っている」は全ての地区で最も高くなっており、中でも吉尾地区（75.6%）で最も高い割合となっており、次いで大山地区（74.4%）、江見地区（71.2%）となっています。逆に、田原地区で48.7%と最も低くなっています。



■家族構成別

災害が発生した場合の緊急避難場所や一番近い避難所の場所の認知度を家族構成別にみると、「緊急避難場所も自宅から一番近い避難所の場所も知っている」は全ての家族構成で最も高くなっており、中でも三世代世帯（74.2%）で最も高い割合となっており、次いで二世帯世帯（67.6%）となっています。逆に、ひとり暮らし世帯で51.0%と最も低くなっています。

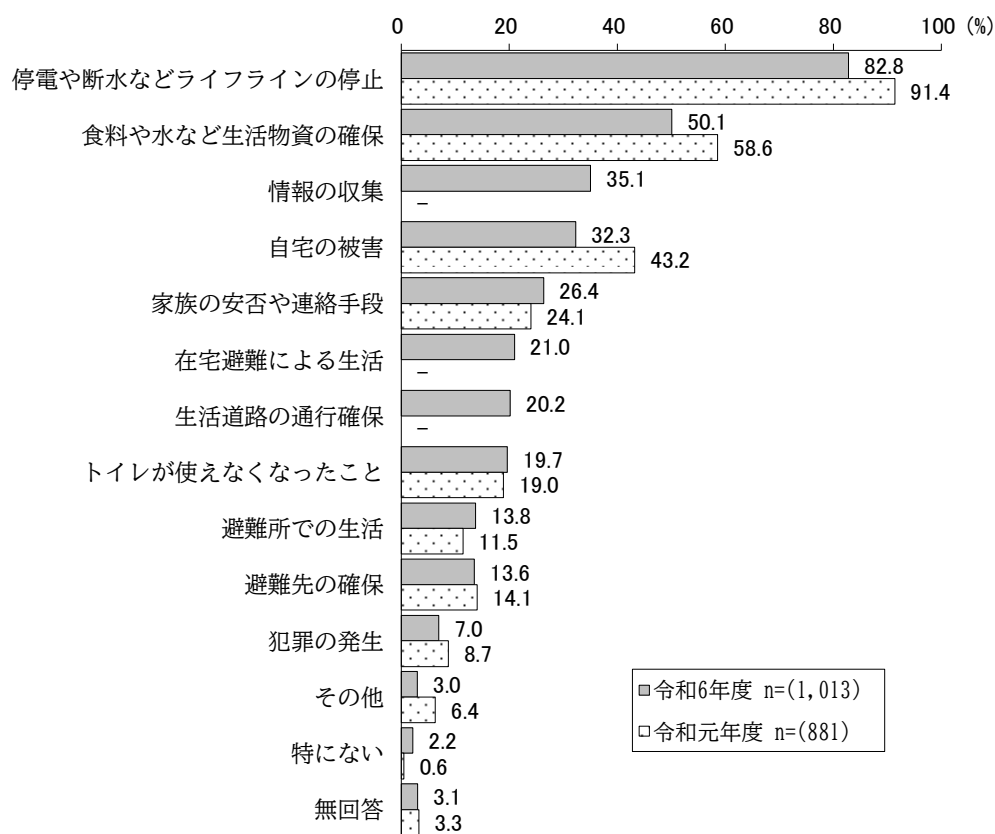


(31) 台風などによる災害時に不安に感じたこと

問31 令和元年房総半島台風や令和5年台風第13号などによる災害の時に、どのようなことを不安に感じましたか。【〇はいくつでも】

台風などによる災害時に不安に感じたことは、「停電や断水などライフラインの停止」が82.8%で最も高く、次いで「食料や水など生活物資の確保」(50.1%)、「情報の収集」(35.1%)、「自宅の被害」(32.3%)となっています。

令和元年度調査と比較すると、「自宅の被害」が10.9ポイント、「停電や断水などライフラインの停止」が8.6ポイント、「食料や水など生活物資の確保」が8.5ポイントと大きく減少していますが、これは、「情報の収集」「在宅避難による生活」「生活道路の通行確保」の選択肢が増えたことによる回答肢の分散と考えられます。



※「情報の収集」「在宅避難による生活」「生活道路の通行確保」は令和6年度からの新設項目

(32) 自由意見

問32 令和元年房総半島台風や令和5年台風第13号などによる災害について、課題や改善点、行政に対する意見などがありましたらお聞かせください。

令和元年房総半島台風や令和5年台風第13号などにより災害を体験したうえで、改めて災害対策の課題や改善点について自由記述で伺ったところ、322人より延べ381件のご意見をいただきました。いただいた内容を分野別にまとめた結果は、以下のとおりです。

分 野（内 容）	件 数
事前の備え	124 件
鉄道や道路（網・側溝）の事前の整備	23 件
災害対策マニュアル等の整備と周知	16 件
避難場所の見直し・避難経路の確保	16 件
インフラ対策	15 件
防災行政無線の整備	14 件
海辺・水害対策	10 件
山林・地滑り対策	7 件
防災備蓄の充実	6 件
高木や危険な樹木の伐採等	4 件
その他	13 件
災害発生時・避難時	98 件
災害時の情報の集約と提供方法の検討	55 件
避難所のプライバシー確保・多様化への対応	10 件
避難行動困難者（の多い地域）の取り組み	9 件
交通網遮断時の交通整理・情報提供	6 件
避難者への物資配給の公平性	5 件
既存通信手段が使えない場合の代替手段確保	4 件
その他	9 件
災害後の復旧	90 件
インフラの早期復旧	67 件
家屋改修等の経済的支援・ブルーシート配付	7 件
仮設住宅の整備・住宅支援	3 件
片付け等の人的支援	3 件
その他	10 件
その他	69 件
行政への感謝・鼓舞激励	38 件
災害体験時の感謝	12 件
自身への意識	8 件
その他	11 件

以下に、それぞれの分野・内容から一部を抜粋して記載しています。

■ 事前の備え

(鉄道や道路(網・側溝)の事前の整備)

- ・ 国道の側溝が松葉や落ち葉で隠れてしまっているため、大雨が降った際に冠水してしまうおそれがある。また、農業用水路等にも砂等が溜まっており、雨水を排水しきれないため、あふれてしまっている。鴨川市は特に台風の影響を受けやすく、高波や風の影響が大きいので、その対策をしっかりとして欲しい。
- ・ 個別の集落ごとに対策が取れる様にしておけば、ある程度の期間は何とかなると分かった。道路が元々狭く、森林整備がされていない影響で、通れないことが不便ではあった。地元の人達の努力で道路整備が成り立っている所も多いのに、そのための資金はほぼ持ち出しになっている。集落ごとに一年で1万円ちょっとのお金では少な過ぎると思う。
- ・ 災害時は、調査・救助・救援が第一に必要です。そのために道路が整備されていること。直ぐに道路復旧されることが大事。山・森林が多い我が町には道路のすぐ側に山林があります。道路整備と共に山林の整備も必要と感じます。
- ・ 食料品の品不足が困った。停電の復旧に時間がかかった。房総半島は能登半島のように袋小路になっている。災害時、交通道路が限られているため、救護・救援に時間がかかるのではないかと不安。高速道路と繋がった公共道路を造って、交通面を充実していただきたい。

(災害対策マニュアル等の整備と周知)

- ・ 家族の体調が悪くなり(エコノミー症候群)、ホテルや旅館に移動したかったが、一杯ですぐ移動できなかった。改善策として、災害時不便だった事や問い合わせが多かった事をQ&Aみたいに資料を作成し、市民が事前に受けられるサービスなどを知っておくと良い。前回の災害から学んだ事を市民で共有した方が良い。前回大変だったので、いざ起こった時の備え、食料なども大事だが、色々他にも大事だと身にしみて感じています。
- ・ 鴨川市では特例の、例えば自然災害課といわれる様な組織があるのか。いずれにしろ、日頃の周知、訓練、災害に対する心構えが重要。
- ・ 鴨川に移り住んだ者です。回覧板を受け取ってなく、災害時に公民館が開いていることも知らず、自宅で過ごしました。物品等も戴けたようだが、全く知らずに過ごしていました。市民、全員が平等に品物をもらえるようにして欲しい。夫は地元(南房総市)の消防団に加入しています。災害時(令和元年)、各家庭の安否確認に一軒ずつ回っていました。鴨川はありませんでしたね。
- ・ 市役所職員の個々の資質向上により、緊急時の対応(即応)をレベルアップさせる。日頃から(訓練のための訓練ではなく)実践スタイルの発災対応型の訓練を実施する、充実させる。県、近隣自治体との連携を滞りなく行えるよう、連絡体制を整えておく。補完機能(体制)も併せて整える。
- ・ 市役所の災害に関するホームページで、震災被害のマップなどはやや見にくかった。
- ・ 発電機の貸し出しの不備、迅速な対応と広報、市内の救護者の確認、水害対策を予測し災害時迅速に対応出来る何通りかの想定をすべきと思います。

(避難場所の見直し・避難経路の確保)

- ・ 緊急避難場所は妥当ではない土地の場所にある。河川に挟まれているため、高いタワー棟やぐらが別地に必要。
- ・ 災害時の避難場所として、旧トンネルを利用する事を提案します。そのための設備を。
- ・ 避難所もいつまであんな途上国みたいな状況なのか。昭和時代から全く進歩がない。例えば、避難所を国内最先端にするだけでもアピールポイントになると思う。
- ・ 避難できる場所が少な過ぎる。もっと高台で安心できる所を江見地区にも設けて欲しい。高波対策は地震にも役に立つと思います。電柱が倒れ、停電した時のために、東京みたいに公衆電話を災害用に切り替えて欲しい。津波避難タワー等。
- ・ 勝浦市の様なキュステみたいな施設。
- ・ 避難先の小学校の体育館が雨漏りを知っていたので、避難する選択肢をとらなかった。また、それが今もそのままなのか、改善されたのかさえ知らない。

(インフラ対策)

- ・鴨川は遠隔地だから送電線の点検を常に行わないと停電時にすべてが不便になる。停電しないことが生きていくために一番大切だと思った。
- ・市街地と郊外のインフラ格差が酷かった。今後はそれを軽減させるため、ハード面で難しいようであれば、デジタルテクノロジーを駆使してソフト面などを活用する努力をすべき。
- ・特に電気や通信設備の脆弱性を感じた。また、食べ物や水の確保は必須です。電気の再開に1週間はかかりすぎ。
- ・房総半島において、想定される大きな自然災害は、津波、台風等による強風、大雨による土砂災害が考えられる。この内、ここ数年に襲来した強風を伴う台風による被害で、弱いライフライン、インフラは明確化されたと思われるので、その対策を強化してほしい。具体的には電力供給の停止が深刻であったので、電線の地下埋設、バックアップ送電ラインの確保などを進めてほしい。

(防災行政無線の整備)

- ・外から流れる広報が音声割れて、ほとんど聞き取れない。ここ20～30年全く直そうとしていない。こんな事では災害時に必要な情報が全く伝わらず、被害の拡大が予想される。こんな基本的な事に何年も気付かないで流しているのでは、口先だけの危機管理としか思えない。
- ・窓を閉めていると防災無線の放送が聞き取りにくい。各家庭に災害時の放送があるといいと思いました。携帯が外になると情報の収集が難しい。放送だけが頼りです。今は自宅の固定電話もあります。携帯が使用できないと救急車も呼べません。とても怖い事です。各家庭の災害時の防災無線機にSOSボタンがあると安心ですね。
- ・防災無線放送がよく聞こえなかった。同じ内容をメールやSNSに載せて文字でも読めるようにしてほしい。
- ・令和元年房総半島台風の時、停電が続いて携帯電話は不通になり、市の防災行政無線は殆ど機能をせず、唯一、停電などの災害状況を伝えたのはNHKのAMラジオでした(千葉県のベイ・エフエムは停電の中でも洋楽などを永遠と放送していた)。日頃、市の防災行政無線は強風・大雨時は家の中で聞こえない上、災害が発生した時に全く無意味と感じました(デジタル化される前は、60MHz帯FM変調を聞ける受信機があれば聞いていた)。南房総市などは、個別に各家庭に受信機が設置されていますし、鴨川市は別途受信機を購入する必要があるなど、“自己責任”を感じさせるように思います。

(海辺・水害対策)

- ・近隣の川が氾濫して、今までにないルートに水があふれた。今後その様な箇所を把握して、対策を考えてください。
- ・災害時に使用できる救助旗の配布、土のうステーションの設置。
- ・台風時の高波による被害が心配になるので、天面地区の様に海岸の防波堤防(江見海水浴場付近)を高くして欲しい。

(山林・地滑り対策)

- ・地すべり指定区域のため、土砂崩れ防止対策に力を入れて欲しい。
- ・森林の手入れ 山水が滝のように流れ土砂も流れて、通る事が出来なかった。
- ・森林整備、大地の再生活動。高田造園さんのような自然環境を豊かにする土木を取り入れて欲しい。

(防災備蓄の充実)

- ・「食料をもらいに行ってももらえなかった」と言っている人がいた。自分で用意しておくことももちろん大切だが、災害の影響が長引いたらと考えると怖くなる。必要な物が必要な人に渡るようにしてほしい。
- ・食料の保管をお願いしたい インスタントの味噌汁など。
- ・燃料の確保。
- ・備蓄倉庫の管理、セキュリティーに不安を感じる。錠解除ナンバーの管理に問題を感じる。

(高木や危険な樹木の伐採等)

- ・鴨川は木が高過ぎるところがあります。家の前の空き家の木はとても高く、一回台風が来て、木が折れて車にぶつかりそうになったので、木を安全な高さに剪定してください。
- ・令和元年の台風 15 号では月～金まで 5 日間停電しました。暑かったです。電力会社の人員の問題もありますが、行政としても日頃から電力会社と会合を持って、樹木の伐採に力を貸すことができないかと思います。
- ・特に停電が辛かった。原因の多くは樹木の倒壊、接触と考えている。東電にだけ樹木の伐採をさせるのではなく、市が樹木の所有者に電線に接触するまえに伐採をお願い、または指示、市がみずから伐採するなど出来ないか。

(その他)

- ・行政と地域の企業（病院、建設業、自衛隊）等との協力規定はあるのでしょうか。日頃から演練されているようには見えません。災害時は行政だけでは何も出来ないと思います、市民に協力してもらい組織活動（行動）が出来る対策も必要ではないでしょうか。例えば、元地方公務員、元自衛隊官等に声かけして各地域で元職種ごとのグループ（LINE）を作り顔合わせ等をして、各職種ごとの役割り分担を決めて活動してもらおうとかはいかがでしょうか。
- ・停電の時の発電機を市で購入して貸し出しを可能にして欲しい。
- ・避難先の場所や、そこにどんな物資がどれだけあるのかが不明。仮設住宅をどこにどれだけ造れるのか不明。道路が寸断され陸の孤島になった場合の対策はあるのか。海からの物資の搬入は考えているのか。自衛隊等の空からの搬入、救助のシミュレーションはしているのか。
- ・停電が続くことが予想されるため蓄電池の整備などを予算化して欲しい。

■ 災害発生時・避難時

(災害時の情報の集約と提供方法の検討)

- ・鴨川市に転入して、先の台風の停電時、状況を聞くも、応答してもらえませんでした。こうした経験から地元で提供していないインフラ等の災害について、必要な情報は市に集まり、市から住民に伝達される手段を整備してください。
- ・安否確認や住宅の被害状況等の把握について、色々な部署に何度も確認提出をしていたが、全体の統一性がないと感じた。災害時は特に迅速に行動して報告するべきと思いました。一貫性が重要です。
- ・広報無線が使えず、携帯もバッテリーがなかったため、主基から市役所へ車で行って、情報収集をしていた。避難所でも常に新鮮な情報収集ができるようにして欲しかった。暑さが酷く、自宅近くに涼める場所がなく、熱中症になりそうで怖かった。涼める場所を用意して欲しかった。屋根を直すという詐欺事業者が出入りしていたので、お巡りさんに直々にパトロールして欲しかった。
- ・情報がほとんど入らなかった。道路が通れなかった。行政からの支援はなく、近隣の方と共同で道路を開通させた。主に働いていた方は高齢であるため、あと 5 年後にこの様な災害が起きた場合、主に働く人がいない孤立集落になる。行政の支援はほぼなし。こちらから連絡を入れて、水を運んでもらった。集会所に備蓄をするなどの支援が必要ではないか。
- ・情報の提供。食料、水等の物資の配給情報。停電の回復予定や道路通行の情報。
- ・地区による復興格差、通信網の遮断（電話が通じない）、情報不足、避難所に行っても名簿もとっておらず、どこの誰が避難しているか分からない状態。
- ・停電期間が長かったため、暗い家の中での生活が不安だった。コンビニにも食料が少なかったの困った。炊き出し情報や水や食料配給のお知らせ、又は市役所職員やボランティアによる各家庭への食料配達をして欲しかった。お風呂にも入れなかったが、市内のホテルで大浴場の開放があつてとても助かり良い事だと思った。
- ・とにかくガソリンがないと仕事もできなくなる。スタンドに何時間も渋滞して入っていたが、隣の勝浦では電気が通っていて、どこのスタンドでも渋滞なく入れられたようです。そういう情報

が周りの人達に分かれれば、一ヶ所に集中して大変な思いも少なくなると思います。ガソリン以外にも市内はだめでも、ここなら復旧している等の情報は必要です。

- ・復旧状態の把握がしにくかった。ブルーシートの配布、水道・電気、お風呂、涼み場の提供もあったみたいですが、伝わってはきませんでした。どこでどの位の災害が起きているのか、ライフラインの状態とか分からないし、でも市内の一部には災害らしきものはほぼなかったらしいなど、分からない事だらけでした。

(避難所のプライバシー確保・多様化対応)

- ・避難所でのプライバシーを守る空間を多く確保して欲しいです。インターネット等でも避難所テントのような物を目にします。そういう物や、そもそもの施設の建設、空き家を利用するなど、災害に強い町になって欲しい。
- ・子どもが小さい時（令和元年）、避難所に早めに行ったが、授乳や子どもが飽きてしまって騒いだ時などとても困った。とても心細く感じたので結局自宅に帰った。母子専用の避難所があると心身ともに安心すると思った。
- ・避難所へ避難をする時のハードルの高さ。市内の災害状況の確認情報の確認方法。
- ・房総半島台風の時に小学校の体育館に避難しましたが、毛布や飲み物、食べ物など、持って行きましたが、下に敷くマットを持って行かなかったのが、板の間に毛布を敷いて横になったりしていましたが、痛くて辛かったです。近くにいた年配の方も下に敷く物を持って来なかったらしく、痛くて横になっていられないと言って家に帰りたいたいと言っていました。体育館に避難するにも持つて行く物が多くて、車がある方はまだいいと思いますが、車のない方は大変だと思います。

(避難行動困難者（の多い地域）の取組み)

- ・緊急度は世帯の場所のあり方によって大きく異なる。少しの災害でも直ちに救助が必要となる単身高齢者の世帯は多い。そうした地域における住民の耐力度アップというような形の取り組みが必要でしょう。
- ・障害者に対する設備が全然できていなくて困りました。市役所に電話を掛けたが、避難する場所がなく、仕方なく家にこもりましたが、海が目の前なので、酸素ボンベが必要な人だったのでとても心配でした。
- ・年寄りが多い鴨川では、連絡する事も困っている事も一人ではなかなかできないと思います。行政の早い対応が必要になると思います。普段から把握しておいておくべきだと思います。
- ・防災研修に参加した際に、まずは自助、共助とお話がありました。高齢化率が5割近い市で、やっと生活しているような方ばかりの地域で、災害時どこまで共助できるでしょうか。早い段階から公助が求められると思います。

(交通網遮断時の交通整理・情報提供)

- ・天津で言うと、天津バイパスの崖崩れで天津のまち中の交通渋滞が大変でした。演習村のカーブなど、すれ違えない場所などに整備の人を付けて欲しかった。
- ・冠水や通行止めなどで道がふさがれ、職場から帰れなくなった人が結構いた。情報の遅さもあり、気付いた時には身動きとれない。ライフライン、特に電気に困った人も多かった。なるべく早め早めの対策を作って欲しい。
- ・災害時、避難場所への道路の通行確保ができていないかの、正しい情報が取れず、動くことができなかった。小さい子どもがいるので、避難所での生活は難しいと感じた。バイパス、下の道が通行止めとなり、身動きが取れなかった。

(避難者への物資配給の公平性)

- ・一部の地域に食料等が偏り、差別と思える程の差を感じた。ブルーシートや水、食料の補給の際に、市民に対して平等ではなく、助けを必要とする市民に対しての対応が冷たかった。何をしても平等は大切だと思う。困った人々、被災者には心をもって優しく対応することも。難しいとは思いますが（対応する方も被災者の可能性あり）力を合わせようと思えるように対応していただきたい。
- ・働いているため、食べ物が全く手に入らなかったのが、配布の時間も遅くまでお願いしたいです。

- ・物資の配給が分かりにくかった。地区・地域外の人に来て、もらえなかった。住んでいる地区できちんと住んでいる人が対象とかで、平等にして欲しい。どの地区に住人が何人いるのかは役所のデータで分るのではないかな。それを使って数を確保して配れば良い。なぜ「あっちはないよ、向こうはもらえる」と人に聞いて遠くまで行ったり、諦めなければならないのか。災害時こそ、その地域の備えや底力が実感できると思う。
- ・地域によって支援物資の格差がかなりあった。

(既存通信手段が使えない場合の代替手段確保)

- ・スマホが使えなかった事で家族への連絡ができなかったのも、連絡方法があると良い。
- ・スマホが使えず情報が得られない。
- ・停電の情報量が全く不足（復電状況や予測提供）。停電の事象が分からず不安。もっと防災無線での活用はできないのでしょうか。通信手段断絶が辛く、親族にも心配と迷惑をかけた。災害以降現在に至るもTV等の難視聴地域改善が進んでいない。行政も積極的に関与・提言すべき。

(その他)

- ・物流はおおむね3日間程度で復旧すると、東日本大震災の経験者（岩手）から聞いていたが、鴨川でもほぼ3日間位から支援物資などが届き始めた。届いた物資がスムーズに必要なとしている場所に提供できる様なシステムや段取りがあれば安心（被災している方からも分かりやすい仕組み）。電気はなくても我慢できたが、水は辛い。茂原市など、トレーラーハウス型の移動トイレを導入している。女性や子どもが安心して使えるトイレを準備して欲しい。
- ・令和元年の台風で停電のため断水し、自宅マンションで生活できなかった。幸い親戚に身を寄せることができたが、友人等は年老いた母を連れ、布団や食料、飲み物まで準備して雨の中避難所へ行ったが、人数が限られており、結局、川のそばの自宅へ戻ったといい、又、脳梗塞で体の自由がきかない一人暮らしの人は、裏山が心配でも、一人では逃げられないから諦めている。ペットのいる人達もペット連れでは周りに迷惑をかけるからと避難をしないと聞きました。自分自身は生活物資等を準備し、停電に備え、ポータブル電源や普段から電化製品で充電可能な物はこまめにするなど、何に備えたらいいかも学びましたが、でもどうしても避難が必要な人達は一体どうしたらいいのでしょうか。自然災害の時も皆が諦めずにいられる街であって欲しいと思います。
- ・避難所に行こうとした時点で避難所が定員となっていた。もっと大きい災害のときには対応出来ないのではないかなと思う。

■ 災害後の復旧

(インフラの早期復旧)

- ・停電が長く続き、避難しようとしても避難所自体の安全や整備が整っていなかったことに不安を感じました。普段はスマホで情報を得ることが多いのですが、停電で使えなかった時にアナログでの情報伝達も大切だと思いました。
- ・長い停電でしたが、市からは現状の説明はありませんでした。いよいよ明日通電できるとなった時も、東電の社員のみの説明でした。住民の不満はその場にいた東電の社員が全部かぶっていました。それは違う！と私は思いました。行政の未熟さを感じました。市は災害時には頼れないと、その時から思っています。さびしいことです。貧乏な県は他にもある。現状を縮小することばかりでなく、できる事、今までやったことない事も勇気を持って取り入れて発展させて欲しい。海も山も素晴らしい環境の鴨川市がもったいないと思います。
- ・ライフラインが停止した時の復旧までの目安が、情報として事細かに早くあがってくれたら、停止期間の生活の仕方を色々な面で考えられて良かったと思いました。
- ・前原地区の一部で何日も停電が続いた。東京電力には復旧したと思われていて放置されていた。夏だったので体調を崩した。停電が続いた時などの行政の見回りや、その地区の人が避難した先のホテルなどの補助。

- ・停電や断水が長期間長時間に渡り生活が一変しました。復旧に時間を要する場合、代替手段を素早く構築する必要があります。2024年に台湾で発生した地震の時には避難所の開設から運営までが速やかに行われたようです。災害時には日常では目にすることがない組織力が、住民に安心と生活する力を提供できると思います。

（家屋改修等の経済的支援・ブルーシート配付）

- ・家屋破損の修理は自分の保険で自分の手配で行ったが、市として補助等はどうなっているのか分からなかったの、分かりやすいと助かります。
- ・特に家の屋根被害が多かったこと。自衛隊員さん達が屋根等を直してくれたり、アドバイスをしていました。被害が多くて、職人が少なく年数がかかりました。それに掛かる金額も大変です。
- ・屋根にブルーシートを張ったままの家屋が多く見られた。補助金の対応、業者の不足、資材の不足、原因を把握しておいた方が良い。
- ・屋根瓦が飛んでしまったので、ブルーシートや土嚢袋の配布が大変助かりました。併せてブルーシートを固定するロープの支援があると助かりました。

（仮設住宅の整備・住宅支援）

- ・災害に合い、自宅に住めなくなった時に、災害住宅等に速やかに住めるよう援助して欲しい。発電用の車両の援助が早めにされるよう、手配計画作成が望まれる。
- ・避難場所となる住宅修理、停電・断水の復旧。
- ・山の中にある集落へのライフラインの復旧スピードが遅い。土地が余っているのに仮設住宅の設置がされていない。

（片付け等の人的支援）

- ・一週間程の停電は大変でした（お風呂がダメ、信号なしで真っ暗な国道）。店はもともと古かったのですが、トタン等はほとんど飛んでしまい、爆撃を受けたような大変な状況でした。それらを個人の力で片付ける事は大変で、飛んだトタン等はいまだそのままだけです。片付けて頂けたら助かったと思います。個人ではなかなかできないです。住まいの方の屋根には多くの自衛隊が来て、仮の瓦を付けていただいたので有難かったです。庭木も倒れ、地元の人に切ってもらい、自分でも何日もかけて切りました。大変な状況でした。
- ・ボランティア集結の遅れと運営、自治会の役目の不備、近隣間の助け合いの薄い絆。

（その他）

- ・災害時の住居の被害状況の認定の基準について。申請者、申請の仕方により違いが出てきているのではないかと、被害にあった方からの話で感じました。
- ・木材は短くしないと引き取ってもらえなかったの、廃材処理が大変でした。
- ・福祉協議会の対応に不手際が多く、ボランティアの人達に迷惑をかけました。今後、このような事がないように願います。
- ・罹災証明書を取るのに何度も役所へ行きました。証明を取るのに、何が必要なのか前もって分かっていたら良いのでは。

■ その他

（行政への感謝・鼓舞激励）

- ・基本的に災害が起こってから対応しかできていない。しかも、補助金やそれに伴う対応は酷いものだった。今後このような災害を未然に防ぐような、リフォーム案等の計画もなく、とても期待できない。
- ・災害について、とことん大変な思いをしたのは2019年9月8日です。しかし、これも近年の他の地方の災害に比べれば、大した事はないくらいのもです。これから先、例え大変な思いをする事が起きても、何とか家族で助け合い、又は隣り近所と助け合い、頑張っ行こうと思います。しかし、何といっても役所の方々の知恵や力は重要ですので、よろしくお願いします。

- ・市役所の人達の対応が凄く嫌だった。もう少し市民の気持ちを考えて、一人一人に真心の対応をお願いします。
- ・他の市町村と比べて鴨川市としての支援が全然少ない。他の有事でも同様に他の市町村と比べて支援がない。もう少し災害に対して市民の気持ちを考えて支援してほしい。

(災害体験時の感謝)

- ・家屋の半壊、特に瓦屋根の修理がなかなかできず、ブルーシートの期間が長く、その間も台風、大雨の時があり、雨漏りの心配をしながらの生活が長かった。市からブルーシートを頂けた事はとても助かりました。自衛隊の方々の支援、ボランティアの方々の支援に本当に感謝しました。
- ・市役所でスマホの充電ができて有難かったです。グランドホテルで無料で入浴させて頂いたのも感謝です。アパートですがシャッターが曲がってしまい、修理は被害の大きい所からなので半年後になりました。その間、シャッターを閉めたままで暗く、不便でした。初めての大きな台風被害で戸惑いました。
- ・素晴らしい対応だったと思います。災害ゴミやブルーシート等（支援品）の対応が早く、長期的に行っていただき助かりました。ありがとうございました。
- ・停電が続いたので洗濯ができなかった。親戚の家の電気が復旧していたので助かりました。近隣のホテルがお風呂や食料を提供してくれたので良かったです。

(自身への意識)

- ・共に被災者となる不安。市職員にも家族があり、行政に丸投げではいけない。台湾でのスピード感ある組織はモデルケースになるのではと思う。
- ・まずは「自助」、自分の身は自分で守る姿勢で。次に「共助」。
- ・ライフラインが数日間止まってしまうのは避けられないと思うので、各自で備蓄をするしかない。
- ・家にあった災害用に用意したもので対応できました。日頃の電気のありがたみを知った日々でした。

(その他)

- ・台風13号による近所の空き家の屋根や材木が飛んできて、かなりの被害を受けた。近所に空き家が多いので、行政で見て回って欲しい。
- ・台風があった時は、市役所の方も大変でしょうが、1軒ずつどうですかと声を掛けてもらいたい。
- ・基金が少なくないか。
- ・アンケートに答えさせていただきありがとうございました。回答する者として、どのような回答を求めているのか感じにくい部分がありました。アンケートとしての目的が広いと感じます。市民全体に回答を求めているため、今回のアンケートになってしまうことは承知しておりますが、市側が求めていることを具体的に記載していただけると回答しやすいです。また、回答する側は公文書に触れる機会は少ないため、分かりやすい設問文にいただけると幸いです。

Ⅲ 使用した調査票

鴨川市まちづくりアンケート

鴨川市では、令和8年度を始期とする新たな総合計画を策定するための準備を進めており、その一環として市民皆様にアンケートを実施することと致しました。このアンケートは、地域の課題や市民ニーズを的確に把握することや、行政の取組みに対する満足度について調査することを目的とし、皆様からいただいたご意見は、今後のまちづくりの方向性を定める次期計画の策定に際し、基礎的な資料として活用させていただきます。

ご回答いただいた内容は、統計的に集計処理するため、個人が特定されることはありません。ぜひ、皆様の率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ、誠に恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力をお願い致します。

令和6年12月10日 鴨川市

《記入にあたってのお願い》

1 本調査票で回答の場合

- このアンケートはあて名のご本人が記入ください。あて名のご本人の記入が難しい場合は、ご家族が記入ください。
- 回答の記入は、直接このアンケート調査票にボールペンや濃い鉛筆でしっかりと記入ください。
- 調査票は無記名方式のため、名前を記入する必要はありません。

2 インターネットで回答の場合

- 右記二次元コード（QRコード）から Web 上で回答することができます。Web で回答いただいた場合、この調査票での回答は不要です。



<https://en.surece.co.jp/2024kamogawa>

あなたの Web 回答用

「ID」・「パスワード」

ID : XXXX
パスワード : YYYYYYYY

※URLは、アドレスバーに直接入力し（キーワードを入力する「検索バー」ではありません）、エンターキーを押してください。
※ログイン画面で、「ID」と「パスワード」を入力して、回答を開始してください。

※回答の重複を防ぐためにIDを付番しています。個人が特定されることはありません。

《回答期限・返送方法》

記入いただいた調査票は、**令和7年1月6日（月）まで**に同封の返信用封筒に入れて、ポストに投函ください。（切手不要） Web 上での回答も、上記期限までに回答ください。

《問い合わせ》

このアンケートについて、不明な点や質問などがありましたら、担当までご連絡ください。

鴨川市役所 企画総務部企画政策課企画係 渡邊、小粒

TEL 04 (7093) 7828 FAX 04 (7093) 7851

問1 あなたご自身のことについて、お答えください。該当する番号に○印をつけてください。

性別	1 男性	2 女性	3 その他
年齢	(歳) ※直接、年齢をご記入ください		
出身地	1 鴨川市内 2 千葉県内 (市区町村) 3 千葉県外 (都道府県 市区町村)		
お住まいの 地区	鴨川地区	江見地区	長狭地区
	1 田原地区	5 江見地区	8 大山地区
	2 西条地区	6 太海地区	9 吉尾地区
	3 東条地区	7 曾呂地区	10 主基地区
	4 鴨川地区		
居住 形態	1 持ち家(一戸建て) 5 公的賃貸住宅(県営住宅、市営住宅など) 2 持ち家(分譲マンション) 6 会社の寮や社宅 3 借家(一戸建て) 7 その他() 4 民間賃貸住宅(アパート、賃貸マン ション)		
	就業 状態 1 正社員、正規の職員 4 自営業主、家族従業者 2 無職、専業主婦 5 派遣・嘱託・契約社員 3 学生 6 パート・アルバイト		
	職種 1 農林水産業 7 パート・アルバイト 2 会社員・会社役員 8 家事(主婦・主夫) 3 公務員・団体職員 9 学生 4 自営業(商店・工場・家族従業者含む) 10 無職 5 専門職(医師・弁護士・税理士など) 11 その他 6 自由業(作家・芸術家など時間等の () 制約が少ない職)		
	ご家族の 構成 1 ひとり暮らし世帯 4 三世代世帯(親・子・孫) 2 一世代世帯(夫婦のみ) 5 四世代世帯(親・子・孫・曾孫) 3 二世代世帯(親・子) 6 その他()		
子どもの 人数	1 1人	3 3人	5 その他(人)
	2 2人	4 4人	6 いない

問2 鴨川市の取り組みについておたずねします。

あなたは、鴨川市の各種施策の現状について、どの程度満足していますか。最もお考えに近いものを1つずつ選んで、番号に○印を付けてください。【1つずつ○】

項 目	満足度				
	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
行政運営					
(1)行財政運営の効率化及び健全化	1	2	3	4	5
(2)市有財産の適正な管理	1	2	3	4	5
(3)広報誌・ホームページによる市政情報の発信及び市民からの意見聴取	1	2	3	4	5
安心・安全					
(4)自然災害に対する防災対策の充実（避難所の整備など）	1	2	3	4	5
(5)公害防止などの環境保全施策の推進	1	2	3	4	5
(6)ごみ処理体制・リサイクル体制や施設の整備充実	1	2	3	4	5
(7)省エネルギー化、再生可能エネルギーの活用など地球温暖化対策の推進	1	2	3	4	5
(8)花壇の設置など環境美化の推進	1	2	3	4	5
交流・協働					
(9)地区コミュニティ施設の充実や地域活動の促進	1	2	3	4	5
(10)市民と行政との協働によるまちづくりの推進	1	2	3	4	5
(11)国際交流、姉妹・友好都市との交流活動の促進	1	2	3	4	5
(12)大学との連携・協働による地域課題などへの取り組みの促進	1	2	3	4	5
(13)小中学校の統廃合に伴う廃校など遊休施設の有効活用	1	2	3	4	5
健康・福祉					
(14)地域における健康づくり活動の促進	1	2	3	4	5
(15)保育サービスの充実、施設の整備	1	2	3	4	5
(16)子育て支援施策の促進	1	2	3	4	5
(17)高齢者施策の充実（見守り・支え合いの仕組みづくりなど）	1	2	3	4	5
(18)障害者施策の充実（自立支援、バリアフリー化の推進など）	1	2	3	4	5
産業・経済					
(19)商工業の振興（企業の支援など）	1	2	3	4	5
(20)消費者トラブルや悪質商法などへの対応の充実	1	2	3	4	5
(21)農業の振興（生産基盤整備、担い手育成、有害鳥獣対策など）	1	2	3	4	5
(22)水産業の振興（漁港の整備、水産資源の増繁殖の促進など）	1	2	3	4	5
(23)医療・福祉産業の振興	1	2	3	4	5
(24)移住・定住の促進（住宅の取得の支援、U・I・Jターンの推進など）	1	2	3	4	5
(25)雇用対策の推進（ハローワークの機能充実、求人情報の提供など）	1	2	3	4	5

項 目	満足	やや満足	どちらともいえない	やや不満	不満
(26) 観光客を誘致するための取組	1	2	3	4	5
(27) スポーツ施設の整備充実	1	2	3	4	5
生活基盤					
(28) 国・県道など幹線道路網の整備促進	1	2	3	4	5
(29) 市道の新設・改良（舗装・側溝整備・拡幅など）	1	2	3	4	5
(30) 市道の維持管理（舗装・側溝・安全施設・橋・トンネルなど）	1	2	3	4	5
(31) 公共交通の充実（鉄道・高速バス・市内路線バスの利用しやすさ）	1	2	3	4	5
(32) 都市計画マスタープランに基づく計画的な土地利用の推進	1	2	3	4	5
(33) 住民の憩いの場の整備充実（公園・緑地・水辺など）	1	2	3	4	5
(34) 住宅・住環境の整備支援（耐震診断、リフォーム支援、生活排水、雨水排水など）	1	2	3	4	5
教育・文化					
(35) 学校教育の充実	1	2	3	4	5
(36) 生涯学習の充実	1	2	3	4	5
(37) 市民の芸術・文化活動の振興	1	2	3	4	5

問3 現在、あなたはどの程度幸せですか。

「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。【1つに○】

とても幸せ										とても不幸	
10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点	

問4 あなたの町内(集落)の人々は、どれくらい幸せだと思いますか。

「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。【1つに○】

とても幸せ										とても不幸	
10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点	

問5 自分だけでなく、身近な周りの人も楽しい気持ちでいると思いますか。

「非常にあてはまる」を5点、「まったくあてはまらない」を1点とすると、何点くらいになると思いますか。【1つに○】

非常にあてはまる				まったくあてはまらない	
5点	4点	3点	2点	1点	

問6 鴨川市に誇りや愛着を持っていますか。【1つに○】

- | | |
|--------------|--------------|
| 1 はっきりと持っている | 4 ほとんど持っていない |
| 2 漠然と持っている | 5 まったく持っていない |
| 3 どちらともいえない | 6 よくわからない |

問7 鴨川市は住みやすいと思いますか。【1つに○】

- | | |
|-------------|------------|
| 1 とても住みよい | 4 住みにくい |
| 2 まあまあ住みよい | 5 とても住みにくい |
| 3 どちらともいえない | |

問8 これからも鴨川市に住み続けたいと思いますか。【1つに○】

- | | |
|-------------|---------------------|
| 1 ずっと住み続けたい | 3 市外の別の場所にやがては転居したい |
| 2 当分は住み続けたい | 4 すぐにでも転居したい |

問9 現在、あなたの住んでいる地域の暮らしにどの程度満足していますか。

「とても満足」を10点、「とても不満足」を0点とすると、何点くらいになると思いますか。【1つに○】

とても満足										とても不満足
10点	9点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点	0点

問10 あなたの地域の住み心地について、お聞きます。

回答欄①: お住まいの地域の周辺についてどの程度、満足していますか。

最もお考えに近い内容を回答欄①から1つ選んで、○印を付けてください。

回答欄②: 今後、まちづくりを進めていく上でどの程度、重要と思われますか。

最もお考えに近い内容を回答欄②から1つ選んで、○印を付けてください。

住み心地に関する内容 (すべての項目についてお答えください)		回答欄① (現状の満足度)				回答欄② (今後の重要度)			
		満 足	やや 満 足	やや 不 満	不 満	と て も 重 要	やや 重 要	あまり 重 要 で ない	重 要 で ない
記入例)「やや満足」で「とても重要」な場合		1	②	3	4	①	2	3	4
利 便 性	(1)鉄道(駅)の利用しやすさ	1	2	3	4	1	2	3	4
	(2)路線バスの利用しやすさ	1	2	3	4	1	2	3	4
	(3)高速バスの利用しやすさ	1	2	3	4	1	2	3	4
	(4)自動車の利用しやすさ(幹線道路の整備状況)	1	2	3	4	1	2	3	4

住み心地に関する内容 (すべての項目についてお答えください)		回答欄① (現状の満足度)				回答欄② (今後の重要度)			
		満 足	やや 満足	やや 不満	不 満	とても 重要	やや 重要	あまり 重要でない	重要 でない
快適性	(5) 自然景観の豊かさ・美しさ	1	2	3	4	1	2	3	4
	(6) お住まいの周辺の土地の使われ方	1	2	3	4	1	2	3	4
	(7) 騒音などの公害の少なさ	1	2	3	4	1	2	3	4
安全性	(8) 身近な道路の安全性（道路の幅や歩道の有無）	1	2	3	4	1	2	3	4
	(9) 公共施設の段差解消や手すりの使いやすさ	1	2	3	4	1	2	3	4
	(10) 地震・水害などの自然災害に対する安全性	1	2	3	4	1	2	3	4
デジタル化	(11) 行政サービスのデジタル化	1	2	3	4	1	2	3	4
	(12) 仕事や日常生活の場でのデジタルサービスの利用しやすさ	1	2	3	4	1	2	3	4

問11 市が行政サービスのデジタル化を推進するに当たり、実現してほしいサービスはありますか。【3つまで○】

- 1 パソコンやスマートフォンから申請や届出などの手続きができる
- 2 税金、証明書や施設の料金などがキャッシュレスで支払いできる
- 3 市役所から必要な情報がスマートフォン等に配信される
- 4 調べたいことがホームページで簡単に見つかり、解決できる
- 5 24 時間いつでもオンラインで市役所に問合せができる
- 6 SNS等を利用して、市政に意見や考えを伝えることができる
- 7 人口統計などオープンデータをホームページから閲覧、利用できる
- 8 風水害や地震などの災害情報や防犯情報がリアルタイムで配信される
- 9 市役所の1か所の窓口で全ての手続きが完結できる
- 10 施設や公園の混雑状況をインターネットで確認できる
- 11 市役所が提供する地図情報で施設や避難所の情報が確認できる
- 12 助成金や補助金などを1つのサイトでまとめて確認できる
- 13 市の施設でテレワークができる
- 14 契約事務がデジタルで完結できる
- 15 その他（
- 16 特になし

問12 鴨川市で生活していて、不便に感じていることや困っていることはありますか。あてはまる番号を3つまで選んで○印を付けてください。【3つまで○】

1 公共の交通機関が少ない	11 保健・医療・介護・福祉面の支援が十分に受けられない
2 高速道へのアクセスが悪い	12 公共施設が充実していない
3 観光シーズンなどに交通渋滞が発生しやすい	13 子どもの教育環境に不安を感じる
4 交通安全対策や生活道路の整備が遅れている	14 生涯学習の場や機会が少ない
5 買い物、娯楽などの生活に関係する施設が少ない	15 治安が悪い
6 公害や騒音など衛生環境が悪い	16 古いしきたりや近所づきあいがわずらわしい
7 仕事や雇用の場が少ない	17 台風・地震などの自然災害が心配である
8 公共料金や家賃が高い	18 その他（ ）
9 バリアフリー対策が十分でない	19 特にない
10 子育て支援が十分でない	

問13 現在、あなたは結婚していますか。【1つに○】

1 未婚 → 問14、問15へ	2 既婚 → 問16へ	3 離別・死別 → 問15へ
-----------------	-------------	----------------

(問13で、「1」に○をつけた方に伺います。)

問14 どのような理由で結婚していませんか。【1つに○】

1 必要性を感じない	5 安定した仕事に就いていない
2 結婚後の幸せについて想像できない	6 経済的な余裕がない
3 今の生活が充実している	7 婚約中、結婚を考えている
4 異性にめぐり合う機会がない	8 その他（ ）

(問13で、「1」または「3」に○を付けた方に伺います。)

問15 将来の結婚の希望について、ご回答ください。【1つに○】

1 結婚したいと思う	→ 結婚したいと思う年齢をご記入ください（ ）歳
2 結婚したいと思わない	

(再び、全員に伺います。)

問16 理想とする子どもの数は何人ですか(子育て中の方は、既にいるお子さんの数を含みます)。【1つに○】

1 1人	3 3人	5 その他（ ）人
2 2人	4 4人	6 いなくてもいい

問17 理想とは別に、現実に持てると思う子どもの数は何人ですか(子育て中の方は、既にお子さんの数を含みます)。【1つに○】

1 1人	3 3人	5 その他(人)
2 2人	4 4人	6 0人

問18 子育てしやすい環境をつくるには、どのような支援があればよいと思いますか。【3つまで○】

1 子育てを地域で見守るコミュニティの充実	8 企業による育休明けの働き方に関する支援
2 子育てに関する相談、サポート体制の充実	9 子育てがしやすい税制や社会保障
3 育児に関するセミナーなどの開催	10 育児や住宅に対する資金貸与や補助支援
4 育児休暇制度の充実(期間の延長など)	11 長時間労働の是正、有給休暇の取得促進など、育児時間の確保
5 男性の育児休暇取得の推奨	12 支援は必要ない
6 子どもの人数に応じた経済的な支援	13 その他()
7 保育所などの預け先の施設の充実	

問19 鴨川市が子育てしやすいまちになるためには、何が重要だとお考えですか。特に重要だと思うものを1つだけ選んで番号に○印をつけてください。【1つに○】

1 出産から子育て期間の経済的な支援
2 雇用の確保による経済的な安定
3 結婚・妊娠・子育てに関する地域の理解と支援
4 子育てに関する相談機関
5 安心して妊婦や子どもが相談できる医療機関の充実
6 放課後でも安心して子どもが過ごすことのできる施設やサービス
7 その他()

問20 鴨川市の人口は30,107人(2024年10月1日現在)から2050年には22,407人まで減少すると予測されています。鴨川市の人口が減少することについて、あなたはどのように考えていますか。【1つに○】

1 人口減少は望ましくなく、現在より増加するよう努力すべき
2 人口減少は望ましくなく、現在の人口水準を維持すべき
3 人口減少はやむを得ないが、なるべく減少に歯止めをかけるべき
4 人口減少はやむを得ないので、それを前提にしたまちづくりを行うべき
5 その他()

問21 鴨川市の魅力や誇りと感じ、また、これからのまちづくりに生かしていくべき持ち味(特色)は何だと思いますか。お考えに近いものを2つまで選んで、番号に○印をつけてください。

【2つまで○】

- | | |
|------------------------|------------------------|
| 1 温暖な気候と豊かな自然環境 | 9 野山や海岸線などの景観 |
| 2 良質かつ新鮮な農林水産物 | 10 充実したスポーツ施設 |
| 3 充実した保健・医療・福祉環境 | 11 著名な名刹や歴史的な文化財 |
| 4 特色ある教育環境 | 12 地域の伝統行事や地域文化 |
| 5 4年制大学や高度な教育研究関連施設の立地 | 13 知名度の高い観光施設と充実した宿泊施設 |
| 6 地域での助け合いや連帯感 | 14 首都圏や羽田・成田空港に近い立地環境 |
| 7 豊富な食材とおいしい食べ物 | 15 わからない |
| 8 良好な移住環境 | 16 その他（ ） |

問22 鴨川市は、将来どのようなまちになったら良いと思われますか。

お考えに近いイメージを3つまで選んで、番号に○印を付けてください。【3つまで○】

- | | |
|-------------------------------|---------------------------------|
| 1 自然環境・景観を大切にする都市 | 14 災害に強い都市 |
| 2 農林漁業が盛んな都市 | 15 住民活動が盛んな都市 |
| 3 商業施設が集積した県南の中核都市 | 16 郷土の歴史・文化を大切にする都市 |
| 4 製造工業が盛んな都市 | 17 高齢者の居住環境が整った都市 |
| 5 交通・交流の拠点都市 | 18 スポーツ環境が充実した都市 |
| 6 良好な住宅地が整った都市 | 19 国際・地域間交流が盛んな都市 |
| 7 地域資源を活かした観光の都市 | 20 世代間コミュニティが盛んな都市 |
| 8 保健・医療・介護・福祉が充実した都市 | 21 子どもや高齢者を大切にする都市 |
| 9 子育て支援の充実した都市 | 22 財政基盤の安定した都市 |
| 10 首都圏への通勤都市 | 23 バリアフリーの整備された都市 |
| 11 特色ある町並み景観が整備された都市 | 24 自然・再生可能エネルギーを活かした地球環境に配慮した都市 |
| 12 郷土を愛する心を育む教育環境の充実した都市 | 25 道路や公園など社会資本が整備された都市 |
| 13 多種多様な学習が展開される生涯学習環境が充実した都市 | 26 その他（ ） |

**問23 鴨川市がこれから10年間で特に力を入れて取り組む必要があることは何だと考えますか。
あてはまる番号を3つまで選んで○印をつけてください。【3つまで○】**

1 住宅対策・公営住宅の整備	12 小中学校の教育環境	22 農村環境の整備
2 水道の整備	13 障害者福祉の充実	23 商業の振興・商店街の活性化
3 ごみの収集・リサイクル	14 高齢者福祉の充実	24 企業の誘致・雇用の促進
4 河川や水辺の環境整備	15 介護施設の整備	25 観光の振興
5 防災対策	16 青少年の健全育成	26 移住・定住の促進
6 公園・緑地の整備	17 文化・スポーツ・生涯学習の推進	27 地域活動・コミュニティへの支援
7 道路の整備・維持管理更新	18 国際交流の充実	28 大学の誘致
8 公共交通網の整備	19 農林水産業の振興	29 行政情報などの発信
9 交通・防犯	20 有害鳥獣対策	
10 保健・医療環境	21 森林環境の整備	
11 子育ての環境や支援		

問24 あなたが考える鴨川市の「強み」と「課題」は何ですか。自由にご記入ください。

(強み)	(課題)

問25 鴨川市が今後目指すべきまちづくりの方向性や、人口減少への対応などにご提案がありましたらご記入ください。

ここからは災害時の助け合いに関することを伺います。

**問26 災害の発生に備え、何を準備していますか。あてはまるものすべてに○印をつけてください。
【いくつでも○】**

1 非常持ち出しバック	5 ハザードマップの確認
2 家族の安否確認方法	6 家具の配置など家の中の安全対策
3 飲料、食料の備蓄	7 その他（ ）
4 避難所や避難経路の確認	8 特にない

問27 災害が発生した時にその被害を軽減するため取る対応として重要なことは何ですか。

【1つに○】

※自分や家族で身を守るのが「自助」、地域住民やボランティアで助け合うのが「共助」、市役所など公的機関による支援が「公助」

- | | |
|--------------|-----------------|
| 1 自助に重きを置く対応 | 4 自助・共助・公助のバランス |
| 2 共助に重きを置く対応 | 5 その他（ ） |
| 3 公助に重きを置く対応 | |

問28 災害が発生した時に、行政のほかに頼れる組織は何ですか。【1つに○】

- | | | |
|-----------|-----------|------------|
| 1 自治会や隣近所 | 4 職場 | 7 ボランティア組織 |
| 2 自主防災組織 | 5 市内にある企業 | 8 その他（ ） |
| 3 消防団 | 6 友人 | 9 頼れる組織はない |

問29 災害が発生し、近所で助け合いが必要となった場合、あなたができることは何ですか。あてはまるものに○印をつけてください。【いくつでも○】

- | | | |
|------------|--------------|-------------|
| 1 救助活動 | 5 負傷者のケア | 9 自宅スペースの提供 |
| 2 消火活動 | 6 高齢者や障害者のケア | 10 その他（ ） |
| 3 避難所の運営 | 7 炊き出し | 11 何もできない |
| 4 安否確認や声かけ | 8 井戸水の提供 | |

問30 災害が発生した場合の緊急避難場所や自宅から一番近い避難所の場所を知っていますか。

【1つに○】

- | |
|-------------------------------------|
| 1 緊急避難場所も自宅から一番近い避難所の場所も知っている |
| 2 緊急避難場所は知っているが、自宅から一番近い避難所の場所は知らない |
| 3 緊急避難場所は知らないが、自宅から一番近い避難所の場所は知っている |
| 4 知らない |

※緊急避難場所：災害が発生、または発生のおそれがある場合、一時的な避難が必要な時に身の安全を確保する場所

※避難所：災害の危険性があり避難した住民、または災害により家に帰れなくなった住民などが、一定期間滞在するための施設

問31 令和元年房総半島台風や令和5年台風第13号などによる災害の時に、どのようなことを不安に感じましたか。【〇はいくつでも】

1 家族の安否や連絡手段	8 自宅の被害(降雨による浸水・土砂崩れなど)
2 避難先の確保	9 生活道路の通行確保
3 避難所での生活	10 情報の収集
4 在宅避難による生活	11 犯罪の発生
5 食料や水など生活物資の確保	12 その他（ ）
6 停電や断水などライフラインの停止	13 特にない
7 トイレが使えなかったこと	

問32 令和元年房総半島台風や令和5年台風第13号などによる災害について、課題や改善点、行政に対する意見などがありましたらお聞かせください。

質問は以上となります。ご協力ありがとうございました。

※調査票は同封の返信用封筒により **令和7年1月6日(月)まで**に、ポストに投函してください。(切手不要)

令和6年度
鴨川市まちづくりアンケート
調査結果報告書

令和7年3月

【発行】鴨川市役所 企画総務部企画政策課企画係
TEL 04 (7093) 7828